

V 鏑木清方に関する資料

1 鏑木清方に関する文献目録

凡例

一、この目録は、柏木智雄編『鏑木清方関連書誌』『鏑木清方画集 資料編』(ビジョン企画出版社、1998年)ほか、過去の鏑木清方展図録や、国立国会図書館、鎌倉市鏑木清方記念美術館での調査を元に作成した。団体展、図版のみ掲載の各種展覧、グループ展の目録類、美術館所蔵品等の目録、解説などのない口絵・装丁、諸展覧会評のうち直接鏑木清方に言及していないもの、一部元資料の確認ができないもの、海外の文献は割愛した。なお、旧字は原則として現在の新字に統一した。

二、本目録は次の項目で構成される。

I 画集

II 展覧会図録

(一) 鏑木清方展

(二) 関連展覧会

III 鏑木清方自筆文献、対談ほか

(一) 単行書

(二) 逐次刊行物

IV 作品評、鏑木清方論等

(一) 評論・エッセイ等

(二) 研究論文

(三) 研究書等

(四) 対談

(五) 海外文献(鏑木清方関連)

V 鏑木清方自筆文献単行書の所収

三、使用した記号は下記のとおり。

(※下記の記号に「+」で月報を示す。例:b6g 鏑木清方文集 6月報)

ag:紫陽花舎随筆

as:蘆の芽

az:東なまり

b1:鏑木清方文集 一 制作餘談

b2:鏑木清方文集 二 明治追憶

b3:鏑木清方文集 三 先人後人

b4:鏑木清方文集 四 春夏秋冬

b5:鏑木清方文集 五 名所古跡

b6:鏑木清方文集 六 時社風俗

b7:鏑木清方文集 七 畫壇時事

b8:鏑木清方文集 八 隨時時感

eg:繪具筥

ds:道中硯

gb:畫房隨筆

gg:鏑木清方繪入本 御濤端

gk:菊池寛編『現代文章軌範』

gs:銀砂子

gz:群像 日本の作家 5 泉鏡花

k1:こしかたの記

k2:續こしかたの記

kg:鏡花全集 月報

k4:鏡花全集 四巻

k28:鏡花全集 二八巻

(k4g:鏡花全集 4月報)

kt:巨匠との対話

kz:新装一きもの随筆—

nk:文学に見る日本の川

n32:日本美術院百年史 三巻下(資料編)

rs:連翹

rt:靈華追悼畫集

sk:四季しのぶ草

ss:清方隨筆選集

tb:昭和・物故の美術家たち 追悼文集

tf:木村莊八『東京の風俗』

tg:築地川

ts:褪春記

yg:安田靉彦『画想』

yk:柳小紋

zm:隨筆集・明治の東京

zt:鏑木清方隨筆集—東京の四季—

za:紫陽花舎隨筆(講談社文芸文庫)

叢1:鏑木清方記念美術館 収蔵品図録 —作品編—

叢2:鏑木清方記念美術館 収蔵品図録 —卓上芸術編(一) 明治・大正期—

叢3:鏑木清方記念美術館 収蔵品図録 —卓上芸術編(二) 昭和期—

叢4:鏑木清方 挿絵図録 —文藝俱樂部編(一)—

叢5:鏑木清方 挿絵図録 —文藝俱樂部編(二)—

叢6:鏑木清方 挿絵図録 —東北新聞編・講談雑誌編—

叢7:鏑木清方 挿絵図録 —泉鏡花編—

叢8:鏑木清方 展覧会・挿絵図録 —鳥合会と『新小説』の時代—

叢9:鏑木清方 展覧会・挿絵図録 —官展(文展・帝展・日展)への出品作—

叢10:鏑木清方の系譜 —師水野年方から清方の弟子たちへ—

叢11:鏑木清方と七絃会 —安田靉彦、小林古徑、前田青邨、菊池契月、土田麦僊、平福百穂、速水御舟、西村五雲とともに—

叢12:鏑木清方の芝居絵

叢13:鏑木清方の美人画 —樋口一葉著作関係及び『婦人世界』『婦人公論』関係作品所収—

叢14:鏑木清方の隨筆『こしかたの記』を読む その一 —『報知新聞』明治・大正初期関連作品所収—

叢15:鏑木清方と硯友社 —尾崎紅葉・泉鏡花・山岸荷葉著作関連作品所収—

叢16:鏑木清方記念美術館 収蔵品図録

叢17:鏑木清方の隨筆『こしかたの記』を読む その二 —『報知新聞』大正期掲載挿絵及び関連口絵所収—

叢18:鏑木清方と珊瑚会 西山翠嶂、西村五雲、松岡映丘、菊池契月、結城素明、上村松園、小杉放菴とともに —『報知新聞』大正期掲載挿絵等所収—

叢19:鏑木清方の隨筆『續こしかたの記』を読む その一 —『九州日報』掲載挿絵等所収—

叢20:鏑木清方の隨筆『續こしかたの記』を読む その二 —『讀賣新聞』掲載挿絵等所収—

叢21:鏑木清方と金鈴社 吉川靈華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに —『中央美術』『新浮世絵講義』関係資料所収—

叢22:鏑木清方と昭和の美人画 —青衿会及び『婦人画報』関係作品所収—

叢23:清方が描いた子どもの世界 —『少年世界』『少女世界』『少年界』『少女界』掲載口絵等所収—

I 画集

鐺木清方・菊池清(幽芳)編『百合子画集 上・下』金尾文淵堂、1914年5月
鐺木清方『清方美人画譜』日本美術学院、1914年5月、叢2、叢21
『清方 百穂 団扇絵』榎原直次郎、1918年6月
鐺木清方『美人画選集』日本美術学院、1919年
鐺木清方(編集委員代表)『現代作家美人画全集 上・中・下』藤澤社、1932年
泉鏡花著・鐺木清方画『註文帳画譜 一集』新小説社、1935年
泉鏡花著・鐺木清方画『註文帳画譜 二集』新小説社、1935年
泉鏡花著・鐺木清方画『註文帳画譜 三集』新小説社、1935年
泉鏡花著・鐺木清方画『註文帳画譜 四集』新小説社、1936年
座右宝刊行会編『現代日本美術全集 第5巻』角川書店、1955年
鐺木清方『にこりえ』美術出版社、1957年、叢3
清方画集編集委員会編『清方画集』清方画集刊行会(発売:美術出版社)、
1957年11月
鐺木清方、中村溪男編『現代作家デッサン 第三十集 鐺木清方』芸艸堂、
1959年10月
松屋本社企画部編『鐺木清方自選展図録』三彩社、1962年5月
鐺木清方・菅橋彦編『東京と大阪』毎日新聞社、1962年6月、叢3
鈴木進『講談社版 日本近代絵画全集 第21巻 鐺木清方 平福百穂』
講談社、1962年10月
鐺木清方、制作監修:東山魁夷『画集 鐺木清方』毎日新聞社、1971年10月
竹田道太郎編『日本の名画19 鐺木清方』講談社、1973年7月
井上靖・河北倫明・高階秀爾編『日本の名画10 鐺木清方』中央公論社、
1975年12月
鈴木進・宮川謙一・谷川徹三・河北倫明監修『現代日本の美術 第3巻
鐺木清方/山口蓬春』集英社、1976年5月
福永重樹、座右宝刊行会編『現代日本美人画全集 第2巻 鐺木清方』
集英社、1977年10月
『鐺木清方の世界 美人画明治風俗』(毎日グラフ デラックス別冊)毎日
新聞社、1978年4月
井上靖・河北倫明・高階秀爾編『カンヴァス日本の名画10 鐺木清方』
中央公論社、1978年11月
小林忠編『日本画素描大観 三 鐺木清方』講談社、1981年2月
佐々木直比古、相賀徹夫編『現代日本絵巻全集 第6巻 鐺木清方/松岡
映丘』小学館、1984年2月
小島茂編『美術特集 鐺木清方』(アサヒグラフ別冊 1986 夏)朝日新聞社、
1986年8月
新集社編『鐺木清方 その生涯と作品と創造の源(分冊百科シリーズ 日本絵
画の巨匠たち)』(週刊アーティスト・ジャパン ARTISTS JAPAN 26)同朋
舎出版、1992年8月
河北倫明・平山郁夫監修、大塚雄三編『巨匠の日本画(6)鐺木清方』学習
研究社、1994年4月
池内紀、日本アートセンター編『新潮日本美術文庫 31 鐺木清方』
新潮社、1997年3月
『鐺木清方画集』ビジョン企画出版社、1998年8月
『芸術新潮 (特集)鐺木清方が描き、語る私の東京ものがたり』50巻4号、
新潮社、1999年4月
『おんなえ: 近代美人版画全集』阿部出版、2000年10月
『鐺木清方 逝きし明治のおもかげ』(別冊 太陽 日本のこころ152)
平凡社、2008年4月
内田武夫・島田康寛監修『美人画の系譜 鐺木清方と東西の名作百選 :
福富太郎コレクション』青幻舎、2009年1月
加藤類子監修『美人画の四季 一松園、清方、恒富から麦僮まで 培広庵
コレクション』青幻舎、2012年4月
小川知子・南由紀子編『ジャパン・ビューティ 描かれた日本美人 知ら

れざるプライベートコレクション』アートシステム、2013年3月
加藤類子監修『美人画の雪月花』橋本広告事務所、2018年6月
鶴見香織監修・執筆『鐺木清方原寸美術館 100%KIYOKATA!』小学館、
2019年10月
鎌倉市鐺木清方記念美術館・鶴見香織監修『鐺木清方美人画集成』小学
館、2022年3月
『鐺木清方: 市井に生きたまなざし (別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡
社、2022年3月
『芸術新潮 (特集)鐺木清方 語りはじめる美人画』73巻4号、新潮社、
2022年4月

II 展覧会図録

(一) 鐺木清方展

『鐺木清方個人展覧会「月雪花」図録』1938年10月、[会場 長堀橋・高
島屋(大阪)]
『鐺木清方新作展』三越美術部、1950年11月、[会場 三越美術部(東京)]
『鐺木清方画業五十年展 深水代表作併陳』朝日新聞社、1950年11月
『鐺木清方回顧展目録』神奈川県立近代美術館、1954年4月
『鐺木清方自選展』朝日新聞社、1962年5月、[会場 銀座松屋(東京)]
『鐺木清方展』朝日新聞社、1965年10月、[会場 横浜高島屋(神奈川)]
『鐺木清方 今様絵詞の会』1969年10月、[会場 日本橋・高島屋(東京)]、叢3
『毎日新聞創刊百年記念 鐺木清方展』毎日新聞社、1971年10月、
[会場 銀座松屋(東京)]
『特別陳列 回想の清方 その一』サントリー美術館、1973年2月、[会場
サントリー美術館(東京)]
『特別陳列 回想の清方 その二』サントリー美術館、1974年1月、[会場
サントリー美術館(東京)]
『特別陳列 回想の清方 その三』サントリー美術館、1975年1月、[会場
サントリー美術館(東京)]
『近代日本画の巨匠 鐺木清方展 生誕百年記念』京都新聞社、1977年9
月、[会場 京都市美術館(京都)]
鈴木進・瀬木慎一・山田肇監修『鐺木清方展』朝日新聞社、1982年1月、
[会場 新宿・小田急(東京)、阿倍野・近鉄(大阪)、三ノ宮・そごう(兵庫)]
『美人画の巨匠——鐺木清方展』1985年4月、[会場 高岡市立美術館
(富山)、尾道市立美術館(広島)、高知県立郷土文化会館(高知)]
『鐺木清方展』横浜美術館、1990年1月、[会場 横浜美術館(神奈川)]
『没後20年記念 鐺木清方展』朝日新聞社、1992年1月、[会場 日本橋・
高島屋(東京)、なんば・高島屋(大阪)]
『鐺木清方展』南日本新聞社/名都美術館、1993年2月、[会場 鹿児島
市立美術館(鹿児島)、名都美術館(愛知)]
『鐺木清方展』京都新聞社、1993年4月、[会場 静岡県立美術館(静岡)、
岡山県立美術館(岡山)、滋賀県立美術館(滋賀)]
『受贈記念 鐺木清方展』鎌倉国宝館、1994年10月、[会場 鎌倉国宝館
(神奈川)]
『一所蔵作品による一開館記念 鐺木清方展』鎌倉市鐺木清方記念美術
館、1998年4月、[会場 鐺木清方記念美術館(神奈川)]
『清方ゑがが肖像画』鎌倉市鐺木清方記念美術館、1998年10月、[会場
鐺木清方記念美術館(神奈川)]
『清方の描いた女性たち—雑誌「苦楽」の表紙にみる—』鎌倉市鐺木清方
記念美術館、1999年9月、[会場 鐺木清方記念美術館(神奈川)]
『鐺木清方展』東京国立近代美術館/読売新聞社、1999年3月、[会場
東京国立近代美術館(東京)]
『四季の女性』鎌倉市鐺木清方記念美術館、2000年9月、[会場 鐺木清
方記念美術館(神奈川)]
『鐺木清方名作集 鎌倉市鐺木清方記念美術館開館十周年記念図録』鎌
倉市鐺木清方記念美術館、2008年3月、[1998~2007年度開催特別

展借用作品等収録)
『春の特別展作品選集』鎌倉市鐮木清方記念美術館、2009年4月、〔会場 鎌倉市鐮木清方記念美術館〕
『清方ノスタルジア 名品でたどる 鐮木清方の美の世界』サントリー美術館、2009年11月、〔会場 サントリー美術館(東京)〕
『鐮木清方名作集 鎌倉市鐮木清方記念美術館開館十五周年記念図録』鎌倉市鐮木清方記念美術館、2013年3月、〔2008～2012年度開催特別展借用作品等収録〕
『追憶の美人 日本画家 鐮木清方』佐野美術館、2014年4月、〔会場 佐野美術館(静岡)〕
『鐮木清方と江戸の風情』千葉市美術館、2014年9月、〔会場 千葉市美術館(千葉)〕
『鐮木清方名作集 鎌倉市鐮木清方記念美術館開館二十周年記念図録』鎌倉市鐮木清方記念美術館、2018年3月、〔2013～2017年度開催特別展借用作品等収録〕
『鐮木清方 一清くあれ、潔くあれ、うろははしくあれ』名都美術館、2019年10月、〔会場 名都美術館(愛知)〕
『没後50年 鐮木清方展』東京国立近代美術館、2022年3月～7月、〔会場 東京国立近代美術館(東京)・京都国立近代美術館(京都)〕

(二)関連展覧会

『清方深水名作美人画展』大阪読売新聞社、1957年5月、〔会場 阿倍野・近鉄百貨店(大阪)〕
『金鈴社の画家たち 鐮木清方 吉川靈華 平福百穂 松岡映丘 結城素明』京都国立近代美術館、1977年5月
『今村紫紅・速水御舟・松岡映丘・鐮木清方……日本画の前衛たち』東京都美術館、1986年10月、〔会場 東京都美術館(東京)〕
『近代日本画 東西の巨匠たち』京都新聞社、1987年5月
『名都美術館本館開館記念特別展 麗しの風姿—三代巨匠美人画展—』財団法人林美術財団、1992年5月、〔会場 名都美術館(愛知)〕
『大正期の日本画 金鈴社の五人展』練馬区美術館/新潟県立近代美術館、1995年11月、〔会場 練馬区立美術館(東京)、新潟県立近代美術館(新潟)〕
『本郷座の時代—記憶のなかの劇場・映画館—』文京ふるさと歴史館、1996年10月、〔会場 文京ふるさと歴史館(東京)〕
『明治日本画の新情景 ひと・まち・しぜん』山口県立美術館、1996年12月、〔会場 山口県立美術館(山口)〕
『名都美術館名品展 松園、清方、深水を中心に』朝日新聞社文化企画局大阪企画部、1999年5月、〔会場 名都美術館(愛知)〕
『美人画の系譜展 上村松園・鐮木清方・伊東深水』南日本新聞社、1999年1月〔会場 鹿児島市立美術館(鹿児島)〕
『清方と深水・紫明展』神戸新聞社、1999年4月、〔会場 明石市立文化博物館(兵庫)〕
『歌川國芳一門の全貌展:國芳から晁齋、芳年、清方へ』総合美術研究所/北海道立旭川美術館、2000年9月、〔会場 北海道立旭川美術館(北海道)〕
『20世紀を生きた日本画の巨匠展 ～生きることは描くこと～』日本経済新聞社、2000年3月、〔ジェイアール名古屋タカシマヤ(愛知)〕
『ファミリー美術館 子供の世界—遊びと暮らし—』茨城県近代美術館、2000年8月、〔会場 茨城県近代美術館(茨城)〕
『没後百年 三遊亭王朝とその時代展』早稲田大学演劇博物館、2000年6月、〔会場 早稲田大学演劇博物館(東京)〕
『女性美の500年—描かれたイメージ 西洋と日本』東京富士美術館、2001年11月、〔会場 東京富士美術館(東京)〕
『特別展 お夏清十郎ものがたり』姫路文学館、2002年12月、〔会場 姫路文学館(兵庫)〕
『上村松園 鐮木清方展』北日本新聞社/北日本放送/富山県水墨美術

館、2002年10月〔会場富山県水墨美術館〕
『Seasons : the beauty of transience in Japanese art』オーストラリア ニューサウスウェールズ州立美術館(Art Gallery of New South Wales)、2003年8月、〔会場 オーストラリア ニューサウスウェールズ州立美術館(オーストラリア)〕
『特別展 樋口一葉その生涯 明治の文京を舞台に』文京ふるさと歴史館/文京区教育委員会、2003年10月、〔会場 文京ふるさと歴史館(東京)〕
『横浜メディア・ビジネスセンターオープン記念県内美術館所蔵品によるかながわの絵 展図録』そごう美術館/神奈川新聞社、2004年5月、〔会場 そごう美術館(神奈川)〕
『近代日本画にみる女性たち』札幌テレビ放送、2004年4月、〔会場 北海道立近代美術館(北海道)〕
『日本絵画・二〇世紀の草創 日清-日露戦争の時代 下関市立美術館企画展図録』下関市立美術館、2004年11月、〔会場 下関市立美術館(山口)〕
『私たちの装身具 1850—1950 日本のジュエリー100年 展覧会カタログ』美術出版社、2005年2月、〔会場 東京都庭園美術館(東京)〕
『福島県立博物館 平成十七年度第一回企画展図録 老い—老いをめぐる美とカタチ』福島県立博物館、2005年4月、〔会場 福島県立博物館(福島)〕
『波瀾万丈!明治・大正の家庭小説展』弥生美術館、2005年1月、〔会場 弥生美術館(東京)〕
『物語のある絵画—日本画と古典文学の出会い—』静岡県立美術館、2005年6月、〔会場 静岡県立美術館(静岡)〕
『台湾の女性日本画家 生誕一〇〇年記念 陳進展』渋谷区立松濤美術館/兵庫県立美術館/福岡アジア美術館、2006年4月、〔会場 渋谷区立松濤美術館(東京)、兵庫県立美術館(兵庫)、福岡アジア美術館(福岡)〕
『余白の美 象徴空間の魅力』松伯美術館、2006年10月、〔会場 松伯美術館(奈良)〕
『名品と映像でたどる、とっておきの美術案内 NHK日曜美術館30年展』NHK、2006年9月、〔会場 東京藝術大学大学美術館(東京)〕
『京都文化博物館(京都)/広島県立美術館(広島)/岩手県立美術館(岩手)/長崎県美術館(長崎)/静岡県立美術館(静岡)』
『鏡花本装丁美の世界 4人の画人 鯉崎英朋・鐮木清方・橋口五葉・小村雪岱』泉鏡花記念館、2006年3月、〔会場 泉鏡花記念館(石川)〕
『明治神宮外苑創建 80年記念特別展 小堀鞆音と近代日本画の系譜—勤皇の画家と「歴史画」の継承者たち—』明治神宮、2006年10月、〔会場 明治神宮文化館 宝物展示室(東京)〕
『ようこそかながわへ—20世紀前半の観光文化』神奈川県立歴史博物館、2007年4月、〔会場 神奈川県立歴史博物館(神奈川)〕
『日展一〇〇年』国立新美術館/宮城県美術館/広島県立美術館/富山県立近代美術館/日本経済新聞社、2007年7月、〔会場 国立新美術館(東京)、宮城県美術館(宮城)、広島県立美術館(広島)、富山県立近代美術館(富山)〕
『三都の女—東京・京都・大坂における近代女性表現の諸相—』笠岡市立竹喬美術館/稲沢市荻須記念美術館/高崎市タワー美術館、2007年9月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館(岡山)/稲沢市荻須記念美術館(愛知)/高崎市タワー美術館(群馬)〕
『美人画の三巨匠 清方・深水・紫明展』日本経済新聞社、テレビ愛知、松坂屋美術館、2007年9月、〔会場 松坂屋美術館(愛知)〕
『八大伝の世界』千葉市美術館、2008年7月、〔会場 愛媛県美術館(愛媛)〕
『千葉市美術館(千葉)〕
『美の大饗宴 上村松園、鐮木清方、伊東深水』名都美術館、2008年10月、〔会場 名都美術館(愛知)〕
『南蛮の夢、紅毛のまぼろし』府中市美術館、2008年3月、〔会場 府中市美術館(東京)〕
『大正ロマン昭和モダン展—竹久夢二・高島華音とその時代—』徳島県立近代美術館・徳島新聞社・四国放送/駿府博物館/栃木市・栃木市教

育委員会・とちぎ蔵の街美術館、2008年4月、〔会場 徳島県立美術館（徳島）、駿府博物館（静岡）、とちぎ蔵の街美術館（栃木）〕
『大正ロマン・昭和モダン 大衆芸術の時代展〜竹久夢二から中原淳一まで』茨城県天心記念五浦美術館、2009年7月、〔会場 茨城県天心記念五浦美術館（茨城）〕
『美人画―描かれた女たち・魅惑の女性美』華鶴大塚美術館、2009年10月〔会場 華鶴大塚美術館（岡山）〕
『和装美人から洋装美人へ：大正・昭和の女性像』京都府立堂本印象美術館、2009年10月、〔会場 京都府立堂本印象美術館（京都）〕
『生誕130年 長谷川時雨展』神奈川近代文学館、2009年11月、〔会場 神奈川近代文学館（神奈川）〕
『小村雪岱とその時代 粋でモダンで繊細で』埼玉県立近代美術館、2009年12月、〔会場 埼玉県立近代美術館（埼玉）〕
『香り かぐわしき名宝展』東京藝術大学大学美術館、2011年4月、〔会場 東京藝術大学大学美術館〕
『第17回秘蔵の名品アートコレクション展 文化勲章受章作家の競演―日本絵画の巨匠たち―』ホテルオークラ東京、2011年8月、〔会場 ホテルオークラ東京（東京）〕
『市制80周年記念展 上村松園と鑄木清方』平塚市美術館、2012年7月、〔会場 平塚市美術館（神奈川）〕
『名都美術館 開館25周年記念 麗しき女性の美 上村松園 鑄木清方 伊東深水展』名都美術館、2012年10月、〔会場 名都美術館（愛知）〕
『生誕140年記念 島崎藤村展』県立神奈川近代文学館、2012年10月、〔会場 県立神奈川近代文学館（神奈川）〕
『はじまりは国芳―江戸スピリットのゆくえ』横浜美術館、2012年11月、〔会場 横浜美術館（神奈川）〕
『「ものあはれ」と日本の美』サントリー美術館、2013年4月、〔会場 サントリー美術館（東京）〕
『夏日漱石の美術世界』広島県立美術館、東京藝術大学大学美術館2013年5月、〔会場 広島県立美術館（広島）、東京藝術大学大学美術館（東京）〕
『皇室の名品 近代日本美術の粋』京都国立近代美術館、2013年11月、〔会場 京都国立近代美術館（京都）〕
『艶美の競演―東西の美しき女性 木原文庫より』笠岡市立竹喬美術館、2014年10月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館（岡山）〕
『夜の画家たち―蠟燭の光とテネブリスム―』ふくやま美術館、山梨県立美術館、2015年1月、〔会場 ふくやま美術館（広島）、山梨県立美術館（山梨）〕
『徳川慶喜』茨城県立歴史館、2015年2月、〔会場 茨城県立歴史館（茨城）〕
『上村松園 生誕140年記念 松園と華麗なる女性画家たち』山種美術館、2015年4月、〔会場 山種美術館（東京）〕
『うらめしや〜、冥途のみやげ展』東京藝術大学大学美術館、2015年7月、〔会場 東京藝術大学大学美術館（東京）〕
『鑄木清方・伊東深水 美の系譜』ウッドワン美術館、2015年9月、〔会場 ウッドワン美術館（広島）〕
『金沢百景 角田武夫が描いた失われた風景』神奈川県立金沢文庫、2016年3月、〔会場 神奈川県立金沢文庫（神奈川）〕
『高島屋史料館所蔵 日本美術と高島屋〜交流が育てた秘蔵コレクション』名都美術館、高島屋史料館、2016年4月、〔会場 名都美術館（愛知）、日本橋高島屋（東京）、京都高島屋（京都）〕
『鏡花の書齋―「幻想」の生まれる場所―』慶應義塾大学図書館、2016年10月、〔会場 丸善丸の内本店（東京）〕
『ファッションとアート 麗しき東西交流』横浜美術館・京都服飾文化研究財団、2017年4月、〔会場 横浜美術館（神奈川）〕
『秘蔵の名品 アートコレクション展 佳人礼讃―うるわしの姿を描く』ホテルオークラ東京、2017年7月、〔会場 ホテルオークラ東京（東京）〕
『デカダンスの気配 新視点培広庵コレクション』笠岡市立竹喬美術館、

2017年9月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館（岡山）〕
『語―歌会始御題によせて―』神宮美術館、2018年2月、〔会場 神宮美術館（三重）〕
『東西美人画の名作《序の舞》への系譜』東京藝術大学大学美術館、2018年3月、〔会場 東京藝術大学大学美術館〕
『怪談皿屋敷のナゾ 姫路名物お菊さん』姫路文学館、2018年4月、〔会場 姫路文学館（兵庫）〕
『ゆかた 浴衣 YUKATA』長崎嶺／島根県立石見美術館／泉屋博物館分館／川越市立美術館／長崎県美術館、2018年7月、〔会場 島根県立石見美術館（島根）／泉屋博物館分館（東京）／川越市立美術館（埼玉）〕
『明治150年記念 真明解・明治美術／増殖する新メディア―神奈川県立博物館50年の精華』神奈川県立歴史博物館、2018年8月、〔会場 神奈川県立歴史博物館（神奈川）〕
『幽玄なる世界―吉野石膏コレクション―』笠岡市立竹喬美術館、2018年11月、〔会場 笠岡市立竹喬美術館（岡山）〕
『櫛とかんざしの物語』市川市文学ミュージアム、2018年11月、〔会場 市川市文学ミュージアム（千葉）〕
『モダン美人誕生 岡田三郎助と近代のよそおい』ポーラ美術館、2018年12月、〔会場 ポーラ美術館（神奈川）〕
『美人画の時代―春信から歌麿、そして清方へ』町田市立国際版画美術館、2019年10月、〔会場 町田市立版画美術館（東京）〕
『鑄木清方と鯨崎英朋 近代文学を彩る口絵―朝日智雄コレクション』太田記念美術館、2020年2月、〔会場 太田記念美術館（東京）〕
『明治錦絵×大正新版画 世界が愛した近代の木版画』神奈川県立歴史博物館、2020年4月、〔会場 神奈川県立歴史博物館〕
『あやしい絵展』毎日新聞社、2021年3月、〔会場 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館〕
『コレクター福富太郎の眼：昭和のキャバレー王が愛した絵画』アートワン、2021年4月、〔会場 東京ステーションギャラリー（ほか）〕

III 鑄木清方自筆文献、対談ほか

(一) 単行書

鑄木清方『小説の挿絵（談話）』、『現代画集 卯月之巻』春陽堂、1911年4月、b2g
尾崎紅葉原著・鑄木清方編『金色夜叉絵巻』春陽堂、1912年1月
鑄木清方『絵巻の後に』『金色夜叉絵巻』春陽堂、1912年1月、叢15
鑄木清方『新浮世絵講義』、『日本画講義』日本美術学院、1917年カ
鑄木清方『美人画講話』、『日本画講義』日本美術学院、1921年カ
鑄木清方『画房雑稿』、『画生活随筆』アトリエ社、1925年3月、b1・tg
鑄木清方編『日本風俗画大成 六 徳川時代中期』中央美術社、1929年
鑄木清方編『日本風俗画大成 八 明治時代』中央美術社、1929年
鑄木清方『明治の挿絵』、新潮社編『日本文学講座 6』新潮社、1929年
鑄木清方『追憶断片』、関如來編『墨華追悼画集』（芸術雑誌『関』創刊記念）、会心居、1929年5月、b3
鑄木清方『序文』、吉川観方『浮世絵の顔』中央美術社、1929年6月
鑄木清方『霽れゆく村雨』制作当時のこと、『画学生頃の頃』アトリエ社、1930年
アトリエ社編『日本画の研究』アトリエ社、1931年9月
鑄木清方編纂『世界風俗画全集 第3巻 十七八世紀西洋編』忠誠堂、1931年3月
鑄木清方編纂『世界風俗画全集 第十二巻 日本篇下』忠誠堂、1931年3月
鑄木清方『美人の変遷（美容科学篇）』、『婦人公論大学』中央公論社、1931年8月、叢13
鑄木清方『現代美人画総説』、鑄木清方（編集委員代表）・松岡映丘・菊池契月・太田三郎編『現代作家美人画全集 日本画篇（中巻）』新潮社、1931年10月

- 鐙木清方(編集委員代表)・松岡映丘・菊池契月・太田三郎編『現代作家美人画全集 日本画篇(下巻)』新潮社、1932年2月
 鐙木清方『明治より大正初期の美人画雑感』、鐙木清方(編集委員代表)・松岡映丘・菊池契月・太田三郎編『現代作家美人画全集 日本画篇(上巻)』新潮社、1932年4月
 鐙木清方『人物画総論』、『日本画新技法講座 4 人物画法』アトリエ社、1933年
 鐙木清方『人物画総論』、『アトリエ美術大講座 第四部日本画科 第5巻』アトリエ社、1934年
 鐙木清方『銀砂子』岡倉書房、1934年5月
 鐙木清方『明治の挿絵』、新潮社編『日本文学講座 第十一巻 明治時代上編』新潮社、1934年5月
 鐙木清方『築地川』書物展望社、1934年10月
 鐙木清方『明治婦人』(描法解題)、『日本画実習帖 第十一巻 人物(上)』アトリエ社、1934~5年
 鐙木清方『墨水十趣』、『墨水懐古十趣展挨拶状』、1936年6月、b1
 鐙木清方『褪春記』双雅房、1937年2月
 鐙木清方『木綿』、『新装一きもの随筆』双雅房、1938年
 鐙木清方『ゆかた』、『新装一きもの随筆』双雅房、1938年
 鐙木清方『蘆の芽』相模書房、1938年6月
 鐙木清方『鐙木清方絵入本 御濠端』双雅房、1938年7月、叢3
 鐙木清方『燈火』、菊池寛編『現代文章軌範』非凡閣、1939年9月、tg
 鐙木清方『風俗画技法』崇文堂、1941年7月
 鐙木清方『こしかたの記』『四季しのぶ草』(鐙木清方随筆選集 第1巻)双雅房、1941年11月
 花柳章太郎『きもの』(序)、二見書房、1941年11月
 山中古洞『挿絵節用』芸艸堂、1941年12月、b3
 鐙木清方『初旅』、広瀬操吉編『画房随筆』錦城出版社、1942年、b5・ds・gs・ss・zm
 小村雪代『雪岱画集』(序)高見沢木版社、1942年12月、b3、叢20
 木村荘八『近代挿絵考』双雅房、1943年、b3
 鐙木清方『東なまり』『道中硯』(鐙木清方随筆選集 第2巻)双雅房、1943年2月
 鐙木清方『連翹』大雅堂、1943年7月
 鐙木清方『柳小紋』秋傍書房、1943年9月
 鐙木清方『絵具筥』(鐙木清方随筆選集 第3巻)双雅房、1944年4月
 鐙木清方『清方随筆選集』双雅房、1944年9月
 鐙木清方『老友往時を語る』、高橋良和編『久留島武彦童話五十年記念童話集 熊のしりもち』惟古書院、1949年4月
 鐙木清方『靴の音』、文芸春秋編『天皇陛下』文芸春秋新社、1949年11月、b8
 鐙木清方『解説』『泉鏡花作品集 第一巻』創元社、1951年10月、叢7
 岩波書店編集部編『鐙木清方監修』岩波写真文庫 98 美人画』岩波書店、1953年7月
 鐙木清方『自作自解』『清方画集』美術出版社、1957年11月、叢7
 鐙木清方『自作自解』『清方画集』美術出版社、1958年3月
 鐙木清方『自作自解』『画集 鐙木清方』毎日新聞社、1971年10月
 谷崎潤一郎『幼少時代』(装幀について)中央公論社、1959年11月
 鐙木清方『隅田川西岸』(浅茅ヶ原・化地蔵・妙魚塚・蘆の芽・新江東区説)、高見順編『文学に見る日本の川—隅田川—』日本週報社、1960年8月、b5・ts
 鐙木清方『松園さんの芸術』、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960年10月
 鐙木清方『美術部と私事』、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960年10月
 鐙木清方『鐙木清方第一回作品展(雪十趣)』(紫陽花舎主人詞、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960年10月
 鐙木清方『清方先生に聴く』、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960年10月
 『鐙木清方画 中村吉右衛門句 (小品二十題の展覧会)』、高島屋美術部五十年史編纂委員会編『高島屋美術部五十年史』高島屋、1960年10月
 鐙木清方『偶感』、菊池芳一郎編『現代美術家シリーズ③ 山本丘人』時の美術社、1960年12月、b3
 鐙木清方『こしかたの記』中央公論美術出版、1961年4月
 鐙木清方『『明石町』をかゝったころ』、『日本近代絵画全集 21 鐙木清方 平福百穂 月報』講談社、1962年、b1
 鐙木清方(無題)、『画壇五十年記念伊東深水区展図録』、1962年4月、b3、叢10
 鐙木清方『明治の生活美術寸言』、『明治の生活美術展』サントリー美術館、1962年9月、b2・zm
 鐙木清方『築地川』(旅と風物)、川端康成編『世界教養全集 別巻一 日本随筆・随想集』平凡社、1962年11月、ag・b2・k1・tg・ss・zm
 鐙木清方『松園展に想う』、『日本近代絵画全集 17 竹内栖鳳 上村松園 月報』講談社、1963年
 鐙木清方『明治の東京』、『秋の特別展 明治の東京』サントリー美術館、1965年9月
 鐙木清方『續こしかたの記』中央公論美術出版、1967年9月
 鐙木清方『ともしび』、臼井吉見・河盛好蔵編『生活の本 一〇』文芸春秋、1968年8月、zt
 鐙木清方『絵こ見る明治大正の女』『おんな百年』山種美術館、1968年、叢10
 鐙木清方『弔辞』、『追想 北側桃雄』三彩社、1969年11月、ag・b8
 鐙木清方『弔辞』、北川桃雄追悼文集編纂委員会(代表:藤本韶三)編『追想 北川桃雄』文芸春秋、1969年11月
 鐙木清方『(鐙木清方個展 清方えがく心のふるさと—江戸十五題—)』、『三越の美術展ご案内』、1970年11月
 鐙木清方『やまと新聞と芳年』、『血の晩餐 大蘇芳年の芸術別冊』番町書房、1971年3月
 鐙木清方『画心録』『画集 鐙木清方』毎日新聞社、1971年10月
 鐙木清方『円朝と野州に旅をした話』、江藤淳・曾野綾子編『新編 人生の本 一』文芸春秋、1972年8月、ag・b2・k1・zm
 鐙木清方『思ひ出今昔』、『鏡花全集 巻四 月報 四』岩波書店、1974年2月、kg・gz
 鐙木清方著・山田肇編『紫陽花舎随筆』六興出版、1978年1月
 鐙木清方『川瀬の版画を世に薦む』、『川瀬巴水木版画集』1979年12月再録、叢10
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 五 名所古跡』白鳳社、1979年2月
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 四 春夏秋冬』白鳳社、1979年3月
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 三 先人後人』白鳳社、1979年5月
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 一 制作録談』白鳳社、1979年8月
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 二 明治自懐』白鳳社、1979年11月
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 六 時評風俗』白鳳社、1980年2月
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 七 畫壇時事』白鳳社、1980年6月
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方文集 八 隨筆偶感』白鳳社、1980年9月
 鐙木清方編『風俗画大成6 目でみる徳川時代中期』図書刊行会、1986年
 鐙木清方編『風俗画大成8 目でみる文明開化の時代』図書刊行会、1986年
 鐙木清方『思ひ出今昔』、『鏡花全集 月報』(非売品)岩波書店、1986年12月、gz・k4g
 鐙木清方著・山田肇編『鐙木清方随筆集—東京の四季—』(岩波文庫)岩波書店、1987年8月
 鐙木清方『こおろぎ』、安野光雅・森毅・井上ひさし・池内紀編『ちくま文学の森 12 動物たちの物語』筑摩書房、1989年1月、b4・yk・zt
 鐙木清方著・山田肇編『随筆集・明治の東京』(岩波文庫)岩波書店、1989年
 鐙木清方『嘆き』(西村五雲)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990年9月

鐺木清方「小村さん追想」(小村雪岱)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990年9月
鐺木清方「菊池さんのこと」(菊池契月)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990年9月
鐺木清方「金鈴社以前」(結城素明)、中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990年9月
鐺木清方「思ひ出今昔」、『群像 日本の作家 5 泉鏡花』小学館、1992年1月、k4g・kg
上村松園著、(財)松柏美術館監修、村田真知編『青帛の仙女』同朋舎 出版、1996年4月、ag・b3
鐺木清方「浜町にゐたころ」、沢村貞子編『日本の名随筆 別巻68』作品社、1996年10月、b2・k1・ss・ts・zm
鐺木清方著・山田肇選『紫陽花舎隨筆』(講談社文芸文庫)講談社、2018年7月、za

(二) 逐次刊行物

鐺木清方「湘南絵葉書」、『読売新聞』(8月31日)、1902年8月、b4、叢20
鐺木清方「確氷と妙義(上)」、『読売新聞』(10月30日)、1902年10月、b5g、叢20
鐺木清方「確氷と妙義(中)」、『読売新聞』(10月31日)、1902年10月、b5g、叢20
鐺木清方「確氷と妙義(下)」、『読売新聞』(11月2日)、1902年11月、b5g、叢20
鐺木清方「附録 東京博覧会出品名画『嫁ぐ人』に就て」、『趣味』第2巻第4号、1907年4月
鐺木清方「清風筆」(現代諸名家八十有余氏選定の避暑地及感想、詩歌俳句、夏季嗜好の飲食物等)、『新小説』第12年8巻、1907年8月
鐺木清方「おもかげ帖(其一)『酒井の太鼓』」、『歌舞伎』第96号、1908年7月、叢12
鐺木清方「おもかげ帖(其二)『伊勢音頭』」、『歌舞伎』第97号、1908年8月、叢12
鐺木清方「おもかげ帖(其三)『毛菊』」、『歌舞伎』第98号、1908年9月、叢12
鐺木清方「一顆涼」、『新小説』第13年9巻、1908年9月
鐺木清方「おもかげ帖(其四)『お祭佐七』」、『歌舞伎』第99号、1908年10月、叢12
鐺木清方「おもかげ帖(其五)『寺子屋』」、『歌舞伎』第100号、1908年11月、叢12
鐺木清方「おもかげ帖(其六)『先代萩』」、『歌舞伎』第102号、1909年1月、叢12
鐺木清方「招涼珠」、『新小説』第14年8巻、1909年1月
鐺木清方「美人畫を描く時の苦心」、『婦人世界』第4巻第3号、1909年3月、叢13
鐺木清方「おもかげ帖(其八)『鈴ヶ森』」、『歌舞伎』第106号、1909年5月、叢12
鐺木清方「おもかげ帖(其九)『仲國』/ (其十)『馬盃』」、『歌舞伎』第108号、1909年7月、叢12
鐺木清方「おもかげ帖(其十一)『魚屋の茶碗』」、『歌舞伎』第109号、1909年8月、叢12
鐺木清方「十二月十四日の衣裳と調度」、『歌舞伎』第113号、1909年12月、叢12
鐺木清方「廿四孝を見て」、『歌舞伎』第113号、1909年12月、叢12
鐺木清方「木版画の趣味」、『日本美術』第133号、1910年3月、叢5
鐺木清方「東京の印象十四・芝居かへり」、『読売新聞』(5月14日)、1910年5月、叢20
鐺木清方「亡き父の友」、『歌舞伎』第120号、1910年6月、叢12
鐺木清方「公設展覧会出品製作談『女歌舞伎』に就て」、『美術新報』第9巻第12号、1910年10月、叢9
鐺木清方「浮世絵雑感」、『絵画叢誌』284号、1910年12月
鐺木清方「美人の印象」(東西美人観)(談)、『新小説』第16年3巻、1911年3月

鐺木清方「小説の挿画」(談)、『現代画集 卯月の巻』、1911年4月
鐺木清方「半折画は江戸趣味」(談)、『三越』第1巻第4号、1911年6月
鐺木清方「ある友へ、龍岡町から」、『書画骨董雑誌』第49号、1912年6月、n32
鐺木清方「夏すがた」、『読売新聞』(7月1日)、1912年7月、叢20
鐺木清方「好きな美人画」、『書画骨董雑誌』第53号、1912年10月
鐺木清方「昔の通りこせよ」(劇場に対する注文)、『演劇画報』、1913年1月
鐺木清方「女の姿と表情」、『淑女画報』第2巻第3号、1913年3月
鐺木清方「文展入選諸家の感想」、『美術新報』第13巻第1号、1913年11月、叢9
鐺木清方「芝居と絵模様」、『美術新報』第13巻第3号、1914年1月
鐺木清方「現代婦人の風俗を觀て」、『婦人画報』第94号、1914年4月、叢22
鐺木清方「若い女形の誇り」、『演芸画報』、1914年5月、叢12
鐺木清方「松園女史の『深雪』」(大正博覧会の美術及美術工芸)、『日本美術』第16巻第2号、1914年7月
鐺木清方「芸術家の夏」、『美術週報』第1巻第38号、1914年7月(質問に対する回答として)
鐺木清方「涼しさうな人暑さうな人」、『美術週報』第1巻第39号、1914年8月
鐺木清方「作家と批評家」、『絵画叢誌』第328号、1914年11月、b7
鐺木清方「初春の画題」、『絵画叢誌』第329号、1915年1月、b4
鐺木清方「昔の見物と今の見物」、『演芸画報』、1915年1月、叢12
鐺木清方「翁の本讀を聞いた通客」(清方母堂)、『歌舞伎』第175号、1915年1月、叢12
鐺木清方「昨年の芸術界」、『美術週報』、1915年1月
鐺木清方「小説の挿画」、『絵画叢誌』第331号、1915年3月、叢4
鐺木清方「名家の誕生日の祝ひ方」、『婦人世界』第10巻第5号、叢13
鐺木清方「幽霊の絵」(談)、『日本美術』第188号、1915年5月
鐺木清方「文展作品と美術院作品と」、『審美』第4巻第11号、1915年11月、b8
鐺木清方「文展の人物画」(文部省展覧会評)、『中央美術』第1巻第2号、1915年11月、b7
鐺木清方「私の出品」、『中央美術』第1巻第2号、1915年11月、叢9
鐺木清方「木版刷師の現状」、『中央美術』第1巻第2号、1915年11月、叢6、叢21
鐺木清方「私の経歴」、『美術画報』第39編巻1、1915年12月、b1、叢8
鐺木清方「俳草」、『浮世絵』第8号、1916年1月、b2
鐺木清方「芝居の色彩と豊国」(美術講話)、『中央美術』第2巻第1号、1916年1月、b6
鐺木清方「春着の話」(談)、『美術週報』第3巻第16号、1916年1月
鐺木清方「世渡り」(談)、『美術週報』第3巻第18号、1916年1月、(文集八 20-22)
鐺木清方「年賀の端書に就て」、『多都美』第10巻第2号、1916年2月、b1
鐺木清方「世渡りの話」、『絵画叢誌』第341号、1916年2月
鐺木清方「名画解題4 遊女道中之図 鳥文斎栄之筆」、『中央美術』第2巻第2号、1916年2月、叢21
鐺木清方「三人吉三の舞台面」、『中央美術』第2巻第3号、1916年3月、叢12、叢21
鐺木清方「日本画家にも生活難がある」、『絵画清談』第4巻第4号、1916年4月、b8
鐺木清方「己かづの女性美と男性美」(男性美と女性美)、『絵画清談』第4巻第4号、1916年4月
鐺木清方「人物画家英朋」、『日本美術』第194号、1916年4月
鐺木清方「日本画の将来」、『美術週報』第3巻第31号、1916年5月
鐺木清方「私の好きな夏の女」、『文芸俱樂部』第3巻第10号、1916年7月、叢5
鐺木清方「名画解題10 遊女之圖 歌川豊春筆」、『中央美術』第2巻第8号、1916年8月、叢21

- 鐺木清方「紺屋町時代の回顧」、『中央美術』第2巻第9号、1916年9月、叢21
 鐺木清方「年頃の令嬢に着せて見たい服装 今に試みたらと思った昔の服装」、『婦人画報』第128号、1916年11月、叢22
 鐺木清方「雑感」、『審美』第5巻第11号、1916年11月、b8
 鐺木清方「人物画(日本画部)」(文部省展覧会(第十回))、『中央美術』第2巻第11号、1916年11月、b7
 鐺木清方「上村松園氏」(文展推薦の四氏)、『中央美術』第2巻第12号、1916年12月、b3
 鐺木清方「此の頃の私の絵」、『美術』第1巻第3号、1917年1月、b8
 鐺木清方「百人一首の絵」、『中央美術』第3巻第1号、1917年1月、叢21
 鐺木清方「コランの画」(談)、『美術週報』第4巻第21号、1917年2月
 鐺木清方「最も深い興味を以て画いた作品」、『美術画報』第40編巻4、1917年3月、b1
 鐺木清方「美術院習作品展覧会を観る」、『絵画清談』第5巻第4号、1917年4月
 鐺木清方「余の好きな是真物」(談)、『書画骨董雑誌』第106号、1917年4月
 鐺木清方「梶田先生」(噺、梶田半古氏逝く)、『中央美術』第3巻第5号、1917年5月、叢21
 鐺木清方「『しばらく』の絵」(美術品となった団十郎)、『中央美術』第3巻第6号、1917年6月、tg、叢12、叢21
 鐺木清方「文展の出品者として」(談)、『美術旬報』第5巻第2号(141)、1917年10月
 鐺木清方「形としての団十郎」、『新演芸』第2巻第11号(団十郎記念号)、1917年11月、b6
 鐺木清方「人物画(日本画部)」、『中央美術』第3巻第11号、1917年11月、b7
 鐺木清方「失恋と芸術と」(談)、『報知新聞』(12月2日)、1917年12月
 鐺木清方「文展の後に」、『審美』第6巻第12号、1917年12月、b8
 鐺木清方「麦僊氏の芸術」(土田麦僊論)、『中央美術』第3巻第12号、1917年12月、b3、叢11
 鐺木清方「蕉園女史の芸術」(池田蕉園女史逝く)、『中央美術』第4巻第1号、1918年1月、叢21
 鐺木清方「新年を迎へて」(談)、『美術旬報』第6巻第1号、1918年1月
 鐺木清方「製作以外に興味の人としての鐺木清方氏」(談)、『美術旬報』第6巻第9号、1918年4月
 鐺木清方「諸家の秘蔵品より 歌川豊春筆遊女 鐺木清方氏蔵」(談)、『美術旬報』第6巻10号、1918年4月
 鐺木清方「契月氏の二つの道」、『中外美術』第3巻第5号、1918年5月、b3、叢11
 鐺木清方「郷土会展覧会の前に」、『審美』第7巻第5号、1918年5月、b8、叢10
 鐺木清方「渡辺省亭先生の画」、『中央美術』第4巻第5号、1918年5月、b3
 鐺木清方「夏の浮世絵」、『中央美術』第4巻第5号、1918年5月
 鐺木清方「予が最近の試み」、『美術画報』第41編巻8、1918年6月、b1
 鐺木清方「土太夫の書画」(吉川靈華論)、『中央美術』第4巻第9号、1918年9月、b3、叢21
 鐺木清方「二科、院展感想」、『美術旬報』第6巻第23号、1918年9月
 鐺木清方「文展雑感」、『審美』第7巻第11号、1918年11月、b8
 鐺木清方「人物画(日本画部)」、『中央美術』第4巻第11号、1918年11月、b7、叢21
 鐺木清方「第三回 日本画部」(文展十年の回顧)、『中央美術』第4巻第11号、1918年11月、叢21
 鐺木清方「抱一の画風」、『書画骨董雑誌』第129号、1919年3月
 鐺木清方「最も純な人春信」、『読売新聞』(6月15日)、1919年6月
 鐺木清方「自然から受けた印象」、『美術画報』第42編巻9、1919年7月、b8
 鐺木清方「日記帳より」、『中央美術』第5巻7号(金鈴社号)、1919年7月、b8
 鐺木清方「写実と装飾の二方面」(結城素明論)、『中央美術』第5巻第9号、1919年9月、b8、叢21
 鐺木清方「院展大観」、『現代之美術』第2巻第6号、1919年10月、b7
 鐺木清方「異常か平明か」、『芸苑』第1編第5号、1919年10月、b7
 鐺木清方「根本的誤謬一つ」(帝国美術院に関する所見)、『中央美術』第5巻第10号、1919年10月、b8
 鐺木清方「審査員の任命を受けて」、『中央美術』第5巻第10号、1919年10月、b8
 鐺木清方「力強い表現を望む」(鑑査の所感)、『中央美術』第5巻第11号、1919年11月、b7
 鐺木清方「鑑査の意義とその主張」(談話)、『現代之美術』第2巻第8号、1919年12月、b7
 鐺木清方「私の印象せる作品」、『審美』第8巻第12号、1919年12月、b8
 鐺木清方「浮世絵漫語」、『美術写真画報』第1巻第1号、1920年1月
 鐺木清方「美人画の修業法」、『美術公論』第1巻第1号、1920年5月、b8、叢13
 鐺木清方「印象」(新人馳騁の壇場)、『中央美術』第6巻第8号、1920年8月、叢21
 鐺木清方「私の生活」、『中央美術』第6巻第12号、1920年12月、b1
 鐺木清方「半古門下の二秀才」(前田青邨論)、『中央美術』第7巻第4号、1921年4月、b3、叢11
 鐺木清方「帝展鑑査に就て」、『絵画清談』第9巻第12号、1921年12月、b7
 鐺木清方「流行らせたい団扇の絵」、『時事新報』(6月11日 附録三面)、1922年6月、b8
 鐺木清方「所謂美人よりも女の匂い濃やかな婦人を」、『婦人画報』第193号、1922年1月、叢22
 鐺木清方「芝居と繪が暗示した現代婦人の髪型」、『婦人画報』第204号、1922年10月、叢22
 鐺木清方「石崎光瑤氏」(新任の帝国美術院長及び審査員評)、『中央美術』第8巻第11号、1922年11月、b3
 鐺木清方「古い写生帳から(一)」、『芸術』第1巻第2号(2月5日)、1923年2月
 鐺木清方「古い写生帳から(二)」、『芸術』第1巻第3号(2月15日)、1923年2月
 鐺木清方「郷土会の今日まで」、『芸術』第1巻第6号附録(3月15日)、1923年3月、b7、叢10
 鐺木清方「素人が始めての試み—女と影の気持と色—」、『羽衣会番組』(帝国劇場)、1923年3月
 鐺木清方「古い写生帳から(四)」、『芸術』第1巻第5号、1923年3月
 鐺木清方「古い写生帳から(五)」、『芸術』第1巻第6号、1923年3月
 鐺木清方「女と影の舞台装置」、『芸術』第1巻第7号、1923年3月
 鐺木清方「女と影」の舞台装置について、『東京朝日新聞』(3月28日)、1923年3月
 鐺木清方「写生帳より(六)」、『芸術』第1巻第8号、1923年4月
 鐺木清方「写生帳より(七)」、『芸術』第1巻第9号(4月15日)、1923年4月
 鐺木清方「女と影」の舞台装置、『日本詩人』、1923年5月
 鐺木清方「有縁省亭」、『曲水17』5月号、1923年5月
 鐺木清方「私はどんな婦人に勝れた美を感ずるか」、『婦人世界』第18巻第5号、1923年5月、叢13
 鐺木清方「写生帳より(九)」、『芸術』第1巻第11号、1923年5月
 鐺木清方「年方先生紀念献燈のこと」、『芸術』第1巻第12号(5月15日)、

- 1923年
- 鐺木清方「小倉庵の煙草盆」『芸術』第1巻第16号、1923年6月
- 鐺木清方「高島屋呉服店に陳列したる浮世絵板刷を觀て」『芸術』第1巻第14号、1923年6月
- 鐺木清方「手帳の端(三)榮三郎のおおきみ」『芸術』第1巻第17号、1923年7月
- 鐺木清方「鑑査の所感(日本画部)」、『中央美術』第9巻第7号、1923年7月、叢9、叢21
- 鐺木清方「松方氏将来浮世絵展を觀る」(美術時評)、『中央美術』第9巻第7号、1923年7月、叢21
- 鐺木清方「年方先生に學んだ頃」、『中央美術』第9巻第9号、1923年9月、b2・eg・tg
- 鐺木清方「力と情」『芸術』第1巻第23号、1923年10月
- 鐺木清方「九月一日を被服廢絶に記念せよ」(1923年9月朔)、『中央美術』第9巻第10号、1923年11月、叢21
- 鐺木清方「風致保安林」、『芸術』第2巻第1号(1月25日)、1924年1月、b8
- 鐺木清方「千種さんを誉む」、『芸術』第2巻第2号(2月25日)、1924年2月、b7
- 鐺木清方「繪画劇といふもの」、『中央美術』第10巻第3号、1924年3月、b8
- 鐺木清方「(三)明治大正の女性美の推移」(近代女性に対する五つの觀察)、『女性改造』第3巻第3号、1924年3月
- 鐺木清方「山川君が美人画の会を催すに就て」、『芸術』第2巻第3号(4月5日)、1924年4月、b7、叢10
- 鐺木清方「行潦社のあつまり」、『芸術』第2巻第7号(5月15日)、1924年5月、b8
- 鐺木清方「繪画劇に就て」、『芸術』第2巻第8号(5月25日)、1924年5月、b8
- 鐺木清方「画家のユートピア」、『尚美』第1巻第2号、1924年6月、b1
- 鐺木清方「邦画」こ志す青年へ」、『アトリエ』第1巻第4号、1924年6月、b7
- 鐺木清方「市村座の今戸心中」、『芸術』第2巻第9号(6月15日)、1924年6月
- 鐺木清方「筆捨松」、『隨筆』第2巻第7号、1924年8月、b5・ds・gs、叢2
- 鐺木清方「元禄女繪姿」(史上の女性美)、『女性改造』第3巻第9号、1924年9月
- 鐺木清方「今の心持」、『尚美』第1巻第4号、1924年10月、b7
- 鐺木清方「風俗と品のこと」、『芸術』第2巻第17号(11月15日)、1924年11月、b7
- 鐺木清方「帝展といふもの」(日本畫合評)、『尚美』第1巻第5号、1924年12月
- 鐺木清方「初芝居の役者」『新演芸』第10巻第1号、1925年1月
- 鐺木清方「有意義な存在」、『尚美』第2巻第1号、1925年1月、b7
- 鐺木清方「初芝居の役者」『新演藝』第10巻1号、1925年1月、叢12
- 鐺木清方「朝日影」、『芸術』第3巻第1号(1月15日)、1925年1月、b8
- 鐺木清方「女でなければ描けぬ繪とは？」『婦人画報』第232号、1925年2月、叢22
- 鐺木清方「冬枯の庭に山茶花の年増美」『婦人画報』第233号、1925年3月、叢22
- 鐺木清方「大橋の白魚」(路上隨筆)、『中央美術』第11巻第3号、1925年3月、b4
- 鐺木清方「画家は特殊な天分が必要」(特殊な職業へ志す婦人へ)、『婦人世界』第20巻第3号、1925年3月、叢13
- 鐺木清方「二つの芝居」、『芸術』第3巻第4号(3月5日)、1925年3月
- 鐺木清方「ATELIER 画房雜稿」、『アトリエ』第2巻第4号、1925年4月
- 鐺木清方「うめぐさ」、『芸術』第3巻第10号(5月15日)、1925年5月
- 鐺木清方「美と風紀の兩立」『婦人公論』第10巻第9号、1925年8月、叢13
- 鐺木清方「鑑査難」、『芸術』(11月25日)、1925年11月、b7
- 鐺木清方「流るゝ水(口繪について)」『婦人画報』第244号、1926年1月、叢22
- 鐺木清方「名人を憶ふ(一)」、『美之國』第2巻第1号、1926年1月、b8
- 鐺木清方「年頭偶感」、『芸術』第4巻第1号(1月5日)、1926年1月、b8
- 鐺木清方「2月の雑感」、『芸術』第4巻第7号(3月5日)、1926年3月
- 鐺木清方「宵庚申寸感」、『芸術』第4巻第8号(3月15日)、1926年3月
- 鐺木清方「たけくらへ繪巻」、『アトリエ』第3巻第4号、1926年4月、b3、叢13
- 鐺木清方「京の夢」、『美之國』第2巻第4号、1926年4月、b8
- 鐺木清方「国展の第一部」(春の美術(2))、『中央美術』第12巻第4号、1926年4月、叢21
- 鐺木清方「現代女性美新論 美人美装」、『婦人公論』第11巻第4号、1926年4月、叢13
- 鐺木清方「榮三郎を悼む」、『芸術』第4巻第14号(5月15日)、1926年5月、b6
- 鐺木清方「江戸の名残り」、『美之國』第2巻第7号、1926年7月
- 鐺木清方「燈火」(二十作家の隨筆)、『中央美術』第12巻第8号、1926年8月、tg・gk・b4
- 鐺木清方「故郷のスケッチ」、『美之國』第2巻第10号、1926年10月、b8
- 鐺木清方「人物風俗画」、『美之國』第2巻第11号、1926年11月、b7、叢13
- 鐺木清方「石井柏亭・松岡映丘・木村莊八・川路柳虹・太田三郎・長谷川栄作・日名子実三・脇本楽之軒、田口翔汀(司会)「帝展総合評会」、『中央美術』第12巻第11号、1926年11月
- 鐺木清方「帝展はやりやまひ」、『芸術』第4巻第26号(11月15日)、1926年11月、b7
- 鐺木清方「二部を巡りての感想」、『報知』、1926年11月
- 鐺木清方「日本画の進路」、『美術新論』第4号、1927年2月、b7
- 鐺木清方「大正から昭和へ 美術の社会に対へる一面」、『改造』第9巻第2号、1927年2月、b7
- 鐺木清方「ATELIER 日本画の見方」、『アトリエ』第4巻第2号、1927年2月、叢3
- 鐺木清方「午後十時」、『婦人画報』、1927年2月
- 鐺木清方「捕物」、『文芸春秋』第5巻第4号、1927年4月、b8
- 鐺木清方「ロシア絵の初印象」、『芸術』第5巻第15号(5月15日)、1927年5月、b7
- 鐺木清方「石井柏亭・関如來・木村武山・坂井犀水・藤井浩祐・和田英作・田口翔汀「明治大正美術昔話」、『中央美術』第13巻第7号、1927年7月
- 鐺木清方「舞台美術」(談)、『中央美術』第13巻第8号、1927年8月、叢21
- 鐺木清方「院展の人物画」、『中央美術』第13巻第10号、1927年10月、b7、叢11
- 鐺木清方「EXPOSITION 漫談」、『アトリエ』第4巻第9号、1927年10月
- 鐺木清方「美人画と映画女優について」、『サンデー毎日』(10月16日)、1927年10月
- 鐺木清方「帝展の日本画(一)~(五)」、『報知新聞』(10月22日~26日)、1927年10月
- 鐺木清方「近世風俗の回顧」『婦人画報』第267号、1927年11月、叢22
- 鐺木清方「築地明石町」、『美之國』第3巻第9号、1927年11月、b2・zm
- 鐺木清方「濱町春秋」『濱町誌』第十二地區土地區割整理完成記念會、1927年11月
- 鐺木清方「帝展の日本画」、『芸術』第5巻第28号(11月15日)、1927年11月、b7
- 鐺木清方「選と壁面のこと」、『塔影』、1927年11月
- 鐺木清方「今年的美術界回顧」、『美之國』第3巻第10号、1927年12月、b7
- 鐺木清方「日本画特選短評」(帝展批評鈔)、『中央美術』第13巻第12号、1927年12月、叢9
- 鐺木清方「美人画雜論」、『改造』第10巻第1号、1928年1月
- 鐺木清方「年頭偶感」、『芸術』第6巻第1号(1月5日)、1928年1月
- 鐺木清方「鐺木清方氏座談録」『アトリエ』第5巻第3号、1928年3月、叢7
- 鐺木清方「出世作の頃(霽れゆく村雨)制作当時のこと」、『アトリエ』第5巻第8号、1928年8月

- 鐺木清方「眞の浮世絵—社会画こ就て」、『文芸時報』第79号、1928年8月
 鐺木清方「院展の絵」、『時事新報』(9月13～16日、四回連載)、1928年9月、b7
 鐺木清方「居寢泉その他」、『美之国』第4巻第10号、1928年10月、b7
 鐺木清方「先生よ長へに老ゆる勿れ」(横山大観氏に贈る)、『中央美術』
 第14巻第10号、1928年10月、叢21
 鐺木清方「秋窓冗語」、『美之国』第4巻第11号、1928年11月、gs・b1
 鐺木清方「帝展現代風俗図」、『中央美術』第14巻第11号、1928年11月、
 叢9、叢21
 鐺木清方「帝展の日本画に就て」、『文芸時報』第87号、1928年11月、叢9
 鐺木清方「帝展余談」、『芸術』第6巻第28号(11月15日)、1928年11月、叢9
 鐺木清方「帝展の新人及び好きな作家」(談話)、『美之国』第4巻第12号、
 1928年12月、b7
 鐺木清方「時代的美しさ〇柄、色、付属品、其他の考察〇」、『婦人画報』
 第282号、1929年1月、叢22
 鐺木清方「展覧会の会場」、『アルト』第9号、1929年1月、b8
 鐺木清方「製作の節約を励行すべし」、『芸術』第7巻第1号(1月5日)、
 1929年1月、b8
 鐺木清方「二月の言葉」、『美之国』第5巻第2号、1929年2月、b4
 鐺木清方「風俗画論」、『改造』第10巻第1号、1929年3月
 鐺木清方「崎君の『オフイリヤ』」、『芸術』第7巻第7号(3月5日)、1929年3月、b7
 鐺木清方「小感」、『美之国』第5巻第4号、1929年4月、b3
 鐺木清方「畜犬三日の記」、『美之国』第5巻第4号、1929年4月、tg・b8
 鐺木清方「近き思ひ出」(三月廿五日午前九時逝去せられたる吉川靈華画
 伯に就て 諸大家の感想(本誌のため執筆されたるもの))、『芸術』第7
 巻第10号(4月5日)、1929年4月、b8
 鐺木清方「吉川君を憶ふ」、『中央美術』第15巻第5号、1929年5月、tg、叢21
 鐺木清方「松岡映丘、平福百穂、結城素明、三成重敬、植松包美、田口
 掬丁「吉川靈華追懷座談会」、『中央美術』第15巻第5号、1929年5月
 鐺木清方「遺憾なこと」、『芸術』第7巻第13号(5月5日)、1929年5月
 鐺木清方「むぎ湯」、『芸術』第7巻第19号(7月15日)、1929年7月、zt・b8
 鐺木清方「送夏迎秋」、『美之国』第5巻第10号、1929年10月、b7
 鐺木清方「偶感」、『芸術』第7巻第28号(10月25日)、1929年10月、b7
 鐺木清方「童心を失はぬ人々」(百穂号 青邨号)、『巽』第2巻第10号、
 1929年11月
 鐺木清方「罌粟」、『美之国』第5巻第11号、1929年11月、b7
 鐺木清方「日本画壇の動き」、『美之国』第6巻第1号、1930年1月、b7
 鐺木清方「沼津より」、『芸術』第8巻第1号(1月5日)、1930年1月
 鐺木清方「七日の旅」(前号沼津よりの続)、『芸術』第8巻第2号
 (1月15日)、1930年1月
 鐺木清方「東海道を下る」、『東京日日新聞』(2月25日～28日、3月4日、
 五回連載)、1930年2月、gs・ds・b5、叢20
 鐺木清方「絵にまがふ姿 清方画伯の上方美人評」(談)、『東京日日新聞』
 (3月1日)、1930年3月
 鐺木清方「影を捉ふ」、『アトリエ』第7巻第3号、1930年3月、b3
 鐺木清方「作家言」、『美術新論』第5巻第3号、1930年3月、b8
 鐺木清方「上方見物」、『改造』第12巻第5号、1930年5月、tg・ds・b5
 鐺木清方「旅と自動車」、『美之国』第6巻第5号、1930年5月、b5
 鐺木清方「時事小感」、『芸術』第8巻第8号(5月15日)、1930年5月、b7
 鐺木清方「春陽会を見て」、『アトリエ』第7巻第6号、1930年6月、b7
 鐺木清方「下村さんと其作品」、『美之国』第6巻第6号、1930年6月、b3
 鐺木清方「京都より帰て」、『文芸時報』第137号、1930年6月
 鐺木清方「帝展問題 帝展問題に就て鐺木清方氏と語る」、『アトリエ』第7
 巻第9号、1930年9月、叢9
 鐺木清方「『道成寺』画題の逸品」、『週間朝日』(9月14日)、1930年9月、
 b7、叢11
 鐺木清方「任務を了へて」、『美之国』第6巻第11号、1930年11月、b7、叢10
 鐺木清方「帝展邦画評」、『芸術』第8巻第8号(11月5日)、1930年11月、b7
 鐺木清方「不平不満の解放:美術青年への不満 帝展中心の雑話」、
 『アトリエ』第7巻第12号、1930年12月、b7、叢9
 鐺木清方「画室」、『文芸春秋』第9巻第1号、1931年1月、b8
 鐺木清方「自誠」、『芸術』第9巻第1号(1月5日)、1931年1月、b8
 鐺木清方「畫伯と泥棒珍問答 深夜の闖入者」、『婦人公論』第16巻第2号、
 1931年2月、叢13
 鐺木清方「美術時評」、『アトリエ』第8巻第2号、1931年2月
 鐺木清方「二つの話題」、『美之国』第7巻第2号、1931年2月、b8
 鐺木清方「美術時評(3)」、『アトリエ』第8巻第4号、1931年4月
 鐺木清方「下村氏の業績」、『美之国』第7巻第4号、1931年4月、b3
 鐺木清方「さしあつての望み」、『美術新論』第55号、1931年5月、b7
 鐺木清方「初めの志望」、『美之国』第7巻第5号、1931年5月、b2・zm
 鐺木清方「美術時評」、『アトリエ』第8巻第6号、1931年6月
 鐺木清方「近世美人画の諸作家—女性美展の日本画に就いて—」、
 『塔影』第7巻第6号、1931年7月
 鐺木清方「涼」、『美術新論』第6巻第8号、1931年8月、b8・zt
 鐺木清方「美術時評」、『アトリエ』第8巻第8号、1931年8月、叢9
 鐺木清方「美人の變遷」、『婦人公論大學』1931年8月、叢13
 鐺木清方「美術時評」、『アトリエ』第8巻第10号、1931年10月、叢9
 鐺木清方「帝展の日本画」、『芸術』第9巻第19号(10月25日)、1931年
 10月、b7
 鐺木清方「人事素描」、『文芸春秋』第9巻第4号、1931年11月、b1・gs
 鐺木清方「帝展日本画評総論」、『塔影』第7巻第9号、1931年11月、叢9
 鐺木清方「美術時評」、『アトリエ』第8巻第12号、1931年12月、叢9
 鐺木清方「甘いもの>話」、『芸術』第10巻第1号(1月5日)、1932年1月、b8
 鐺木清方「甘いもの>話(続)」、『芸術』第10巻第2号(1月15日)、
 1932年1月、b8
 鐺木清方「三、初雁の御歌(同前初稿、小下絵)」、『塔影』第8巻第5号、
 1932年5月
 鐺木清方「挿絵の興起」、『美術新論』第7巻第6号、1932年6月、b2、
 叢4、叢13
 鐺木清方「あさがほ」、『週刊朝日』(第一増大号)、1932年7月、ag・b4・ts・zt
 鐺木清方「無題」、『芸術』第10巻第9号(7月15日)、1932年7月
 鐺木清方「隨筆夏の画趣 夏は水こそ」、『アトリエ』第9巻第8号、1932年
 8月、b4
 鐺木清方「美女物語」、『日の出』第1巻第1号、1932年8月、b6・gs
 鐺木清方「初旅」、『塔影』第8巻第8号(旅 絵と隨筆号)、1932年8月、
 b5・ds・gs・gb・ss・zm
 鐺木清方「青龍社展評」、『時事新報』(9月5、6日、二回連載)、1932年
 9月、b7
 鐺木清方「挿絵今昔」、『中央公論』第47年第9号、1932年9月
 鐺木清方「院展評」、『時事新報』(9月6～8日、三回連載)、1932年9月、b7
 鐺木清方「院展評」、『芸術』第10巻第11号(9月15日)、1932年9月
 鐺木清方「青龍社展評」、『芸術』第10巻第11号(9月15日)、1932年9月
 鐺木清方「団十郎と影法師」、『週間朝日』(第二増大号、1932年10月、b6・gs
 鐺木清方「会場芸術小観 青龍展を觀て」、『アトリエ』第9巻第10号、
 1932年10月、b7
 鐺木清方「婦女図」、『美之国』第8巻第10号、1932年10月、b7
 鐺木清方「五郎ゆゑ」、『東京朝日新聞』(11月6日)、1932年11月、gs、叢12
 鐺木清方「佐倉義民傳 東劇の昼狂言」、『東京朝日新聞』(11月7日)、
 1932年11月、gs、叢12
 鐺木清方「国定忠治 東劇の左團次」、『東京朝日新聞』(11月8日)、
 1932年11月、gs、叢12
 鐺木清方「美男ぞろひ 明治座の大衆興行」、『東京朝日新聞』(11月
 9日)、1932年11月、gs、叢12

鐙木清方「古典の金看板 歌舞伎座追遠興行」、『東京朝日新聞』(11月11日)、1932年11月、gs、叢12
 鐙木清方「勸進帳と助六 歌舞伎座の追遠興行」、『東京朝日新聞』(11月12日)、1932年11月
 鐙木清方「今のころもち」、『アトリエ』第9巻第11号、1932年11月、b7
 鐙木清方「桜もみち」、『塔影』第8巻第11号、1932年11月
 鐙木清方「帝展雑感」、『美之国』第8巻第11号、1932年11月、b7、叢9
 鐙木清方「寸言」、『芸術』第10巻第13号(11月15日)、1932年11月、b7
 鐙木清方「材料の語断片」、『塔影』第9巻第1号、1933年1月、b1
 鐙木清方「常設美術館の問題 近代美術館について美術人でない読者へ」、『アトリエ』第10巻第1号、1933年1月、b7
 鐙木清方「淀の月かげ」、『美之国』第9巻第1号、1933年1月、b8・tg、叢13
 鐙木清方「年頭感」、『芸術』第11巻第1号(1月5日)、1933年1月、b8
 鐙木清方「映画、制作、芝居—記者X氏との対話—」、『美之国』第9巻第3号、1933年3月、b6
 鐙木清方「『平野雑筆』の著者」、『アトリエ』第10巻第5号、1933年5月、b3
 鐙木清方「団扇と浴衣」、『改造』第15巻第7号、1933年7月、b4・gs・sk・zt
 鐙木清方「水野年方先生(旧師を語る)」、『文芸春秋』第11巻第7号、1933年7月、b2・eg・gs
 鐙木清方「日本画壇に大きな足跡(談)」、『読売新聞』(10月31日)、1933年10月
 鐙木清方「杉橋検校の作者」、『美之国』第9巻第10号、1933年10月、b7
 鐙木清方「遊心庵漫筆」、『美之国』第9巻第10号、1933年10月、b8・gs
 鐙木清方「絵と映画」、『光画』第2巻第10号、1933年10月
 鐙木清方「平福君を悼む」、『読売新聞』(11月1日)、1933年11月、b3、叢11
 鐙木清方「東京と京都」、『美術評論』帝展号、1933年11月、b3
 鐙木清方「感覚に乏しき日本画」、『アトリエ』第10巻第11号、1933年11月、b7、叢10
 鐙木清方「帝展の若き作家達」、『美之国』第9巻第11号、1933年11月、b7、叢9
 鐙木清方「人物画を語る」、『塔影』第9巻第9号、1933年11月、b7
 鐙木清方「平福君を憶ふ」、『文芸春秋』第11巻第12号、1933年12月、b3・eg・gs
 鐙木清方「芝居の背景を描いた話」、『中央美術』復興第5号、1933年12月、b3、叢21
 鐙木清方「平福君を悼む」、『塔影』第9巻第10号、1933年12月
 鐙木清方「美人畫解説 紫衣婦女」、『婦人公論』第19巻第1号、1934年1月、叢13
 鐙木清方「目黒の栢庭」、『中央美術』復興第6号、1934年1月、tg、b6
 鐙木清方「塔の沢浴泉記」、『美之国』第10巻第1号、1934年1月、b5・ds・gs
 鐙木清方「かをり」、『芸術』第12巻第1号(1月5日)、1934年1月、b8
 鐙木清方「結婚式から銀婚式まで——鐙木清方畫伯の二十五年」、『婦人公論』第343号、1934年1月、叢22
 鐙木清方「我が好む画人」、『アトリエ』第11巻第2号、1934年2月、b1
 鐙木清方「美人畫解説 喜多川歌麿作 當世踊子揃(鶯娘)」、『婦人公論』第19巻第2号、1934年2月、叢13
 鐙木清方「『にこりえ』解題」、『塔影』第10巻第3号、1934年3月、叢13
 鐙木清方「如月日記」、『美之国』第10巻第3号、1934年3月、b4・tg、叢7、叢13
 鐙木清方「美人畫解説 晝餐圖(ルノアル作)」、『婦人公論』第19巻第3号、1934年3月、叢13
 鐙木清方「美人畫解説 勝川春章作 ほととぎす」、『婦人公論』第19巻第4号、1934年4月、叢13
 鐙木清方「菖蒲湯」、『若草』、1934年5月、b4・zt・sk・tg
 鐙木清方「ジヨリイ」、『文体』第2巻第5号、1934年5月、az・b8・tg
 鐙木清方「作者五郎に望む」、『東京朝日新聞』(5月6日)、1934年5月、叢12
 鐙木清方「吉右衛門の清正」、『東京朝日新聞』(5月7日)、1934年5月、叢12
 鐙木清方「『親』を讀ふ」、『東京朝日新聞』(5月8日)、1934年5月、叢12
 鐙木清方「美人畫解説 小林古径作 婦女圖」、『婦人公論』第19巻第5号、1934年5月、叢13
 鐙木清方「水谷見物」、『東京朝日新聞』(5月9日)、1934年5月、叢12
 鐙木清方「斬られの仙太」、『東京朝日新聞』(5月17日)、1934年5月、叢12
 鐙木清方「青年競伎」、『東京朝日新聞』(5月18日)、1934年5月、叢12
 鐙木清方「芝居と絵画」、『美之国』第10巻第5号、1934年5月、b1、叢7
 鐙木清方「作者のこぼれ(鐙木清方氏作品第一回展観)」、『芸術』第12巻第14号(5月15日)、1934年5月
 鐙木清方「歌舞伎座の5月」、『演芸画報』第28巻第6号、1934年6月
 鐙木清方「美人畫解説 黒田清輝作『湖畔』」、『婦人公論』第19巻第6号、1934年6月、叢13
 鐙木清方「邦画壇の三元老を語る」、『文芸』、1934年7月、b3・eg・tg、叢11
 鐙木清方「身辺雑事」、『美之国』第10巻第7号、1934年7月、b8
 鐙木清方「美人畫解説 土田麥僊作『林泉舞妓』」、『婦人公論』第19巻第7号、1934年7月、叢13
 鐙木清方「土用前後(涼風閑話)」、『文芸春秋』第12巻第8号、1934年8月、b4・zt・sk・tg、叢13
 鐙木清方「歌妓三態」、『改造』第16巻第8号、1934年8月、b6・gg
 鐙木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第8号、1934年8月
 鐙木清方「美人畫解説 鳥居清長作 隅田川」、『婦人公論』第19巻第8号、1934年8月、叢13
 鐙木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第9号、1934年9月
 鐙木清方「美人畫解説 岡田三郎助作 ゆるしの紫しらべ」、『婦人公論』第19巻第9号、1934年9月、叢13
 鐙木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第10号、1934年10月
 鐙木清方「二尾の金魚 帝展名作選集 土田麥僊作『燕子花』」、『読売新聞』(10月22日)、1934年10月
 鐙木清方「剛柔の調和 帝展名作選集 川合玉堂作『宿雪』」、『読売新聞』(10月27日)、1934年10月
 鐙木清方「美人畫解説 菊池契月作 友禪の少女」、『婦人公論』第19巻第10号、1934年10月、叢13
 鐙木清方「秋」、『隨筆趣味』第1号、1934年11月、b4・zt・sk・ts
 鐙木清方「第三室をめぐる」、『美術』第9巻第11号、1934年11月、b7
 鐙木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第11号、1934年11月
 鐙木清方「帝展鑑賞記」、『美之国』第10巻第11号、1934年11月、b7
 鐙木清方「美人畫解説 中澤弘光作 舞妓」、『婦人公論』第19巻第11号、1934年11月、叢13
 鐙木清方「帝展日本画を観る」、『芸術』第12巻第22号(11月15日)、1934年11月、b7、叢9
 鐙木清方「回想」、『中央美術』復興第17号、1934年12月、b3、叢21
 鐙木清方「トオキイになつてから」、『現代美術』第1巻第9号、1934年12月、b6
 鐙木清方「雨の箱根」、『現代美術』第1巻第9号、1934年12月、b8
 鐙木清方「(一部)「帝展評評話 概評」、『阿々土』第3号、1934年12月
 鐙木清方「(一部)「帝展評評話 『燕子花』土田麥僊、『阿々土』第3号、1934年12月
 鐙木清方「見物席から」、『演芸画報』第28巻第12号、1934年12月
 鐙木清方「美人畫解説 鐙木清方作 妓女像」、『婦人公論』第19巻第12号、1934年12月、叢13
 鐙木清方「鐙木清方画伯の随想」、『浮世絵芸術』、1935年
 鐙木清方「僕のお正月 吉例」、『美術評論』第4巻第1号、1935年1月、b4
 鐙木清方「会場のはなし」、『美之国』第11巻第1号、1935年1月、b7・b8
 鐙木清方「ことしから不義理をする」、『芸術』第13巻第1号(1月5日)、1935年1月、b8

- 鐔木清方「現代人物画の傾向」、『芸術日本』第8号、1935年2月、b7
 鐔木清方「観劇余談」、『演芸画報』第29巻第2号、1935年2月
 鐔木清方「技法の話」、『美之国』第11巻第2号、1935年2月、b1
 鐔木清方「精神生活の欠乏」、『美術評論』第4巻第3号、1935年3月、b1
 鐔木清方「六潮会に就て思ふ」、『アトリエ』第12巻第3号、1935年3月、b7
 鐔木清方「梶田先生」、『美之国』第11巻第3号、1935年3月、b3
 鐔木清方「五世菊五郎を偲ぶ」、『東京日日新聞』(3月4日)、1935年3月、
 b6・ts
 鐔木清方「あるはずの瀧」、『芸術』第13巻第7号(3月25日)、1935年
 3月、as・b5
 鐔木清方「そぞろごと」、『阿々土』第4号(鐔木清方特集号)、1935年4月、
 b1・eg・ts、叢2、叢13
 鐔木清方「研究の一生」(噫、速水御舟!)、『美術評論』第4巻第3号、
 1935年4月、b3、叢11
 鐔木清方「菊五郎片影」、『演芸画報』第29巻第4号、1935年4月、b6
 鐔木清方「歴史画の更正」、『現代美術』第2巻第1号、1935年4月、b7
 鐔木清方「諸家推讃の言葉」、『阿々土』別巻第2号、1935年4月
 鐔木清方「鴨澤宮の像」婦人倶楽部4月号附録、1935年4月、叢15
 鐔木清方「形と心」、『美術評論』第4巻第5号、1935年5月、b1
 鐔木清方「浜町にみどころ」、泉鏡花・長谷川如是閑・鐔木清方・永井荷
 風・谷崎潤一郎・佐藤春夫監修、『季刊 日本橋』創刊号、1935年5月、
 b2・k1・ss・ts・zm『日本の名随筆 別巻68』
 鐔木清方「かけがへのない人」(速水御舟氏を語る)、『美之国』第11巻
 第5号、1935年5月、b3
 鐔木清方「端午」、『サンデー毎日』(5月5日)、1935年5月、b8・zt
 鐔木清方「新帝院よ、展覧会に重点を置くな」、『中外商業新報』
 (6月6日)、1935年6月、b7、叢9
 鐔木清方「帝国美術院は民間団体の強化を計れ 上、下」、『読売新聞』
 (6月6、7日)、1935年6月、叢9
 鐔木清方「個展明治風俗のこと」、『現代美術』第2巻第4号、1935年7月、as・b1
 鐔木清方「千蔵映画を褒む」、『阿々土』別巻第3号、1935年7月、b6、叢12
 鐔木清方「野風呂」、『国民新聞』(7月31日)、1935年7月、b8・zt
 鐔木清方「吉川君を憶ふ」、『中央美術』復興第24号、1935年7月、叢21
 鐔木清方「夏の女」、『都新聞』(7月29日)、1935年7月、b8・zt
 鐔木清方「涼床語」(涼風読本)、『文芸春秋』第13巻第8号、1935年8月、
 b4・sk・ts・zt
 鐔木清方「芝居は無学の学問なりといふこと」、『現代美術』第2巻第5号、
 1935年8月、b6
 鐔木清方「女人夏景」、『大法輪』、1935年8月、b8・zt
 鐔木清方「明治風俗十二ヶ月解題」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月
 鐔木清方「黒髪」、『美之国』第11巻第8号、1935年8月、b1
 鐔木清方「個展論」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月、b1
 鐔木清方「夜会結び再興」、『美術評論』第4巻第7号、1935年9月、b6
 鐔木清方「映画追憶」、『映画と演芸』第12巻第9号、1935年9月、b6
 鐔木清方「名樹散椿(1)速水御舟遺作を見る」、『東京日日新聞』(9月2日)、
 1935年9月
 鐔木清方「雪」、『朝日新聞』(1月11日～13日)、1935年10月、b4・sk・ts・zt
 鐔木清方「批評家の立場、作家の立場」、『アトリエ』第12巻第10号、
 1935年10月、b7
 鐔木清方「明治風俗十二ヶ月について」、『阿々土』別巻第4号、1935年10月
 鐔木清方「作者解題」、『阿々土』別巻第4号、1935年10月
 鐔木清方「名樹散椿(2)速水御舟遺作を見る」、『東京日日新聞』(10月
 1日)、1935年10月
 鐔木清方「名樹散椿(3)速水御舟遺作を見る」、『東京日日新聞』(10月
 2日)、1935年10月
 鐔木清方「明治の東京語」、『セルボン』第57号、1935年11月、az・b2・ss・
 ts・zm
 鐔木清方「速水御舟のえらさ」、『美術評論』第4巻第8号、1935年11月、b3
 鐔木清方「えりもと」、『ホーム・ライフ』第1巻第11号、1935年11月、b6・ts
 鐔木清方「帝展問題その他一時局問題一問一答」、『美術評論』第4巻
 第8号、1935年11月、b7、叢7
 鐔木清方「穂庵小惑」、『中央美術』復興第28号、1935年11月、叢21
 鐔木清方「思ひよること」、『美之国』第11巻第11号、1935年11月、b7
 鐔木清方「話題二つ」、『美術街』第2巻第11号、1935年12月、b7
 鐔木清方「一陽来復」、『芸術』第14巻第1号(1月5日)、1936年1月、
 b8・zt
 鐔木清方「續こしかたの記」、『読書感興』第2巻第1号、1936年1月、b2
 鐔木清方「嘗て見た慶喜を」(出品するかしないか?)、『美術評論』第5巻
 第1号、1936年2月、b1、叢1
 鐔木清方「民族性といふもの」(絵画の民族性)、『阿々土』第11号、
 1936年3月
 鐔木清方「新国劇と藝術座」、『東京朝日新聞』(3月13日)、1936年3月、叢12
 鐔木清方「通し狂言忠臣蔵—歌舞伎座—」、『東京朝日新聞』(3月14日)、
 1936年3月、叢12
 鐔木清方「吉右衛門の清正—明治座—」、『東京朝日新聞』(3月15日)、
 1936年3月、叢12
 鐔木清方「河合・喜多村・花柳—東京劇場—」、『東京朝日新聞』(3月
 16日)、1936年3月、叢12
 鐔木清方「青年歌舞伎—新宿第一劇場—」、『東京朝日新聞』(3月17日)、
 1936年3月、叢12
 鐔木清方「帝展一夕話」『時の美術』第2巻第3号、1936年3月、叢9
 鐔木清方「鑑審査を終りて」、『芸術』第14巻第7号(3月5日)、1936年
 3月、b7
 鐔木清方「春への連想」、『絵画教習』第4巻第4号、1936年4月、b4
 鐔木清方「褪春記」、『文芸春秋』第14巻第4号、1936年4月、b4・sk・ts・zt
 鐔木清方「審査員の一人として」、『美術評論』第5巻第2号、1936年4月、b7
 鐔木清方「帝展第一部評」、『美術』第11巻第11号、1936年4月、b7
 鐔木清方「技術を観る」、『東陽』第1巻第1号、1936年4月、b7
 鐔木清方「二三の覚書」、『阿々土』第12号、1936年4月、b7
 鐔木清方「鑑査後記」、『アトリエ』第13巻第4号、1936年4月、b7
 鐔木清方「山口蓬春・奥村土牛・太田聰雨・藤森順三」鐔木清方を囲んで
 一座談会—、『美術評論』通巻第34号、1936年4月、b3
 鐔木清方「卓上語」、『美之国』第12巻第4号、1936年4月、b7
 鐔木清方「羽左衛門にきく」(インタビュー)、『東京朝日新聞』(4月18日～
 27日、十回連載)、1936年4月
 鐔木清方「河岸」、『読書感興』第2号、1936年4月、b8
 鐔木清方「春庭」、『ホーム・ライフ』第2巻第5号、1936年5月、b8
 鐔木清方「素材素描」、『改造』第18巻第5号、1936年5月、b1・ts
 鐔木清方「草双紙」、『東陽』第1巻第3号、1936年6月、b2・ts・zm
 鐔木清方「紫陽花舎閑話 1」、『阿々土』第13号、1936年7月、b1・zt、
 叢1、叢16
 鐔木清方「麦僊君回想」、『美術評論』第5巻第4号、1936年7月、b3、叢11
 鐔木清方「しのぶぐさ」、『塔影』第12巻第7号、1936年7月、b3、叢11
 鐔木清方「曲亭馬琴」の思ひ出、『塔影』第12巻第8号、1936年8月、
 b1、叢8
 鐔木清方「映画と挿絵の関係」、『東陽』第1巻第5号、1936年9月、b6・ts
 鐔木清方「装置今昔」、『アトリエ』第13巻第9号(舞台美術号)、1936年
 9月、b6・ts
 鐔木清方「麦僊君の芸術」、『阿々土』第14号、1936年10月、b3、叢11
 鐔木清方「秋まだ浅き日の記」(灯火随筆)、『文芸春秋』第14巻第10号、
 1936年10月、b4・sk・ts・zt
 鐔木清方「月の絵」、『ホーム・ライフ』第2巻第10号、1936年10月、b4・

ts・zt

鐺木清方「前田、島崎」、『美之國』第12巻第10号、1936年10月、b7
鐺木清方「浅茅ヶ原」、『朝日新聞』(10月9日)、1936年10月、b5・ds・ts・nk
鐺木清方「化地蔵」、『朝日新聞』(10月10日)、1936年10月、b5・ds・ts・nk
鐺木清方「妙亀塚」、『朝日新聞』(10月11日)、1936年10月、b5・ds・ts・nk
鐺木清方「院展 福岡日日評」(各新聞の院展・青龍展・明朗展評)、『塔影』第12巻第10号、1936年10月
鐺木清方「中年の夫人」、『ホーム・ライフ』第2巻第12号、1936年11月、b6
鐺木清方「町の鑑賞」、『アトリエ』第13巻第11号、1936年11月、b8・ts・zt
鐺木清方「井上と八重子 明治座の『熊の唄』その他」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月6日)、1936年11月、叢12
鐺木清方「三代目歌右衛門 歌舞伎座の記念興行(上)」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月7日)、1936年11月、叢12
鐺木清方「一の谷と十段目 歌舞伎座の記念興行(中)」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月8日)、1936年11月
鐺木清方「権八と双面の美 歌舞伎座の記念興行(下)」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月10日)、1936年11月
鐺木清方「新国劇の現代物 “剣”よりも喰られる興味」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月11日)、1936年11月、叢12
鐺木清方「河内屋と沢瀉屋 追ひ出しまで面白い東劇」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月12日)、1936年11月、叢12
鐺木清方「“試験室有楽座” まだ見透しのつかぬ劇団」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月13日)、1936年11月、叢12
鐺木清方「意義ある競演(上) 原作と翻案を掲げて 興味を呼ぶ新協と前進座」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月18日)、1936年11月、叢12
鐺木清方「意義ある競演(下) 先づ吉野の盗賊 興味を呼ぶ新協と前進座」(劇評)、『東京朝日新聞』(11月19日)、1936年11月、叢12
鐺木清方「紫陽花舎閑話 2」(談話)、『阿々土』第15号(11月12月合併号)、1936年12月、b4
鐺木清方「美術と官権」、『美之國』第13巻第1号、1937年1月、b7
鐺木清方「挿絵閑話」、『美術評論』第6巻第1号、1937年2月、b1、叢7
鐺木清方「美人説」、『東陽』第2巻第2号、1937年2月、as・b6
鐺木清方・山口蓬春、司会：藤本韶三「芸談を聴く(2)鐺木清方氏」、藤本韶三『アトリエ』第14巻第2号、1937年2月、b7g
鐺木清方「薄紅梅」に絵を作りて、『ホーム・ライフ』第3巻第2号、1937年2月、b8
鐺木清方「挿画家生活」、『美之國』第13巻第2号、1937年2月、b1・b2、叢7
鐺木清方「しばみ随筆」、『芸術』第15巻第5号(3月5日)、1937年3月、as・b6、叢12
川合玉堂・鐺木清方・村雲大樸子・藤森順三「玉堂・清方閑談会」、『美術評論』第6巻第2号、1937年4月、n32
鐺木清方「ともだちの話」、『美之國』第13巻第5号、1937年5月、b2、叢7、叢11
鐺木清方「堀切」、『阿々土』第20巻、1937年7月、as・b5
鐺木清方「溪仙詩情」、『アトリエ』第14巻第7号、1937年7月、as・b3
鐺木清方「芸苑佳会」、『美之國』第13巻第8号、1937年8月、as・b8
鐺木清方「花鳥私語」、『美術時代』第1巻第1号、1937年9月、as・b1・b8
鐺木清方「身辺近事」、『文芸春秋』第15巻第10号、1937年10月、as・az・b8・zt
鐺木清方「戦争と画家」、『美術評論』第6巻第5号、1937年10月、叢9
鐺木清方「戦時にかかる新文展」、『美之國』第13巻第10号、1937年10月、b7
鐺木清方「審査所感—思ひよるまゝ—」、『美術時代』第1巻第3号、1937年11月、b7
鐺木清方「私の報告」、『美之國』第13巻第11号、1937年11月、b7
鐺木清方「鯛」、『阿々土』第21巻、1938年1月、b8

鐺木清方「岡崎と夢の市蔵」(劇評)、『東京朝日新聞』(1月12日)、1938年1月、as
鐺木清方「快作『鶴八鶴次郎』」(劇評)、『東京朝日新聞』(1月13日)、1938年1月、as
鐺木清方「『吉野山』と『鎧櫃』」(劇評)、『東京朝日新聞』(1月14日)、1938年1月、as
鐺木清方「七草すぎ」、『芸術』第16巻第2号(1月15日)、1938年1月、as・b4・sk・zt
鐺木清方「今と昔の芝居」、『演芸画報』第32巻第2号、1938年2月
鐺木清方「日本髪」、『美之國』第14巻第2号、1938年2月、as
鐺木清方「はやりかぜ」、『塔影』第14巻第2号、1938年2月、as・b8
鐺木清方「現代美術展」へ寄せる言、『美術眼』第2巻第4号、1938年4月
鐺木清方「松岡君とのつきあい」、(松岡映丘氏追悼)、『アトリエ』第15巻第5号、1938年4月
鐺木清方「明治以来東京の名物」、『美之國』第14巻第4号、1938年4月、b2・zm
鐺木清方「春寒」(松岡映丘氏弔辞)、『美之國』第14巻第4号、1938年4月、b3
鐺木清方「室君」、『塔影』第14巻第4号、1938年4月、b3
鐺木清方「芝居見物今昔 (一)、(二)、(三)」、『朝日新聞』(4月24、25、26日)、1938年4月、as・b6
鐺木清方「花形から馬の脚へ」、『サンデー毎日』第17巻第28号(6月10日、夏季特別号)、1938年6月、b8
鐺木清方「画家と画工」『キング』第14巻第7号、1938年6月
鐺木清方「研究室」、『美術』第13巻第7号、1938年7月、b3
鐺木清方「花柳章太郎よもやま藝談」『婦人画報』第414号、1938年8月、叢22
鐺木清方「花菖蒲と銀杏返し」、『文芸春秋』第16巻第8号、1938年8月、b6
鐺木清方「パール・ホワイトの死」、『美之國』第14巻第9号、1938年9月、b6
鐺木清方「先師遺蹟解説」、『阿々土』第23号、1938年10月、b3・tb
鐺木清方「嘆き」、『阿々土』第23号、1938年10月、b3・tb、叢11
鐺木清方「川越道 上、中、下」、『朝日新聞』(10月7、8、9日)、1938年10月、b5・yk
鐺木清方「情緒と写生」、『美術と趣味』第3巻第11号、1938年11月、b3
鐺木清方「新鮮味」、『美術評論』通巻第53号、1938年12月、b3
鐺木清方「思ひ出の一端」、『塔影』第14巻第12号、1938年12月、b3
鐺木清方「芝居だんぎ」、『芸術』第17巻第1号(1月5日)、1939年1月、b6
鐺木清方「山茶花」、『芸術』第17巻第6号(2月25日)、1939年2月、b4・yk
鐺木清方「季節の感触とえり足の美」『読売新聞』(3月22日夕)、1939年3月
鐺木清方「兎と万年青」、『阿々土』第25号、1939年4月、b2・rs・zm
鐺木清方「浮き出さぬ 新生新派の『一葉舟』」(四月の芝居 明治座評)、『東京朝日新聞』(4月8日)、1939年4月
鐺木清方「花も実もある“元禄忠臣蔵”大石廓通ひ」、『東京朝日新聞』(4月11日)、1939年4月
鐺木清方「身勝手ならぬ身勝手」、『美術眼』第7巻第5号、1939年5月、b7
鐺木清方「菊・近頃の力演 品格持たせた吃又」、『東京朝日新聞』(5月6日)、1939年5月
鐺木清方「新古、多彩の新派 喜多村、花柳のいゝ味」、『東京朝日新聞』(5月7日)、1939年5月
鐺木清方「左団次の『銭主』 羽左衛門の初役『掃部頭』」、『東京朝日新聞』(5月10日)、1939年5月
鐺木清方「平凡他奇なし、無人芝居だが手堅い」、『東京朝日新聞』(6月11日)、1939年6月
鐺木清方「映画仕立てで、興味本位の「合羽屋おらく」」、『東京朝日新聞』(6月13日)、1939年6月
鐺木清方「内濠外濠」、『芸術』第17巻第18号(6月25日)、1939年6月、b8・zt

鐺木清方「夏衣」、『ホーム・ライフ』第15巻第7号、1939年7月、b6
 鐺木清方「新派と鏡花もの」、『東京朝日新聞』(9月9日)、1939年9月
 鐺木清方「新春二題」、『改造』第22巻第1号、1940年1月、b8
 鐺木清方「不二見西行」、『芸術』第18巻第1号(1月5日)、1940年1月、
 b8・zm
 鐺木清方「そぞろごと」、『美之国』第16巻第2号、1940年2月、b1・ts
 鐺木清方「思ひ出今昔」、『図書』第50号、1940年3月、b2・gz・k4g・kg、叢7
 鐺木清方「左團次の業績『婦人之友』第34巻第4号、1940年4月
 鐺木清方「奉祝展と文展の性格」、『美之国』第16巻第4号、1940年4月、b7
 鐺木清方「安田靫彦」、『文芸春秋』第18巻第5号、1940年5月、b7、叢11
 鐺木清方「遺業追懐」、『塔影』第16巻第8号、1940年8月、b3
 鐺木清方「思ひ出一つ」、『美術日本』第6巻第9号、1940年9月、b8
 鐺木清方「金鈴社と松岡君」、『美之国』第16巻第9号、1940年9月、b3
 鐺木清方「玉堂の人と芸術」、『報知新聞』、1940年11月、b8
 鐺木清方「今日この時の川合先生」、『美之国』第16巻第11号、1940年
 11月、b3
 鐺木清方「玉堂の人と芸術」、『美術と趣味』第5巻第11号、1940年11月、b8
 鐺木清方「組皿 雪岱さんのこと」、『阿々土』第31号、1940年12月、b3・yk
 鐺木清方「夜蕾亭随筆 1」、『阿々土』第31号、1940年12月、b8・rs・zt
 鐺木清方「小村さん追想」、『翠彩』第2巻第6号、1940年12月、b8・tb
 鐺木清方「歌舞伎座長期興行」、『演芸画報』第35巻第2号、1941年2月
 鐺木清方「早春譜『婦人公論』第26巻第2号、1941年2月、叢13
 鐺木清方「藤懸博士寿像の製作」、『造形芸術』第3巻第4号、1941年
 4月、b8、叢13
 鐺木清方「肖像画」、『塔影』第17巻第5号、1941年5月、b1
 鐺木清方「用意の周到さ—樋口慶千代『傑作浄瑠璃集』に寄せて」、『評釈
 江戸文学叢書』月報、講談社、1941年6月、b8
 鐺木清方「芸術院と松園さん」、『美術と趣味』第6巻第6号、1941年6月、b7
 鐺木清方「清忠さんのこと」、『演芸画報』第35巻第9号、1941年9月、b6・rs
 鐺木清方「隅田川に古跡を探る」、『新女苑』、1941年10月、b5・rs
 鐺木清方「女子書簡文」、『一葉ふね』第3号(樋口一葉全集第五巻附録)、
 新世社、1941年10月
 出席者・鐺木清方・坂崎坦・安田靫彦・結城素明・松林桂月・溝口禎次郎
 「明治時代の日本画界を語る(座談会)」、『国民美術』第1巻第1号、
 1941年10月、n32
 鐺木清方「文展評を望まれて」、『美術と趣味』第6巻第11号、1941年
 11月、b7
 鐺木清方「今年の文展日本画 新国画への出発」、『旬刊美術新報』
 第42号、1942年、叢9
 鐺木清方「絵の働き」、『旬刊美術新報』第12号、1942年1月、b7
 鐺木清方「官展と審査」、『季刊美術』第1巻第1号、1942年1月、b7
 鐺木清方「夜蕾亭昔話」、『画論』第6号、1942年2月、b2・yk、叢7、叢13
 鐺木清方「鐺木氏の文章」、『画論』第6号、1942年2月
 鐺木清方「松園さんの研究」、『国画』第2巻第4号、1942年4月、b8
 鐺木清方「雪」(上薄雪 中深雪 下雪晴)、『国画』第2巻第6号、1942年
 6月、b8・rs
 鐺木清方「母子」、『婦人公論』第27巻第7号、1942年7月、叢13
 鐺木清方「左様なら『都』上、下」、『都新聞』(9月29、30日)、1942年
 9月 b8・yk
 鐺木清方「今年の文展日本画 新国画への出発」、『旬刊美術新報』第42号、
 1942年11月、叢9
 鐺木清方「寺島紫明君」(特選作家を語る 審査員諸家)、『旬刊美術新報』
 第43号、1942年11月、b7、叢10
 鐺木清方「美人畫解説 廣重と安治」、『婦人公論』第28巻第1号、1943年
 1月、叢13
 鐺木清方「武内桂舟先生」、『日本美術』第2巻第2号、1943年2月、b3・rs
 鐺木清方「明治の作品展示を顧て」、『日本美術』第2巻第4号、1943年
 4月、b2
 鐺木清方「伝統」(随筆)、『文芸春秋』第22巻第10号、1944年10月、b6・zm
 鐺木清方「原色版口絵について 秋草」、『美術』第3巻第4号、1946年4月
 鐺木清方「花見」、『時事新報』(4月10、12、13日、三回連載)、1946年
 4月、b2・zt
 鐺木清方「老鷹」(随筆)、『文芸春秋』第24巻第7号、1946年7月、ag・b8・
 k2、叢13、叢20
 鐺木清方「涼味 上、下」、『時事新報』(7月21、22日)、1946年7月、ag・
 b4・zt
 鐺木清方「上村松園論」、『三彩』第2号、1946年8月、ag・b3
 鐺木清方「茨木の腕」(遙かなる頃 遠き頃(6))、『アサヒグラフ』第46巻
 第9号(9月25日)、1946年9月
 鐺木清方「年始歳暮」、『時事新報』(1月3日)、1947年1月、ag・b4・zt
 鐺木清方「我が画帖より(17)」、『アサヒグラフ』第47巻第3号(1月25日)、
 1947年1月
 鐺木清方「鳥合会のこと」、『花』第一集春季号、1947年2月、叢8
 鐺木清方「一石二鳥」、『苦楽』第2巻第6号、1947年6月
 鐺木清方「鎌倉の夏」、『時事新報』(7月27日)、1947年7月、ag・b8
 鐺木清方「美貌の役者」、『劇場』第2年9月号、演劇文化社、1947年9月
 鐺木清方「白舟」、『苦楽』第2巻第11号、1947年11月
 鐺木清方「内職」(とっておきの話)、『週間朝日』、1948年、ag・b2・zm
 鐺木清方「日本髪」、『毎日新聞』(1月1日)、1948年1月、az・b6
 鐺木清方「梅薫る」、『幕間』、1948年4月、b6
 鐺木清方「胡瓜」(夏を描く4)、『東京新聞』(7月21日)、1948年7月、ag・b4
 鐺木清方「御食の記」、『夕刊とうほく』(11月3日)、1948年11月、ag・b8
 鐺木清方「日記抄」、『三彩』第26号、1949年1月、b1
 鐺木清方「島崎さんの挿絵をかいた頃のこと」、『藤村研究』第3号、『島崎藤
 村全集 第9巻』附録、新潮社、1949年1月
 鐺木清方「松園絵姿」、『苦楽』第4巻第2号(海外版)、1949年2月
 鐺木清方「梨園の長者」、『幕間』第38号(別冊 松本幸四郎追悼号)、
 1949年3月、b6
 鐺木清方「幸四郎のおもひで」、『演劇界』第7巻第3号、1949年3月、
 b6g、叢12
 鐺木清方「白足袋」、『文芸春秋』第26巻第5号、1949年5月、ag・b8・zm
 鐺木清方「夢の設計」、『苦楽』第4巻第6号、1949年6月
 鐺木清方「私の先生」、『報知新聞』(11月20日)、1949年11月、ag・b2
 鐺木清方「日本の女性松園」、『婦人画報』第542号、1949年11月、叢22
 鐺木清方「張子の虎」、『東京新聞』(12月31日夕刊)、1949年12月、ag・b8
 鐺木清方「五十年前」、『朝日新聞』(1月10日夕刊)、1950年1月、ag・b2・zm
 鐺木清方「ラジオの功德」、『NHK放送文化』第5巻第2号、1950年2月、ag・b8
 鐺木清方「心のふるさと」、『文芸春秋』第27巻第3号、1950年3月、ag・
 b2・zm、叢7
 鐺木清方「美人画家夫人告知板」、『アサヒグラフ』第53巻第13号(3月
 29日)、1950年
 鐺木清方「節分の絶筆」、『演劇界』第8巻第4号、1950年4月
 鐺木清方「梅雨」、『美術手帖』第32号、1950年7月、b4・zt
 鐺木清方「ゆかた」、『東海夕刊』(7月27日)、1950年7月、ag・b4・zt
 鐺木清方「ゆかた」、『佐賀新聞』(7月23日)、1950年7月、ag・b4・zt
 鐺木清方「ゆかた」、『新潟日報』(7月19日夕刊)、1950年7月、ag・b4・ts・zt
 鐺木清方「庶民・夏・常住座臥」、『北信新報』(7月20日)、1950年7月、ag・b4
 鐺木清方「ゆかた」、『熊本日日新聞』(7月20日)、1950年7月、ag・b4・zt
 鐺木清方「ゆかたの魅力」、『京都新聞』(7月22日)、1950年7月、ag・b4・zt
 鐺木清方「ゆかた」、『大分合同新聞』(7月23日)、1950年7月、ag・b4・zt
 鐺木清方「ゆかた」、『上毛新聞』(7月23日)、1950年7月、ag・b4・zt
 鐺木清方「庶民の夏」、『中部日本新聞』(7月26日)、1950年7月、ag・b4・zt

- 鐺木清方「二日月」、『大阪新聞』(9月21日)、1950年9月、ag・b4
 鐺木清方「美のありか」、『婦人画報』第552号、1950年9月、叢22
 鐺木清方「作品のゆくへ」、『文芸春秋』第28巻第1号、1951年1月、ag・b1
 鐺木清方「散歩」、『西日本新聞』(7月22日)、1951年7月、ag・b8
 鐺木清方「あさがお」、『朝日新聞』(8月4日夕刊)、1951年8月、az・b4
 鐺木清方「郷愁の色」、『東京新聞』(8月10日)、1951年8月、ag・b4・zt
 鐺木清方「ひとりごと」、『名古屋タイムス』(9月17日)、1951年9月、ag・b8
 鐺木清方「自薦未発表画五十一人集(38)『端午』、『アサヒグラフ』
 第55巻第39号(9月19日)、1951年9月
 鐺木清方「雁」、『産業経済新聞』(11月25日)、1951年11月、ag・b4・zt
 鐺木清方「雁」、『大阪新聞』(11月25日)、1951年11月、ag・b4・zt
 鐺木清方「鎌倉の美術館」、『産業経済新聞』(12月23日)、1951年12月、ag・b8
 鐺木清方「探梅」、『産業経済新聞』(1月22日)、1952年1月、ag・b5・zt
 鐺木清方「正月の思い出」、『東京新聞』(1月3日)、1952年1月、ag・b4・zt
 鐺木清方「菓子の会」、『産業経済新聞』(2月27日)、1952年2月、ag・b8
 鐺木清方「わが家の歴史」、『朝日新聞』(2月3日)、1952年2月、ag・b2・zm
 鐺木清方「金沢八景」、『小説新潮』第6巻第4号、1952年3月、ag・b5
 鐺木清方「尊氏と正成」、『中部日本新聞』(7月1日夕刊)、1952年7月、ag・b8
 鐺木清方「人相」、『中部日本新聞』(7月2日夕刊)、1952年7月、ag・b8
 鐺木清方「行儀」、『中部日本新聞』(7月3日夕刊)、1952年7月、ag・b8
 鐺木清方「芸術院の授賞式」、『中部日本新聞』(7月4日夕刊)、1952年
 7月、ag・b8
 鐺木清方「朝夕安居」、『中部日本新聞』(7月5日夕刊)、1952年7月、ag・
 b1・zt、叢3、叢9、叢16
 鐺木清方「交番の焼打」、『中部日本新聞』(7月6日夕刊)、1952年7月、
 ag・b8・zm
 鐺木清方「つゆあけ」、『中部日本新聞』(7月7日夕刊)、1952年7月、ag・b4・zt
 鐺木清方「汐風」、『歌舞伎の友』第2号、1952年9月、b6
 鐺木清方「木屋」、『Romance』、1952年10月、ag・b4・zt
 鐺木清方「道しるべ」、『中部日本新聞』(2月夕刊)、1953年2月、ag・b5
 鐺木清方「女芝居」、『中部日本新聞』(2月夕刊)、1953年2月、ag・b6、叢7
 鐺木清方「ある構図」、『中部日本新聞』(2月夕刊)、1953年2月、ag・b8
 鐺木清方「三国同盟」、『中部日本新聞』(2月15日夕刊)、1953年2月、ag・b8
 鐺木清方「桜ヶ池」、『中部日本新聞』(2月17日夕刊)、1953年2月、ag・b5
 鐺木清方「平和と追求」、『中部日本新聞』(2月21日夕刊)、1953年2月、ag・b8
 鐺木清方「逆説忠臣蔵」、『中部日本新聞』(2月26日夕刊)、1953年2月、ag・b8
 鐺木清方「私のモデル M夫人」、『朝日新聞』(3月5日)、1953年3月、
 ag・b1、叢7
 鐺木清方「季節と生活」、『婦人の友』47巻10号、1953年10月
 鐺木清方「菊文化の日に」、『東京新聞』(11月3日)、1953年11月、ag・b4・zt
 鐺木清方「引越ぎなし」、『朝日新聞』(11月3日)、1954年11月、ag・b2・zm
 鐺木清方「画室の反抗—あの頃のこゝろ—」、『改造』第37巻第1号、
 1955年1月、b1・k2、叢1、叢13、叢20
 鐺木清方「圓朝と野州の旅をした話」、『寄席風流』第5号、1955年8月、a
 g・b2・zm『新編人生の本』
 鐺木清方「こしかたの記」、『中央公論』第70年第10号、1955年10月、k1
 鐺木清方「こしかたの記」、『中央公論』第70年第12号、1955年12月、k1
 鐺木清方「菊池さんのこと」、『三彩』第70号、1955年12月、b3・tb、叢11
 鐺木清方『明石町』対面(上、下)、『毎日新聞』(12月10、11日)、
 1955年12月、ag・b1、叢1
 鐺木清方「こしかたの記」、『中央公論』第71年第1号、1956年1月、k1
 鐺木清方「こしかたの記」、『中央公論』第71年第2号、1956年2月、k1
 鐺木清方・北川桃雄(対談)「清方閑談」、『世界』第123号、1956年3月
 鐺木清方・北川桃雄(対談)「清方閑談」、『世界』第124号、1956年4月
 鐺木清方「こしかたの記」、『中央公論』第71年第5号、1956年5月、k1
 鐺木清方「深水の一面」(特集 伊東深水)、『造形』第2巻第7号・8号、
 1956年7月、b3、叢10
 鐺木清方「こしかたの記」、『中央公論』第71年第12号、1956年11月、
 k1、叢7
 鐺木清方「金鈴社以前」、『萌春』第43号(結城素明追悼号)、1957年4月、
 n32・tb、叢19
 鐺木清方「結城素明君を偲ぶ」、『美術街』第152号、1957年6月、b3、叢11
 鐺木清方「花火」、『絵と随筆 真珠』第1号、1957年9月
 鐺木清方・木村莊八・円地文子「”きもの”の移りかわり(伝統の新しさ3)」、
 『婦人の友』52巻3号、1958年3月
 鐺木清方「徳川夢声連載対談問答無用(第三百八十一回)』『週刊朝日』
 第63巻第32号、1958年8月、叢7
 鐺木清方「半古先生のこと」、『現代の眼』第45号、1958年8月、b3、叢11
 鐺木清方「古跡」、『声』第2号、1959年1月、ag・b3
 鐺木清方「思ひ出の佃小橋」、『表象』第2号、1959年6月、ag・b3
 鐺木清方「横寺町の先生」、『声』第5号、1959年10月、b2、叢15
 鐺木清方・高橋邦太郎「清方画伯と語る」、『萌春』第87号、1961年1月
 鐺木清方・高橋邦太郎「清方画伯と語るII」、『萌春』第88号、1961年2月
 鐺木清方「回想の江東」、『産業経済新聞』(4月19日江東版)、1961年
 4月、ag・b5
 鐺木清方「雪の下こぼれ話(1) 江東の梅を思ふ」、『毎日新聞』(3月25日
 夕刊)、1962年1月、ag・b5・zm
 鐺木清方「立姿(姿) [生活随筆]、『婦人の友』56巻2号、1962年2月、ag・b6
 鐺木清方「散歩(ずいひつ)、『婦人公論』第47巻第2号、1962年2月、ag・b8
 鐺木清方「雪の下こぼれ話(2) 青帛の仙女」、『毎日新聞』(3月26日夕)、
 1962年、ag・b3
 鐺木清方「雪の下こぼれ話(3) 失われた築地川」、『毎日新聞』(3月30日
 夕)、1962年、ag・b5・zm
 鐺木清方「雪の下こぼれ話(4)、(5) 御殿場高原 上、下」、『毎日新聞』
 (4月3、5日夕)、1962年、ag・b5
 鐺木清方「明治の生活美術寸言」、『明治の生活美術展』、サントリー美術
 館、1962年9月
 鐺木清方『明石町』をかいたところ、『講談社版 日本近代絵画全集 第21
 巻 鐺木清方 平福百穂 月報講談社、1962年10月
 鐺木清方・安田鞆彦、司会:河北倫明「明治・大正の美術界」、東京国立近
 代美術館「現代の眼」(国立近代美術館ニュース)第107号、1963年
 10月、b7・n32・kt
 鐺木清方「こしかたの記 大正の歩み 一」、『三彩』第172号、1964年4月、k2
 鐺木清方「こしかたの記 大正の歩み 二」、『三彩』第173号、1964年5月、k2
 鐺木清方「こしかたの記 大正の歩み 三」、『三彩』第174号、1964年6月、k2
 鐺木清方「こしかたの記 四 金鈴社一」、『三彩』第175号、1964年7月、
 k2、叢19
 鐺木清方「こしかたの記 五 金鈴社二」、『三彩』第176号、1964年8月、
 k2、叢19
 鐺木清方「こしかたの記 六 文展終期」、『三彩』第177号、1964年9月、k2
 鐺木清方「こしかたの記 六(ママ) 八景の金沢」、『三彩』第180号、
 1964年12月、k2、叢19
 鐺木清方「明治の東京」、『明治の東京展』、サントリー美術館、1965年9月
 鐺木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「むかしがたり — 鐺木清方氏」、
 『三彩』第192号、1965年10月、b5g・b4g・n32
 鐺木清方「追憶断片」、『三彩』第211号、1967年2月、b3
 鐺木清方・北川桃雄・藤本韶三「座談会 美人画を語る」(6月号増刊
 「美人画の百年)」、『三彩』第216号、1967年6月
 鐺木清方「三彩の創刊」(三彩創刊20周年に寄せて)、『三彩』第221号、
 1967年11月、b7
 鐺木清方「画帖朝顔日記について」、『三彩』第233号、1968年8月、b1、
 叢3、叢13

鐫木清方「かきぞめ」(隨筆)、『婦人の友』63 卷 1 号、1969 年 1 月、ag・b4・zt
鐫木清方「忘れぬ佛」、『小泉信三全集 23』月報 23、文芸春秋、1969 年 2 月、ag・b8
鐫木清方「弔辞」(追悼／北川桃雄)、『三彩』第 246 号、1969 年 7 月
鐫木清方「今様絵詞の会」(特集 I 鐫木清方の今様絵詞)、『三彩』第 249 号、1969 年 10 月、b1、叢 3
鐫木清方「上村松園論」、『三彩』第 256 号(臨時増刊)、1970 年 3 月
鐫木清方「市人の暮らし」、『季刊銀花』第 1 号(春の号)、1970 年 4 月、ag・b1、叢 3、叢 13、叢 16
鐫木清方「作品に寄せて」、『美術グラフ』第 20 卷第 12 号、1971 年 12 月
鐫木清方「確水と妙義」／鐫木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「清方むかしがたり(上)」、白風社編『鐫木清方文集 第五卷 名所古跡』月報 1 号、白風社、1979 年 2 月
鐫木清方「小説家と挿絵画家」／鐫木清方「湘南絵葉書」／鐫木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「清方むかしがたり(下)」、白風社編『鐫木清方文集 第四卷 春夏秋冬』月報 2 号、白風社、1979 年 3 月
鐫木清方「清方の書簡」／鐫木清方「弔辞」／鐫木清方・奥村土牛・山口蓬春・太田聴雨・藤森順三「鐫木清方を囲んで」、白風社編『鐫木清方文集 第三卷 先人後人』月報 3 号、白風社、1979 年 5 月
鐫木清方「自作自解」／鐫木清方「小説の挿絵」、白風社編『鐫木清方文集 第二卷 明治追懐』月報 5 号、白風社、1979 年 11 月
鐫木清方「遠望した岡倉先生」、『岡倉天心全集 月報 3』平凡社、1980 年 2 月、b8
鐫木清方「幸四郎の思ひ出」、白風社編『鐫木清方文集 第六卷 時社風俗』月報 6 号、白風社、1980 年 2 月
鐫木清方・安田靱彦、河北倫明(司会)「対談 明治・大正の美術界」／鐫木清方・山口蓬春、藤本韶三(司会)「対談清方に聴く」、白風社編『鐫木清方文集 第七卷 画壇時事』月報 7 号、白風社、1980 年 6 月
鐫木清方「清方の随筆から」(巻頭特集 鐫木清方)、『三彩』第 508 号、1990 年 1 月
鐫木清方「影を追うー水上瀧太郎追悼(三田文学創刊九十年 三田文学名作選)」、『三田文学』臨増、2000 年 5 月

IV 作品評、鐫木清方論等

(一) 評論、エッセイ等

「浮世絵の青年画家が結婚」、『都新聞』(9 月 5 日)、1903 年 9 月
「談叢」、『美術新報』第 7 卷第 2 号、1908 年 4 月
「附録 鐫木清方筆 松の内(原色版)」、『美術画報』第 29 編巻 3、1911 年 1 月
坂井犀水「新時代の作家(8) 鐫木清方氏」、『美術新報』第 11 卷第 12 号、1912 年 12 月、n32
鐫木照子「この頃の夫」(細君の見たる良人)(談)、『新小説』第 18 年 第 6 卷、1913 年 6 月
碧雲居士「名家訪問記(4) 鐫木清方氏」、『美術新報』第 13 卷第 3 号、1914 年 1 月
秋生「清方氏との半時間」、『日本美術』第 17 卷第 2 号、1914 年 12 月
林田春潮「一種のアイデアリスト」(現代作家評論(2) 鐫木清方論)、『多都美』第 10 卷第 2 号、1916 年 2 月
古川修「夢の世界の美人画家」(現代作家評論(2) 鐫木清方論)、『多都美』第 10 卷第 2 号、1916 年 2 月
下村観山「新しいトラデツションを辿る人」(現代作家評論(2) 鐫木清方論)、『多都美』第 10 卷第 2 号、1916 年 2 月
川合玉堂「真面目な姿」(現代作家評論(2) 鐫木清方論)、『多都美』第 10 卷第 2 号、1916 年 2 月
鴨下見湖「清方君と山村君と」(現代作家評論(2) 鐫木清方論)、『多都美』第 10 卷第 2 号、1916 年 2 月
井沢蘇水「品位ある江戸前の作家」(現代作家評論(2) 鐫木清方論)、『多

都美』第 10 卷第 2 号、1916 年 2 月
「志筑漫筆 清方氏夫妻と輝方氏と蕉園女史」、『美術画報』第 40 編巻 2、1917 年 1 月
「鐫木清方君の芸術」、『美術』第 1 卷第 3 号、1917 年 1 月
白木生「清方画塾の新年会」、『中央美術』第 3 卷第 2 号、1917 年 2 月
古川修「日本画家五氏の作品」、『美術新報』第 17 卷第 1 号、1917 年 11 月
石井直三郎「契月と清方と百穂」、『美術画報』第 41 編巻 1、1917 年 11 月
坂井犀水「金鈴社第 3 回展覧会を觀る」、『中央美術』第 4 卷第 6 号、1918 年 6 月
川合玉堂「鐫木清方氏」(文展推薦の七作家)、『中央美術』第 4 卷第 11 号、1918 年 11 月、叢 21
門井掬水「紫陽花の思ひ出(浜町以前)」(清方先生と塾(大家と門生)(2))、『中央美術』第 5 卷第 8 号、1919 年 8 月
伊東深水「恩師と塾に対する感想(浜町以後)」(清方先生と塾(大家と門生)(2))、『中央美術』第 5 卷第 8 号、1919 年 8 月
林田春湖「鐫木清方君」(帝展新審査員是非)、『中央美術』第 5 卷第 11 号、1919 年 11 月
「忙語閑話」、『美術写真画報』第 1 卷第 1 号、1920 年 1 月
岡本一平「漫画の帝展 見せもの『妖魚』鐫木清方氏筆」、『中央美術』第 6 卷第 11 号、1920 年 11 月
「清方の『雪十種』」、『中央美術』第 7 卷第 4 号、1921 年 4 月
吉川靈華「完成された浮世絵」(鐫木清方論)、『中央美術』第 7 卷第 9 号、1921 年 9 月、叢 21
山中古洞「清方君の半面」(鐫木清方論)、『中央美術』第 7 卷第 9 号、1921 年 9 月、叢 21
正宗得三郎「寸感」(鐫木清方論)、『中央美術』第 7 卷第 9 号、1921 年 9 月、叢 21
鯉崎英男「努力の人」(鐫木清方論)、『中央美術』第 7 卷第 9 号、1921 年 9 月、叢 21
笹川臨風「自動車と洋服」(鐫木清方論)、『中央美術』第 7 卷第 9 号、1921 年 9 月、叢 21
「清方門下の人々」、『美術画報』第 46 編巻 6、1923 年 4 月
「夫を画星たらしめた鐫木夫人」、『現代』、1923 年 8 月
小早川秋声・清欠青壁「鐫木清方論」、『アトリエ』第 2 卷第 12 号、1925 年 12 月
竹内生「鐫木清方」(現代の画家)、『書画骨董雑誌』第 233 号、1927 年 1 月
泉鏡花「玉川の草」、『文藝春秋』第 5 年 第 6 号、1927 年 6 月、叢 7
「清方氏の注文帳 郷土会を觀る」(展覧会記)、『中央美術』第 13 卷第 7 号、1927 年 7 月
鐫木照「母と娘 今の心もち」、『婦人公論』第 12 卷第 7 号、1927 年 7 月、叢 13
泉鏡花「健ちゃん大出来!」、『美之国』第 3 卷第 9 号、1927 年 11 月、b4g・k28、叢 7
川合玉堂「鐫木氏の作と人と」、『美之国』第 3 卷第 9 号、1927 年 11 月
竹内栖鳳「独特の芸術境ー清方氏の事ー」、『美之国』第 3 卷第 9 号、1927 年 11 月
前田青邨「都会人の絵」、『美之国』第 3 卷第 9 号、1927 年 11 月
「昭和人物月旦」、『文芸春秋』第 7 卷第 5 号、1929 年 5 月
外狩素心庵「鐫木さんの『春駒』に乗る」、『芸術』第 8 卷第 1 号(1 月 5 日)、1930 年 1 月
「麦水雑誌 清方画伯と延寿氏」、『芸術』第 8 卷第 11 号(8 月 15 日)、1930 年 8 月
安田靱彦「感じたまま」(鐫木清方氏を語る)、『アトリエ』第 7 卷第 11 号、1930 年 11 月、b3g・yg・n32
土田麦偃「名人と清方さん」(鐫木清方氏を語る)、『アトリエ』第 7 卷第 11 号、1930 年 11 月
木村莊八「有縁清方」(鐫木清方氏を語る)、『アトリエ』第 7 卷第 11 号、1930 年 11 月
宇野浩二「清方先生管見」(鐫木清方氏を語る)、『アトリエ』第 7 卷第 11 号、1930 年 11 月、b5g

- 山口蓬春「吾等の鑄木先生」(鑄木清方氏を語る)、『アトリエ』第7巻第11号、1930年11月
- 「堅気な名匠・鑄木清方」、『文芸春秋』第9巻第3号、1931年3月
- 「菊 鑄木清方氏筆」、『塔影』第7巻第10号、1931年10月
- 泉鏡花『美人畫全集』に題す、『現代作家 美人畫全集月報』、1931年10月、叢7
- 浜崎三夏「清方と恒富」、『塔影』第8巻第1号、1932年1月
- 「清方氏『初雁の御歌』 神宮壁畫を完成」、『塔影』第8巻第3号、1932年3月
- 「一、初雁の御歌(明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫) 鑄木清方氏筆」、『塔影』第8巻第5号、1932年5月
- 「二、初雁の御歌(同前、下繪)」、『塔影』第8巻第5号、1932年5月
- 「潮みつ浜 鑄木清方氏筆」、『塔影』第9巻第2号、1933年2月
- 「献上屏風(讚春) 鑄木清方氏筆」、『塔影』第9巻第9号、1933年9月
- 神崎憲一「日本画に於ける四つの立場」、『塔影』第10巻第1号、1934年1月
- 豊田豊「六朝会の日本画」、『塔影』第10巻第3号、1934年3月
- 「鑄木清方氏の個展」、『アトリエ』第11巻第7号、1934年7月
- 神崎生(神崎憲一)『銀砂子』を讀む、『塔影』第11巻第7号、1934年7月
- 齊田素州「鑄木清方氏作品第一回展」、『塔影』第10巻第7号、1934年7月
- 泉鏡花『築地川』序、『築地川』、1934年10月、叢7
- 神崎生(神崎憲一)「清方氏著『築地川』」、『塔影』第10巻第12号、1934年12月
- 一松・柏亭・楽之軒・修・白里「帝展評評話『妓女像』鑄木清方」、『阿々土』第3号、1934年12月
- 藤森順三「鑄木さんの『築地川』」、『美術評論』第4巻第1号、1935年1月
- 横川毅一郎「現代作家人物論(15) 鑄木清方」、『アトリエ』第12巻第3号、1935年3月
- 広瀬熾六「清方と莊八」、『塔影』第11巻第3号、1935年3月
- 雄山亘「当今個展ばかり(深水・龍子・青邨・清方個展)」、『現代美術』第2巻第4号、1935年4月
- 「泉鏡花作 鑄木清方画 注文帳画譜、『阿々土』別巻第2号、1935年4月
- 「清方風俗絵展」、『美之国』第11巻第4号、1935年4月
- 雄山亘「鑄木清方氏個展 明治風俗」、『美術街』第4巻第6号、1935年6月
- 山口玄珠「大通清方」、『阿々土』第4号(鑄木清方特集号)、1935年6月
- 「鑄木清方略歴・鑄木清方作画年表」、『阿々土』第4号(鑄木清方特集号)、1935年6月
- 吉井勇「画壇三秀」、『塔影』第11巻第6号、1935年6月
- 豊田豊「鑄木清方個展随想」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月
- 豊田豊「鑄木清方舞台装置『たけくらべ』」、『塔影』第11巻第8号、1935年8月
- 藤森順三「清方第二回個展」、『美術評論』第4巻第6号、1935年8月
- 「鑄木清方作品第二回展観」、『阿々土』別巻第4号、1935年10月
- 外狩素心庵「美術時評(清方大人の言説)」、『アトリエ』第13巻第1号、1936年1月
- 山川秀峰「圓朝と(慶喜恭順)」、『繪畫教習』第4巻第6号、1936年6月
- 今井繁三郎「鑄木清方氏個展」、『美之国』第12巻第7号、1936年7月
- 豊田豊「清方の個展と主題主義」、『塔影』第12巻第8号、1936年8月
- 古山順一「鑄木清方氏第三回個展」、『美術街』第3巻第8号、1936年8月
- 藤森順三「清方第三回個展」、『美術評論』第5巻第5号、1936年8月
- 金井紫雲「日本画展巡礼 鑄木清方氏個展」、『アトリエ』第13巻第8号、1936年8月
- 「鑄木清方個展(美術界彙報 画壇情勢摘録)、『中央美術』復興第37号、1936年9月
- 山川秀峰「舞踊画に就て」、『塔影』第12巻第12号、1936年12月
- 泉鏡花『薄紅梅』(14)、『東京日日新聞』(1月20日)、1937年1月、叢7
- 今井繁三郎「人物風景 清方先生」、『美之国』第13巻第9号、1937年9月
- 神崎憲一「鑄木清方氏著『蘆の芽』」、『塔影』第14巻第10号、1938年10月
- 金原省吾「鑄木清方論」、『阿々土』第28号、1939年10月
- 高沢初風「青邨清方の舞台装置—菊五郎の続太閤記と高尾—」、『塔影』第16巻第7号、1940年7月
- 本間久雄「『彩雨』と『一葉』—奉祝展鑑賞二題—」、『塔影』第16巻第12号、1940年12月
- 藤懸静也「肖像をかるゝの記」(マ)、『造形芸術』第3巻第4号、1941年4月
- 高沢初風「清方と清元」、『塔影』第17巻第4号、1941年4月
- 高山道子「鑄木清方先生」(道子の画壇訪問(2))、『美術と趣味』第6巻第5号、1941年5月、b7
- 村松梢風「鑄木清方のこと」、『中央公論』第56年第8号、1941年8月
- 木村莊八「鑄木さん、雑感」、『画論』第6号、1942年2月、tf
- 鈴木進「文人清方」、『画論』第6号、1942年2月
- 「鑄木清方写生帖」、『画論』第6号、1942年2月
- 藤本四八「鑄木清方氏 生活の周囲」、『画論』第6号、1942年2月
- 神崎憲一「布晒し」、『国画』第2巻第12号、1942年12月
- 北川桃雄「清方」、『三彩』第13号、1947年11月
- 久保田万太郎「かまくら雑記」、『久保田万太郎全集』第17巻、1949年6月
- 中田宗男「画家とふるさと—清方・恒友を中心に—」、『三彩』第33号、1949年8月
- 「日本画名作モデル告知板 鑄木清方(朝涼)」、『アサヒグラフ』第54巻第17号(10月25日)、1950年10月
- 「君は金屏の前」(結婚記念写真拝見)、『アサヒグラフ』第54巻第17号(10月25日)、1950年10月
- 鑄木照「日本画家鑄木清方の妻として五十年」、『婦人公論』第35巻第11号、1950年11月、ag『鑄木清方: 市井に生きたまなざし(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月再録)
- 河北倫明「鑄木清方の芸術」、『三彩』第48号、1950年12月
- 藤懸静也「清方画業五十年」、『アサヒグラフ』第54巻第23号(12月6日)、1950年12月
- 藤懸静也「鑄木清方先生筆の私の画像」、『三彩』第51号、1951年2月、blg
- 河原義和「鑄木清方論」、『現代の日本畫家』美術主義評論社、1951年7月
- 高橋成一郎「鑄木清方」(人と作品7)、『芸術新潮』第4巻第12号、1953年12月
- 伊東深水「肖像画雑感」、『萌春』第6号、1954年3月
- 伊東深水「清方先生の繪画について」、『萌春』第9号、1954年6月
- 鈴木進「清方先生」、『萌春』第9号、1954年6月
- 「文化勳章に輝く五氏 庶民感情一すじに」、『朝日新聞』(10月15日)、1954年10月
- 「清方芸術の世界—文化勳章受章に際して—」、『萌春』第15号、1954年12月
- 河北倫明「鑄木清方の芸術」、『文芸春秋』第33巻第7号、1955年4月
- 藤森順三「続清方名作展によせて」、『美術案内』第9号、1956年4月
- 加藤一雄「清方私抄(作家小論10)」、『三彩』第77号、1956年7月
- 加藤一雄「一葉女史の墓」、『三彩』第90号、1957年8月
- 木村莊八「にごりえのたのしき」、『萌春』第53号、1958年3月、b8
- 北川桃雄「雪の下閑日—清方画伯を訪ねて」、『三彩』第112号、1959年3月
- 北川桃雄「清方の下繪とスケッチについて」、『萌春』第72号、1959年10月
- 大河内信敬「セザンヌ断想(清方の線とセザンヌの線)」、『萌春』第七三号、1959年11月
- 北川桃雄「清方の下繪とスケッチ」、『三彩』第120号、1959年11月
- 関千代「烏合会について」、『美術研究』第209号、1960年3月
- 和田芳恵「ふたつの一葉像」、『萌春』第90号、1961年4月
- 森田たま「清方先生の『こしかたの記』」、『萌春』第91号、1961年5月
- 大佛次郎「初冬の花—鑄木清方自選展—」、『毎日新聞』(5月19日夕刊)、1962年5月
- 久富貢「鑄木清方自選展を見て」、『萌春』第102号、1962年6月
- 三木多聞「現代日本の名画を追って: 鑄木清方筆(三遊亭円朝像)」、『萌春』第102号、1962年6月
- 野間清六「鑄木清方の芸術」(特集II 鑄木清方)、『三彩』第151号、1962年6月

- 小糸源太郎・河北倫明(対談)「明治情緒と鑷木清方の芸術」(特集Ⅱ 鑷木清方)、『三彩』第151号、1962年6月
- 岩田藤七『築地明石町』界限—清方先生の名作に触れて—、『絵と随筆真珠』第15号、1962年9月
- 板垣鷹徳「生活を描く肖像—現代日本画の一業績—」、『国際文化』第108号、1963年
- 村松定孝「鑷木清方と泉鏡花」、『本の手帖』第5巻第1号、1965年2月
- 名取堯「庭の芭蕉—平福百穂、鑷木清方氏らのこと」、『武蔵野美術』第54号、1965年3月
- 藤本韶三「書評 続こしかたの記」、『三彩』第221号、1967年11月
- 芝木好子「鑷木清方先生の絵」(特集Ⅰ 鑷木清方の今様絵詞)、『三彩』第249号、1969年10月
- 藤本韶三「鑷木清方の今様絵詞の会について」(特集Ⅰ 鑷木清方の今様絵詞)、『三彩』第249号、1969年10月
- 「市井の女(清方の描いた人たち)」、『季刊銀花』第1号(春の号)、1970年4月
- 「こごりえ 清方挿絵抄」、『季刊銀花』第1号(春の号)、1970年4月
- 和田芳恵「鑷木清方の『こごりえ』をみて」、『季刊銀花』第1号(春の号)、1970年4月
- 藤本韶三「鑷木清方展が開かれる」、『三彩』第278号、1971年10月
- 河北倫明「美術史上の清方先生」、『画集 鑷木清方』、毎日新聞社、1971年10月
- 鈴木進「文人・清方」、『画集 鑷木清方』、毎日新聞社、1971年10月
- 河北倫明「鑷木清方の芸術」、『毎日新聞創刊百年記念 鑷木清方展』、毎日新聞社、1971年10月
- 鈴木進「雪の下 鑷木邸」、『毎日新聞創刊百年記念 鑷木清方展』、毎日新聞社、1971年10月
- 岩田藤七「清方先生」、『萌春』第208号、1972年3月
- 「亡き名画家を惜しむ:北駿にゆかり深い清方画伯 作品が家宝の池谷家」、『岳麓新聞』(3月4日)、1972年3月
- 小川正隆「鑷木清方さんを悼む」、『朝日新聞』(3月3日)、1972年3月、b
- 岩田藤七「清方先生」、『萌春』第209号、1972年4月
- 鈴木進・藤本韶三「対談・鑷木清方先生を憶う(追悼)」、『三彩』第286号、1972年4月
- 山田肇「最晩年の鑷木清方」、『学鏡』第69巻第5号、1972年5月
- 中村真一郎「清方の死と生」、『中央公論』第87巻第5号、1972年5月
- 芝木好子「清方先生とのある日」、『海』、1972年9月
- 菊池芳一郎「町絵師魂を貫いた生涯—鑷木清方の死に思う—」、『美術グラフ』第21巻第4号、1972年12月
- 菊池芳一郎「4つの回顧展(2) 鑷木清方展」、『美術グラフ』第14巻第8号、1973年10月
- 井上るり子「鑷木清方(一)」、『萌春』第233号、1974年6月
- 井上るり子「鑷木清方(二)」、『萌春』第235号、1974年8月
- 井上るり子「鑷木清方(三)」、『萌春』第236号、1974年9月
- 高階秀爾・芳賀徹・越智治雄「清方芸術と明治の近代—(一葉女史の墓)をめぐる—」、『淡交』第29巻第2号、1975年2月
- 井上るり子「鑷木清方(四)」、『萌春』第241号、1975年3月
- 里見淳「温容」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月、b8g・za
- 文:吉行淳之介「清方美人画帖」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 吉行淳之介「私にとっての美女」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 「明治下町曆」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 芝木好子「明治の面影」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 『鑷木清方:市井に生きたまなざし(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月再録)
- 文:戸板康二「清方と明治の文人たち」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 戸板康二「さまざまな魂の懸け橋」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 小林忠「随筆特集 鑷木清方の卓上芸術」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 高橋邦太郎「随筆特集(築地明石町)のモデル」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 山田肇「随筆特集 岳父清方のこと」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 川口松太郎「特集小説 築地川の女」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 太田治子「特集ガイド 回想の明治 東京下町地図」(特集 鑷木清方 回想の明治)、『太陽』第164号、1976年1月
- 瀬木慎一「芳年の思想的考察」(特集=幕末の思想 近代日本の源流)、『現代思想』第4巻第4号、1976年4月
- 笠松紫浪「わが師・鑷木清方と木版画」、『版画芸術』16号、1977年1月
- 馬場京子「愁いと苦渋の匂い ためさるる日」(グラフィア)、『婦人公論』第62巻第2号、1977年2月
- 福富太郎「薄雪と私」、福富太郎編「美人画百年 わが家の美術館」(マイライフシリーズ)第88号、グラフィア社、1977年7月
- 馬場京子「可憐な下町娘 一葉女史の墓」(グラフィア)、『婦人公論』第62巻第12号、1977年12月
- 細野正信「目黒雅叙園コレクション(五) 清方と深水」、『萌春』第273号、1978年2月
- 田中日佐夫「美人画家を助けた美人妻」、『文芸春秋』第55巻第2号、1978年2月
- 藤浦富太郎「(私と鑷木清方)余談」、『江戸っ子』第18号、1978年4月
- 野坂昭如「清方体験—(俗っぽさ)といふこと—」、『芸術新潮』第29巻第8号、1978年8月
- 宇野浩二「清方先生管見」、白風社編「鑷木清方文集 第五巻 名所古跡」月報1号、白風社、1979年2月
- 鈴木進「女性美—美人画の系譜—」(特集 女性美—美人画・風俗画・肖像画) / 「上村松園・鑷木清方・伊東深水 作品略年譜」、『三彩』第378号、1979年3月
- 泉鏡花(鏡花小史)『築地川』序 / 泉鏡花「健ちゃん大出来!」、白風社編「鑷木清方文集 第四巻 春夏秋冬」月報2号、白風社、1979年3月
- 安田鞞彦「感じたまま」、白風社編「鑷木清方文集 第三巻 先人後人」月報3号、白風社、1979年5月
- 芳賀徹・高階秀爾・小林忠・山田肇「討論 清方の文章(上)」 / 藤懸静也「鑷木清方先生筆の私の画像」、白風社編「鑷木清方文集 第一巻 制作餘談」月報4号、白風社、1979年8月
- 「鑷木清方にみる明治の風俗」(グラフィア サンデー美術館)、『サンデー毎日』(10月7日)、1979年10月
- 芳賀徹・高階秀爾・小林忠・山田肇「討論 清方の文章(中)」、白風社編「鑷木清方文集 第二巻 明治追懐」月報5号、白風社、1979年11月
- 斎藤言也「私と清方先生」(酔中IV)、『週間新潮』(11月8日)、1979年11月
- 芳賀徹・高階秀爾・小林忠・山田肇「討論 清方の文章(下)」、白風社編「鑷木清方文集 第六巻 時粧風俗」月報6号、白風社、1980年2月
- 戸板康二「温容の達人」『名作挿絵全集 第一巻』、平凡社、1980年7月
- 里見淳「温容」 / 大佛次郎「鑷木清方画伯」 / 久米正雄「更正文展を見る」 / 宇野浩二「更正文展(書きのぞ記)」 / 木村荘八「こごりえ」のたのしさ / 奥村土牛「清方先生」、白風社編「鑷木清方文集 第八巻 随時随感」月報8号、白風社、1980年9月
- 藤本韶三「鑷木清方先生Ⅰ～Ⅲ」(思い出の人々 その13～15)、『三彩』第339-401号、1980年12月、1981年1月、2月

- 三宅正太郎「鑑木清方の「高野聖」』『カラーグラフィック・学研版 明治の古典 高野聖 歌行燈』月報3、1981年10月
- 塩川京子「春の女 美人画に描かれた春」、『太陽美人画シリーズ I 春の女』(太陽シリーズ)第29号、平凡社、1982年2月
- 大原富枝「懐かしい昔の下町 私と鑑木清方」、『太陽美人画シリーズ I 春の女』(太陽シリーズ)第29号、平凡社、1982年2月
- 岡畏三郎「鑑木清方・人と作品」、『太陽美人画シリーズ I 春の女』(太陽シリーズ)第29号、平凡社、1982年2月
- 島田康寛「鑑木清方」、『美術グラフ』第5巻第3号、1984年3月
- 芥川喜好「慶喜恭順 透明になっていく憂い」、『読売新聞』(日曜版・2月9日)、1986年2月
- 海野弘「鑑木清方」(東京風景史の人々 2回)、『東京人』、1986年4月
- 穂田満文「コンビの本(9) 泉鏡花と鑑木清方 小村雪岱」、『日本古書通信』通巻722号、日本古書通信社、1989年9月
- 藤本韶三「鑑木清方先生追憶」(巻頭特集 鑑木清方)、『三彩』第508号、1990年1月
- 細野正信「清方、人と芸術」(巻頭特集 鑑木清方)、『三彩』第508号、1990年1月
- 大塚雄三「鑑木清方展によせて」(巻頭特集 鑑木清方)、『三彩』第508号、1990年1月
- 中島理寿「鑑木清方年譜・清方理解のために」(巻頭特集 鑑木清方)、『三彩』第508号、1990年1月
- 山田肇・鈴木進(対談)「美を語る 19 鑑木清方 開明思想による“清方肖像画”への栄達」、『アート・トップ』第115号、1990年3月
- 野上飛雲「清方の松—鑑木清方」(連載 海辺の文学 52)、『かまくら春秋』第244号(8月号)、1990年7月
- 福富太郎「ART NEWS 鑑木清方 絵を読む楽しみ」、『芸術新潮』第43巻第3号、1992年3月
- 福富太郎「福富太郎のアート・キャバレー2 号店(第一回)引き寄せて愉しむ—鑑木清方と小村雪岱二つの『注文帳』」、『芸術新潮』第48巻第6号、1997年6月
- 岡田啓蔵「清方が見た牛込」、『ここは牛込、神楽坂』第15号、1999年
- 坂崎重盛・佐藤三千彦・鶴賀伊勢太夫・たちかべまさこ「私と清方「鑑木清方展」に寄せて」、『ここは牛込、神楽坂』第15号、1999年
- 夏目正衛「鑑木先生に女性の裾さばきのことを教えていただきました。」、『ここは牛込、神楽坂』第15号、1999年
- 花柳比奈代「築地明石町」、『酔月情話』、『ここは牛込、神楽坂』第15号、1999年
- 江木基彦・江木重男「祖母ませ子になぞらえて、鑑木清方先生は紫陽花を描いてくれました。」、『ここは牛込、神楽坂』第15号、1999年
- 坂崎重盛「清方の随筆集を手にする喜び」、『ここは牛込、神楽坂』第15号、1999年
- 「特集 鑑木清方が描き、語る 私の東京ものがたり」、『芸術新潮』第50巻第4号、1999年4月
- 池内紀「鏡花と清方」、『ユリイカ』第438号、青土社、2000年10月
- 高井有一「夢か現か(26)鎌倉に清方住めり」、『ちくま』第414号、2005年9月
- 倉田公裕「画文人・鑑木清方 讃」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 宮崎徹「こしかたの道」(「生粹の東京っ子 明治 11~23 年」)／「挿絵画家からの出発 明治 24~33 年」／「烏合会結成 明治 34~39 年」／「画壇の花形作家へ 明治 40 年~大正 7 年」／「帝展での苦悩と関東大震災 大正 8~14 年」／「清方の画室一本郷龍岡町から牛込矢来町へ 大正 15 年~昭和 20 年」／「鎌倉に住まう 昭和 21~47 年」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 宮崎徹「清方画業の変遷」(「師・水野年方と清方初期の習作」)／「新時代の風俗画を描く」／「文展時代の新境地」／「清方芸術」への到達」／「卓上芸術」の世界」／「心のふるさとへの思慕」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 山下裕二「江戸憧憬の美人画」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 塩川京子「芝居好きの絵心」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 家田奈穂「清方写生帖」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 吉田昌志「挿絵名画館」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 坂崎重盛「清方随筆余滴」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 青木玉「祖父の本の女の口絵」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 福富太郎「清方先生のお宅に通った日々」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 『鑑木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)平凡社、2022年3月再録
- 堀越友規子「お預かりした絵のこと」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 宮崎徹「三遊亭圓朝との旅」／「樋口一葉への追慕」／「泉鏡花との交友」／「戦中の画業と疎開生活」／「鎌倉の画室について」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 鎌倉市鑑木清方記念美術館「鑑木清方略年譜」、『別冊太陽 日本のこころ』第152号、2008年4月
- 「鑑木清方」、『別冊太陽 日本のこころ』第154号、2008年8月
- 「特集 鑑木清方、阿部出版」『版画芸術 見て・買って・作って・アートを楽しむ』第148号、2010年6月
- 「泉鏡花」『注文帳画譜』木版画になった名作挿絵、『版画芸術』第39巻第1号(通号148)、2010年
- 「鑑木清方—口絵美人画の世界」、『版画芸術』第39巻第1号(通号148)、2010年
- 『新小説』石版多色刷りの口絵美人画、『版画芸術』第39巻第1号(通号148)、2010年
- 『文芸倶楽部』木版多色摺りの口絵美人画、『版画芸術』第39巻第1号(通号148)、2010年
- 「名作文学の口絵美人画—菊池幽芳『乳姉妹』』『百合子』』『秘中の秘』渡辺霞亭『渦巻』尾崎紅葉『金色夜叉』泉鏡花『田毎かがみ』『無憂樹』『神鑿』『婦系図』『薄紅梅』『三枚続』『風流線』、『版画芸術』第39巻第1号(通号148)、2010年
- 宮崎徹「新しもの好きの清方」、『版画芸術』第39巻第1号(通号148)、2010年
- 三戸信恵「江戸/東京を愛した画家、鑑木清方」、『東京人』第25巻第1号(通号276)、2010年1月
- 「めぐるひとびと 水上瀧太郎/久保田万太郎 里見淳/鑑木清方 邦枝完二/木村荘八」、『芸術新潮』第61巻第2号(通号722)、2010年2月
- 「鑑木清方」、『別冊太陽 日本のこころ』第167号、2010年3月
- 関万希子『墨の余滴』、三月書房、2019年1月
- 根本章雄「孫から見た忘れぬ思い出」、『鑑木清方と金鈴社 吉川靈華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに』(鑑木清方記念美術館叢書21)、2019年2月
- 根本章雄「孫が語る 鑑木清方 その人、その姿」(インタビュー)、『美人画研究会誌 紫陽花』創刊号、2019年6月
- 今西彩子「鑑木清方の御殿場疎開生活の足跡を辿る」、『美人画研究会誌 紫陽花』創刊号、2019年6月
- 根本章雄「孫が語る 鑑木清方 その人、その姿 第2回」(インタビュー)、『美人画研究会誌 紫陽花』第2号、2019年12月
- 鬼頭美奈子「鑑木清方(露の干ぬ間)」(町駕籠)修理報告、『美人画研究会誌 紫陽花』第2号、2019年12月
- 角田拓朗「築地明石町」観覧記、『美人画研究会誌 紫陽花』第2号、

- 2019年12月
今西彩子「鐮木清方の御殿場疎開生活の足跡を辿る その2」、『美人画研究会誌紫陽花』第2号、2019年12月
- 今西彩子「鐮木清方の美人画 一築地明石町を中心に」、『芸術新潮』71巻3月号、2020年2月
- 根本章雄「孫が語る 鐮木清方 その人、その姿 第3回」(インタビュー)、『美人画研究会誌 紫陽花』第3号、2020年6月
- 今西彩子「明治～昭和に生きた美人画家 西田青坡展報告 その1」、『美人画研究会誌紫陽花』第3号、2020年6月
- 今西彩子「明治～昭和に生きた美人画家 西田青坡展報告 その2」、『美人画研究会誌紫陽花』第4号、2021年1月
- 根本章雄「孫から見た忘れぬ思い出」、『鐮木清方と昭和の美人画 一青衿会及び『婦人画報』関係作品所収一』(鐮木清方記念美術館叢書 22) 鎌倉市鐮木清方記念美術館、2021年2月
- 篠原聰「鐮木清方筆『色の港』作品解説」、『美人画研究会誌紫陽花』第5号、2021年8月
- 今西彩子「岡鬼太郎と鐮木清方の仙台松島紀行」、『美人画研究会誌紫陽花』第5号、2021年8月
- 根本章雄「鐮木清方歿後50年を迎えるにあたって」、『美人画研究会誌紫陽花』第6号、2021年12月
- 根本章雄「孫から見た清方」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 今西彩子「作品解説」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 鶴見香織「作品解説」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 小倉実子「作品解説」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 鬼頭美奈子「作品解説」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 角田拓朗「作品解説」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 荒井経「『築地明石町』に秘められた技」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 渡辺保「鐮木清方 二つの世界」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 長崎巖「鐮木清方作品にみる服飾描写」、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 篠原聰「鐮木清方とその弟子たち」、『作品解説』、『鐮木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 根本章雄「清方と私」(私家版)、2022年3月
- 根本章雄「歿後50年を迎えた清方との思い出」、『没後50年鐮木清方展』図録、2022年3月
- 小倉実子「清方さんと京都」、『作品解説』、『没後50年鐮木清方展』図録、2022年3月
- 山崎菜未「清方の描く装い」、『没後50年鐮木清方展』図録、2022年3月
- 小玉祥子「清方と娘道成寺」、『没後50年鐮木清方展』図録、2022年3月
- 鶴見香織「小さくえがく」、「生活をえがく」、「作品解説」、『没後50年鐮木清方展』図録、2022年3月
- 真室佳武「今も生きる清方の世界」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 根本章雄「清方の後半生を共に過ごした30年」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 鶴見香織「清方という画家、《築地明石町》から」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 鬼頭美奈子「五感で楽しむ清方美人」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 西山純子「浮世絵と清方」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 今西彩子「清方の理想郷 ～水辺に広がる生活と風景～」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 穴倉玉日「鏡花と清方」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 東雅夫「怪談と清方」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 加門七海「着物と清方」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 岩下尚史「近代演藝との縁の結び目 一鐮木清方考」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 堀越友規子「お雛様の絵のこと」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 日野原健司「師・水野年方と清方」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 内藤正人「愛惜と、ためらい 一清方に宿る江戸浮世絵の遺伝子」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 篠原聰「鐮木清方の社会画」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 谷口榮「新江東と清方 一隅田川と荒川放水路」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 出口智之「幻影のなかの樋口一葉」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 山下裕二「渡辺省亭 一清方が心寄せた先達」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 角田拓朗「清方美人の工夫 一『京鹿子娘道成寺』を踊ってみる」、『鐮木清方：市井に生きたまなざし』(別冊太陽 日本のこころ 298)』平凡社、2022年3月
- 篠原聰「文芸的な、あまりに文芸的な美人画」、『芸術新潮』第73巻第4号、2022年4月
- 坂本葵「明治・大正のカラーグラビア 口絵のなかのヒロインたち」、『芸術新潮』第73巻第4号、2022年4月
- 角田拓朗「清方好みの美人」、『芸術新潮』第73巻第4号、2022年4月
- 前橋重二「危うし、卓上芸術 再説『註文帳画譜』の謎」、『芸術新潮』第73巻第4号、2022年4月
- 根本章雄・根本信子「孫が語る「新・こしかた」の記」、『芸術新潮』第73巻第4号、2022年4月
- 加門七海「清方の着物、着たくなる着物」、『芸術新潮』第73巻第4号、2022年4月
- 今西彩子「羽ばたく弟子たち 師・清方から受け継いだもの」、『芸術新潮』第73巻第4号、2022年4月
- (二)研究論文
- 木村莊八「鐮木清方雑感」、『近代挿絵考』、双雅房、1943年12月
- 河原義和「鐮木清方論」、『現代の日本画家』、美術主義評論社、1951年7月
- 鈴木進「鐮木清方 浮世絵の伝統を現代に生かした」、『日本近代絵画全集 第21巻 鐮木清方 平福百穂』、講談社、1962年10月
- 柴木好子「鐮木清方 内面の美を求めて」、『日本の名画 10 鐮木清方』、中央公論社、1975年12月
- 小林忠「評伝・作品解説」、『日本の名画 10 鐮木清方』、中央公論社、1975年12月
- 福永重樹「美人画家としての鐮木清方」、『現代日本美人画全集 第2巻 鐮木清方』、集英社、1977年10月
- 竹田道太郎「生涯を貫く透徹した批判精神—清方芸術のバック・ボーン」、『愛蔵版日本の名画9 鐮木清方・上村松園・竹久夢二』、講談社、1977年8月
- 鈴木進「鐮木清方の生涯と芸術」、『現代日本の美術 第3巻 鐮木清方/山口蓬春』、集英社、1976年5月
- 小林忠「鐮木清方とその素描」、『日本画素描大観 三 鐮木清方』講談社、

- 1983年2月
 細野正信「清方の清方—清方の言葉で綴る清方論—」、『鑑木清方展』図録、尾道市立美術館・中国新聞社・高知県立郷土文化会館、1986年3月
- 加太こうじ「日本画人伝—8 鑑木清方・小出権重—」、「思想の科学」編集委員会編『思想の科学 第七次』第99号、1988年2月
- 小林忠「浮世絵末流『鑑木清方』」、山根有三先生古稀記念会編『日本絵画史の研究』、1989年
- 小林忠「鑑木清方筆『抱一上人』について」、永青文庫編『季刊永青文庫』第30号、1989年
- 「美人画の精髓」(ソフィア美術館)、『SOPHIA』、1989年8月
- 鈴木進「鑑木清方展」、『鑑木清方展』図録、横浜美術館、1990年1月
- 山田肇「清方の『風俗画論』」、『鑑木清方展』図録、横浜美術館、1990年1月
- 大塚雄三「鑑木清方—献納作『蟹と童』をめぐって—」、『鑑木清方展』図録、横浜美術館、1990年1月
- 小林忠「浮世絵末流『鑑木清方』」、山根有三先生古稀記念会編『日本絵画史の研究』、1989年
- 金沢規雄「岡鬼太郎と鑑木清方『東北新聞』時代」、東京大学国語国文学会編『国語と国文学』第67号、1990年12月
- 倉田公裕「清方抄論—垣間見た清方の世界—」、「没後20年記念 鑑木清方展」図録、朝日新聞社、1992年1月
- 大塚雄三「鑑木清方—『一葉女史の墓』序章—」、倉田公裕「鑑木清方抄論—主情派の精神—」、『鑑木清方展』図録、名都美術館・中日新聞社、1993年2月
- 大塚雄三「鑑木清方—『深沙大王』とその周辺—」、『鑑木清方展』図録、名都美術館・中日新聞社、1993年2月
- 平野重光「清方の芸術」、『鑑木清方展』図録、京都新聞社、1993年4月
- 玉蟲玲子「流水のモチーフをとおしてみる鑑木清方の女性像」、『鑑木清方展』図録、京都新聞社、1993年4月
- 福富幸「江戸と東京のはざまに」、『鑑木清方展』図録、京都新聞社、1993年4月
- 岩田由美子「鑑木清方の肖像画」、『鑑木清方展』図録、京都新聞社、1993年4月
- 茂木博「鑑木清方と西洋美術—試論的仮説—」(特集2 明治文化I)、「造形学研究」編集委員会編『造形学研究 studies in art and design』第12号、東京造形大学専門第一部会、1993年7月
- 平山郁夫(構成 米倉守)「画家の目／近代日本画の巨匠たち」、『巨匠の日本画⑥鑑木清方』新集社、1994年4月
- 大塚雄三「鑑木清方—その画業の軌跡—」、『巨匠の日本画⑥鑑木清方』、新集社、1994年4月
- 横川公子「環境としての装い、主に鑑木清方をめぐって」、服飾美学会『服飾美学』23号、1994年
- 猪卷明「近代日本画家の作品に見られるラファエル前派の影響— 鑑木清方の作品を中心として—」、秋田大学教育学部研修委員会編『秋田大学教育学部研究紀要』第47号、1995年1月
- 中谷伸生「鑑木清方の評価をめぐって—大正期の実験模索から昭和へ—」、関西大学文学会 編『関西大学文学論集』45号、1996年3月
- 横山泰子「鑑木清方と東京の芸能」、東京都江戸博物館都市歴史研究室 編『東京都江戸東京博物館研究報告』第2号、1997年3月
- 内藤正人「清方と春章—江戸浮世絵と近代美人画との交渉—」、出光美術館『出光美術館研究紀要』3号、1997年9月
- 倉田公裕「鑑木清方—その人と芸術—」、『鑑木清方画集』、ビジョン企画出版、1998年8月
- 柏木智雄「『一葉女史の墓』試論」、『鑑木清方画集』、ビジョン企画出版、1998年8月
- 倉田公裕「肖像画考—清方がく肖像画への招待—」『特別展 清方がく肖像画』図録、鎌倉市鑑木清方記念美術館、1998年10月
- 神林淳子「鑑木清方作品の再評価:『築地明石町』をめぐって」、学習院大学『学習院大学人文科学論集』7号、1998年
- 市川政憲「鑑木清方:樹のごとく」、『鑑木清方展』図録、東京国立近代美術館、1999年3月
- 尾崎正明「遙かなまなざし」、『鑑木清方展』図録、東京国立近代美術館、1999年3月
- 紅野敏郎「逍遙・文学誌(95)『隨筆趣味』—鑑木清方・土師清二・丹羽文雄・宮川曼魚ら—」、学灯社編『国文学: 解釈と教材の研究』第44巻第6号(通号641)、1999年5月
- 紅野敏郎「逍遙・文学誌(97)『読書感興』—岩本和二郎・丹羽文雄・真船豊・久保田万太郎・鑑木清方ら—」、学灯社編『国文学: 解釈と教材の研究』第44巻第8号(通号643)、1999年7月
- 須貝正義「鑑木先生と雑誌『苦楽』」、『特別展 清方の描いた女性たち—雑誌『苦楽』の表紙こみる』図録、鎌倉市鑑木清方記念美術館、1999年9月
- 竹山郁子「雑誌『苦楽』について」、『特別展 清方の描いた女性たち—雑誌『苦楽』の表紙こみる』図録、鎌倉市鑑木清方記念美術館、1999年9月
- 大塚雄三「師の清方と深水・紫明」、『清方と深水・紫明展』図録、神戸新聞社、1999年
- 根本由香「明治中期の生活文化と名人たち—鑑木清方『明治風俗十二月』の『盆灯籠』をよむ—」、服飾美学会『服飾美学』31号、2000年9月
- 小林忠「鑑木清方 近代美人画の第一人者」『特別展 四季の女性』図録、鎌倉市鑑木清方記念美術館、2000年9月
- 鈴木進「雪ノ下 鑑木邸」『一所蔵作品による—開館記念 鑑木清方展』図録、鎌倉市鑑木清方記念美術館、2002年4月(加筆再録)
- 島田康寛「鑑木清方の画業」、『上村松園 鑑木清方展』図録、北日本新聞社・北日本放送・富山県水墨美術館、2002年10月
- 梶由美「清方がく『薄紅梅』—(泉さん)の物語—」、『文学』第5巻第4号、2004年7月
- 城戸崎雅崇「粋な美人とはどんな顔?」、『日本顔学会誌』第4巻第1号、2004年9月
- 紅野敏郎「逍遙・文学誌(161)『新女苑』(昭和16年)—井伏・稲子・草平・林原耕三・鑑木清方・神崎清・里見弾ら—」、学灯社編『国文学: 解釈と教材の研究』第49巻第12号(通号717)、2004年11月
- 宮崎徹「東京人から鎌倉人へ—清方を偲んで—」、『鎌倉』第99号、2004年12月、『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017年8月再録)
- 宮崎徹「清方と挿絵」、『鑑木清方 挿絵図録—東北新聞編・講談雑誌編—』(鑑木清方記念美術館叢書6)鎌倉市鑑木清方記念美術館、2005年3月
- 佐藤節子・増井真理子「鑑木清方の〈妖魚〉について」東京家政学院大学／東京家政学院短期大学編『東京家政学院大学紀要』第45号、2005年
- 須田 勝仁「近現代絵画作品の真贋と鑑賞—個人所有作品から—」、大谷女子大学短期大学部編『大谷女子大学短期大学部紀要』第49号、2005年
- 宮崎徹「鑑木清方—泉鏡花との出会い—」、『鑑木清方 挿絵図録—泉鏡花編—』(鑑木清方記念美術館叢書7)鎌倉市鑑木清方記念美術館、2006年3月、『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017年8月再録)
- 角田拓朗「鑑木清方の造形と文学」、明治美術学会編『明治美術学会誌 近代画説』第15号、2006年
- 宮崎徹『『苦楽』と鑑木清方』、鎌倉文化研究会『鎌倉』第102号、2006年12月、『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017年8月再録)
- 岩切信一郎「鑑木清方と春陽堂の『新小説』」、『鑑木清方 展覧会・挿絵図録—烏合会と『新小説』の時代—』(鑑木清方記念美術館叢書8)鎌倉市鑑木清方記念美術館、2006年12月
- 宮崎徹「鑑木清方—挿絵制作と烏合会活動—」、『鑑木清方 展覧会・挿絵図録—烏合会と『新小説』の時代—』(鑑木清方記念美術館叢書8)鎌倉市鑑木清方記念美術館、2006年12月

- 篠原聰『やまと新聞』と鑄木清方—明治期新聞小説挿絵の一断面—、成城大学『成城美術美術史』第13号、2007年3月
- 山崎勝志「鑄木清方における美人画とモデルの綾—(一葉女史の墓)研究を元に」、京都教育大学学術情報リポジトリ <http://hdl.handle.net/123456789/2132>、2007年3月
- 古田あき子「官展の流れと清方」、『鑄木清方 展覧会・挿絵図録—官展(文展・帝展・日展)への出品作—』(鑄木清方記念美術館叢書9)鎌倉市鑄木清方記念美術館、2007年10月
- 宮崎徹「鑄木清方と官展」、『鑄木清方 展覧会・挿絵図録—官展(文展・帝展・日展)への出品作—』(鑄木清方記念美術館叢書9)鎌倉市鑄木清方記念美術館、2007年10月
- 角田拓朗「美人画から風俗画へ—鑄木清方の官展再生論—」、明治美術学会編『明治美術学会誌 近代画説』第16号、2007年
- 島田康寛「鑄木清方と伊東深水、寺島紫明—三人の師弟の芸術」、『美人画の三巨匠 清方・深水・紫明展』図録、2007年9月
- 宮崎徹「鑄木清方の好んだ画室」、『開館10周年記念誌 鎌倉市鑄木清方記念美術館活動の記録』、2008年3月
- 吉田昌志「人魚の形象—泉鏡花と鑄木清方—」、「日本近代文学会」編集委員会編『日本近代文学』第78号、2008年5月
- 倉田公裕「美の随想『絵を見る場』を巡って—鑄木清方の作品区分—」、紫明の会編『紫明』第23号、2008年9月
- 倉田公裕「清方 余録」、『鑄木清方の系譜—師水野年方から清方の弟子たちへ—』(鑄木清方記念美術館叢書10)鎌倉市鑄木清方記念美術館、2008年12月
- 宮崎徹「鑄木清方の系譜—画学生と郷土会—」、『鑄木清方の系譜—師水野年方から清方の弟子たちへ—』(鑄木清方記念美術館叢書10)鎌倉市鑄木清方記念美術館、2008年12月
- 三戸信恵「清方のノスタルジア 思い描いた時代 懐かしの光景—続きの地平—」『清方ノスタルジア 名品でたどる 鑄木清方の美の世界』2009年11月
- 宮崎徹「清方の絵に託された情意『春雪』に至る過程と後世へのことづて」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鑄木清方の美の世界』2009年11月
- 内藤正人「清方と春章 二人の美人画家をつなぐもの」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鑄木清方の美の世界』2009年11月
- 池田美美「清方画にみる江戸絵画の影響—西鶴、京伝、歌麿—」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鑄木清方の美の世界』2009年11月
- 倉田公裕「『清方の話術』—その三要因—」、『鑄木清方と七絃会』(鑄木清方記念美術館叢書11)、2009年12月
- 宮崎徹「鑄木清方と七絃会—激動時代の画壇で活躍した九人の日本画家—」、『鑄木清方と七絃会』(鑄木清方記念美術館叢書11)、2009年12月
- 矢頭英理子「鑄木清方筆『築地明石町』に関する考察」、『京都美術美術史学』第8号、2009年
- 中谷伸生「鑄木清方の評価をめぐって—大正期の実験模索から昭和へ—」、『大坂画壇はなぜ忘れられたのか：岡倉天心から東アジア美術史の構想へ』、醍醐書房、2010年3月
- 松山薫「鑄木清方と芝居絵 雑誌『歌舞伎』を中心に」、『鑄木清方の芝居絵』(鑄木清方記念美術館叢書12)、2010年12月
- 宮崎徹「清方の芝居絵」、『鑄木清方の芝居絵』(鑄木清方記念美術館叢書12)、2010年12月
- 土井雅也「鑄木清方の画業—『妖魚』の解釈を通して—」、藝叢編集委員会編『筑波大学芸術学研究誌 藝叢』第26号、2010年
- 長崎巖「鑄木清方の美人画に見られる服飾表現」、『鑄木清方の美人画』(鑄木清方記念美術館叢書13)、2011年12月
- 宮崎徹「女性雑誌をとらえて見る 鑄木清方の美人画」、『鑄木清方の美人画』(鑄木清方記念美術館叢書13)、2011年12月
- 篠原聰「鑄木清方と『曲亭馬琴』：第一回文部省美術展覧会の落選画に関する一考察」、明治美術学会編『明治美術学会誌 近代画説』第20号、2011年
- 宮崎徹「情を求めた画家・鑄木清方—その上村松園評をとらえて—」、「市制80周年記念展 上村松園と鑄木清方」、平塚市美術館2012年7月
- 篠原聰「鑄木清方の『社會畫』をめぐって—美人画家えがく麗しき文明批評—」、『美術運動史』130号、美術運動史研究会、2012年9月
- 小澤弘「鑄木清方の時代—江戸への憧憬と明治・大正の風俗と美術—」、『鑄木清方の随筆『こしかたの記』を読む その一』(鑄木清方記念美術館叢書14)鎌倉市鑄木清方記念美術館、2012年12月
- 宮崎徹「追懐から伝承へ—鑄木清方が伝えた風流の一脈— 随筆『こしかたの記』から読む」、『鑄木清方の随筆『こしかたの記』を読む その一』(鑄木清方記念美術館叢書14)鎌倉市鑄木清方記念美術館、2012年12月
- 宮崎徹「鑄木清方の文化勲章への軌跡—新たに寄贈された作品や資料から見る—」、『開館15周年記念誌 鎌倉市鑄木清方記念美術館活動の記録』、2013年3月
- 宮崎徹「清方芸術にみるものあはれ」、『『ものあはれ』と日本の美』、サントリー美術館、2013年4月
- 田中励儀「鑄木清方と泉鏡花」、『鑄木清方と硯友社』(鑄木清方記念美術館叢書15)、2013年12月
- 倉田公裕「清方に於ける『いきの創造』—『築地明石町』を巡って—」、『鑄木清方と硯友社』(鑄木清方記念美術館叢書15)、2013年12月
- 宮崎徹「鑄木清方の卓上芸術」、『鑄木清方と硯友社』(鑄木清方記念美術館叢書15)、2013年12月
- 宮崎徹「鑄木清方・挿絵画家から日本画家へ—」、『追憶の美人 日本画家鑄木清方』、佐野美術館、2014年4月
- 宮崎徹「鑄木清方の江戸趣味と明治趣味—」、『鑄木清方と江戸の風情』、千葉市美術館、2014年9月
- 鶴見香織「鑄木清方の初期作品と小坂象堂、无声会—」、『鑄木清方の随筆『こしかたの記』を読む その二』(鑄木清方記念美術館叢書17)、2015年1月
- 宮崎徹「鑄木清方 圓朝との八日間の旅—」、『鑄木清方の随筆『こしかたの記』を読む その二』(鑄木清方記念美術館叢書17)、2015年1月
- 今橋理子「白鸚鵡と美少女(上) 鑄木清方『鸚鵡』と『嫁ぐ人』」、『学習院女子大学紀要』、2015年
- 上菌四郎「『時代を見る』に機敏であった鑄木清方、その緩やかな戦略—金鈴社から珊々会へ—」、『鑄木清方と珊々会』(鑄木清方記念美術館叢書18)、2016年2月
- 今西彩子「鑄木清方、東海・畿内への旅と制作—」、『鑄木清方と珊々会』(鑄木清方記念美術館叢書18)、2016年2月
- 篠原聰「鑄木清方と郷土会の画家たち—浮世絵と社会画のはざまで—」、『美人画の諸相—浮世絵・団体・メディア—』、東海大学、2016年4月
- 角田拓朗「明治後半の画壇状況における鳥合会の位置付け—美人画、文学、洋画—」、『美人画の諸相—浮世絵・団体・メディア—』、東海大学、2016年4月
- 佐藤美子「浮世絵研究雑誌における鑄木清方—」、『美人画の諸相—浮世絵・団体・メディア—』、東海大学、2016年4月
- 今西彩子「清方、奈良・京都における制作—新境地の風景画と美人画—」、『美人画の諸相—浮世絵・団体・メディア—』、東海大学、2016年4月
- 篠原聰「浮世絵末流の近代(その1)」、『美術運動史』第155号、美術運動史研究会、2016年6月
- 篠原聰「浮世絵末流の近代(その2)」、『美術運動史』第156号、美術運動史研究会、2016年8月
- 篠原聰「浮世絵末流の近代(その3)」、『美術運動史』第157号、美術運動史研究会、2016年10月
- 篠原聰「浮世絵末流の近代(その4)」、『美術運動史』第158号、美術運動史研究会、2016年12月
- 関礼子「『にこりえ』(画譜)の世界—一葉小説の絵画的受容—」、『日本近代文

- 学館年誌』、2016年
- 横山秀樹「鏗木清方『續こしかたの記』にみる制作の動向」、『鏗木清方の随筆『續こしかたの記』を読むその一』(鏗木清方記念美術館叢書 19)、2017年2月
- 今西彩子「鏗木清方の風景画趣向 ―大正期の画業における新南画と歌川広重の影響を巡って」、『鏗木清方の随筆『續こしかたの記』を読むその一』(鏗木清方記念美術館叢書 19)、2017年2月
- 篠原聰「鏗木清方筆『刺青の女』をめぐる：鳥合会と郷土会を繋ぐもの」、『成城美学美術史』、2017年3月
- 篠原聰「浮世絵未流の近代(その5)―「新浮世絵」断章―絵画の触覚性をめぐる冒険」、『美術運動史』、第160号、2017年4月
- 内山淳子「和装から洋装へ ―鏗木清方のまなざし」、『ファッションとアート 麗しき東西交流』展図録、横浜美術館、2017年4月
- 谷口榮「没後四十五年 都市観察者 明治から昭和の東京を生きて 鏗木清方「下町」への視線」、『東京人』390号、2017年11月
- 谷口榮「没後四十五年 都市観察者 明治から昭和の東京を生きて 鏗木清方 失われた故郷」、『東京人』391号、2017年12月
- 谷口榮「没後四十五年 都市観察者 明治から昭和の東京を生きて 鏗木清方「新江東」にふるさとを求めて」、『東京人』392号、2018年1月
- 篠原聰「触覚(haptic sense)鏗木清方の文学体験 ―新浮世絵断章 その2」、『美術運動史』第165号、美術運動史研究会、2018年2月
- 河田明久「清方の良心 ―昭和戦前期の日本画」、『鏗木清方の随筆『續こしかたの記』を読む その二』(鏗木清方記念美術館叢書 20)、2018年2月
- 今西彩子「戦時下における清方の画業 ―美人画の位相を巡る一試論―」、『鏗木清方の随筆『續こしかたの記』を読む その二』(鏗木清方記念美術館叢書 20)、2018年2月
- 勝山滋「近代日本画壇における結城素明の再評価と金鈴社について」、『鏗木清方と金鈴社 吉川靈華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに』(鏗木清方記念美術館叢書 21)、2019年2月
- 今西彩子「金鈴社の成立と作画の特徴 ―鏗木清方を中心に―」、『鏗木清方と金鈴社 吉川靈華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに』(鏗木清方記念美術館叢書 21)、2019年2月
- 荒井真理亜「菊池幽芳「百合子」の展開 ―小説・挿絵・芝居―」、『人文学研究』第4号、相愛大学人文学部人文学研究会、2019年3月
- 篠原聰「浮世絵未流の水脈」、『美人画研究会誌 紫陽花』創刊号、美人画研究会、2019年6月
- 篠原聰「美人画と浮世絵のはざままで 鏗木清方の「新浮世絵講義」をめぐる」、『美人画研究会誌 紫陽花』第3号、美人画研究会、2020年6月
- 鬼頭美奈子「美人画と食 ―清方の描く甘味―」、『美人画研究会誌 紫陽花』第3号、美人画研究会、2020年6月
- 篠原聰「日本近代における浮世絵受容に関する研究 ―系譜的研究を中心に―」、『鹿島美術研究』37号、鹿島美術財団、2020年11月
- 鬼頭美奈子「構図から探る美人画の変容 ―横画面に見る近代性―』鏗木清方と昭和の美人画』(鏗木清方記念美術館叢書 22)、2021年2月
- 今西彩子「昭和前期の清方と弟子たち ―清方の『築地明石町』から『妓女像』までと、弟子たちへ及ぼした影響について―』鏗木清方と昭和の美人画』(鏗木清方記念美術館叢書 22)、2021年2月
- 郝玉墨「近代日本画の美人画における胡粉を活かした賦彩表現 ―鏗木清方筆『妓女像』の想定復元模写を通して―」東京藝術大学大学院美術研究科 博士後期課程学位論文、2021年3月
- 段超「鏗木清方研究 ―日本画作品における線の表現を中心に―」京都芸術大学大学院芸術研究科 博士後期課程学位論文、2021年3月
- 今西彩子「柿内青葉のあゆみ ―師・鏗木清方との関わりに見る』女子美術大学大学コレクション 柿内青葉展』、2021年3月
- 今西彩子「鏗木清方の画業と人生』鏗木清方美人画集成』、小学館、2022年3月
- 鶴見香織「鏗木清方(築地明石町)三部作をめぐる三章』、小学館、2022年3月
- 鶴見香織「鏗木清方 生活を描いた画家」、『没後50年鏗木清方展』図録、2022年3月
- 今西彩子「清方を巡る人々、出会いと制作」、『没後50年鏗木清方展』図録、2022年3月
- 岩切信一郎「『新声』初期(明治三十四年)挿絵考―金鈴社(百穂・素明・清方)の源流を求め―』『一寸』92号、2023年2月
- 遠藤純「少年少女雑誌における“挿絵”～明治大正初期の雑誌と画の役割』清方が描いた子どもの世界』(鏗木清方記念美術館叢書 23)、2023年3月
- 今西彩子「明治期の少女雑誌に描かれた少女像 ―『少女界』少女世界を中心に―』清方が描いた子どもの世界』(鏗木清方記念美術館叢書 23)、2023年3月

(三)研究書等

- 塩川京子「市井の文人 鏗木清方」大日本絵画、1991年7月
- 八柳ヤエ「鏗木清方と金沢八景」(横浜美術館叢書6)有隣堂、2000年12月
- 『鏗木清方記念美術館 収蔵品図録―作品編―』(鏗木清方記念美術館叢書 1)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2001年9月
- 『鏗木清方記念美術館 収蔵品図録―卓上芸術編(一)明治・大正期―』(鏗木清方記念美術館叢書 2)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2002年7月
- 『鏗木清方記念美術館 収蔵品図録―卓上芸術編(二)昭和期―』(鏗木清方記念美術館叢書 3)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2002年9月
- 福富太郎「描かれた女の謎 アート・キャンレー 蒐集奇談」新潮社、2002年
- 『鏗木清方 挿絵図録―文藝倶楽部編(一)―』(鏗木清方記念美術館叢書 4)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2003年9月
- 『鏗木清方 挿絵図録―文藝倶楽部編(二)―』(鏗木清方記念美術館叢書 5)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2004年3月
- 『鏗木清方 挿絵図録―東北新聞編・講談雑誌編―』(鏗木清方記念美術館叢書 6)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2005年3月
- 山田奈々子「木版口絵総覧 明治・大正期の文学作品を中心として」文生書院、2005年12月
- 『鏗木清方 挿絵図録―泉鏡花編―』(鏗木清方記念美術館叢書 7)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2006年3月
- 山田奈々子「口絵名作物語集」文生書院、2006年11月
- 『鏗木清方 展覧会・挿絵図録―鳥合会と『新小説』の時代―』(鏗木清方記念美術館叢書 8)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2006年12月
- 『鏗木清方 展覧会・挿絵図録―官展(文展・帝展・日展)への出品作―』(鏗木清方記念美術館叢書 9)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2007年10月
- 山田奈々子「美人画口絵歳時記」文生書院、2008年3月
- 『鏗木清方の系譜―師水野年方から清方の弟子たちへ―』(鏗木清方記念美術館叢書 10)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2008年12月
- 内田武夫・島田康寛監修「美人画の系譜 鏗木清方と東西の名作百選 福富太郎コレクション」青幻舎、2009年1月
- 『鏗木清方と七絃会 ―安田鞞彦、小林古径、前田青邨、菊池契月、土田麦僊、平福百穂、速水御舟、西村五雲とともに―』(鏗木清方記念美術館叢書 11)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2009年12月
- 『鏗木清方の芝居絵』(鏗木清方記念美術館叢書 12)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2010年12月
- 『鏗木清方の美人画 ―樋口一葉著作関係及び『婦人世界』・『婦人公論』関係作品所収―』(鏗木清方記念美術館叢書 13)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2011年12月
- 内藤正人「勝川春章と天明期の浮世絵美人画」東京大学出版会、2012年4月
- 『鏗木清方の随筆『こしかたの記』を読む その一 ―『報知新聞』明治・大正初期関連作品所収―』(鏗木清方記念美術館叢書 14)鎌倉市鏗木清方記念美術館、2012年12月

『鎌木清方と硯友社 一尾崎紅葉・泉鏡花・山岸荷葉著作関連作品所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 15)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2013年12月
 宮崎徹監修・文『鎌木清方 江戸東京めぐり』求龍堂、2014年8月
 宮崎徹『鎌木清方 清く潔くうはしく』東京美術、2014年9月
 『鎌倉市鎌木清方記念美術館 収蔵品図録』(鎌木清方記念美術館叢書 16)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2014年12月
 『鎌木清方の随筆『こしかたの記』を読む』その二『報知新聞』大正期掲載挿絵及び関連口絵所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 17)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2015年1月
 『鎌木清方と珊々会 西山翠嶂、西村五雲、松岡映丘、菊池契月、結城素明、上村松園、小杉放菴とともに 一『報知新聞』大正期掲載挿絵等所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 18)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2016年2月
 山田奈々子『増補改訂 木版口絵総覧』文生書院、2016年12月
 『鎌木清方の随筆『續こしかたの記』を読む』その一『九州日報』掲載挿絵等所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 19)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2017年2月
 『宮崎徹氏追悼文集』宮崎徹氏追悼文集刊行会、2017年8月
 『鎌木清方の随筆『續こしかたの記』を読む』その二『讀賣新聞』掲載挿絵等所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 20)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2018年2月
 『鎌木清方と金鈴社 吉川靈華、結城素明、平福百穂、松岡映丘とともに 一『中央美術』、『新浮世絵講義』関係資料所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 21)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2019年2月
 『鎌木清方と昭和の美人画 一青衿会及び『婦人画報』関係作品所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 22)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2021年2月
 『清方が描いた子どもの世界 一『少年世界』『少女世界』『少年界』『少女界』掲載口絵等所収一』(鎌木清方記念美術館叢書 23)鎌倉市鎌木清方記念美術館、2023年3月

(四)対談

根本章雄・倉田公裕「対談『祖父清方を語る』」、『特別展 四季の女性』図録、鎌倉市鎌木清方記念美術館、2000年9月
 福富太郎・山下裕二「生き証人・福富太郎に訊く清方」、『清方ノスタルジア 名品でたどる 鎌木清方の美の世界』2009年11月

(五)海外文献(鎌木清方関連)

■ 展覧会図録

Lawrence SMITH, NIHONGA Traditional Japanese Painting 1900-1940, British Museum Press, 1991.
 Timothy CLARK, Ukiyo-e Paintings in the British Museum, British Museum Press, 1992.
 Ellen P. CONANT, NIHONGA Transcending the Past: Japanese-Style Painting, 1868-1968, The Saint Louis Art Museum/The Japan Foundation (Saint Louis & Tokyo), 1995.
 Kendall H. BROWN, Hollis GOODALL-CRISTANTE, Shin-Hanga: New Prints in Modern Japan, Los Angeles County Museum of Art in association with University of Washington Press (Los Angeles), 1996.
 Arte in Giappone 1868-1945, Roma, Galleria nazionale d'arte moderna, 2013.
 Kuchi-e, Stampe japonese din perioada Meiji, Arad, Muzeul de Artă Arad, 2016.
 ■ 論文
 INOUE Mariko, Kiyokata's Asasuzu: The Emergence of the Jogakusei Image, Monumenta Nipponica, Vol.51-no.4, 1996 Winter.
 ■ 書籍

Miya Elise Mizuta Lippit : Aesthetic Life : Beauty and Art in Modern Japan, Harvard University Asia Center, 2019.

V 鎌木清方自筆文献単行書の所収内容

ag:紫陽花舎隨筆

鎌木清方著・山田肇編『紫陽花舎隨筆』六興出版、1978年1月
 *所収図版:「御殿場・栢木」「栢木」「一色にて」「一色にて」「牡丹」「花菖蒲」「船住居」「隅田川往來の船」「照」「照」
 *所収文章:「老鷲」「涼味」「去年の元日」「年始歳暮」「鎌倉の夏」「日本髪」「朝富士」「胡瓜」「御会食の記」「白足袋」「張子の虎」「ラジオの功德」「庶民の夏」「ゆかた」「二日月」「散歩」「あさがほ」「郷愁の色」「ひとりごと」「雁」「鎌倉の美術館」「正月の思ひ出」「かきぞめ」「探梅」「菓子のか」「尊氏と正成」「人相」「行儀」「芸術院の授賞式」「朝夕安居」「交番の焼打」「つゆあけ」「木屋」「三国同盟」「逆説忠臣蔵」「桜が池」「女芝居」「ある構図」「平和追求」「道しるべ」「菊」「引越ばなし」「子鴉」「銀座回顧」「回想の江東」「立姿」「M夫人」「『明石町』対面」「散歩」「江東の梅を思う」「青島の人」「失はれた築地川」「御殿場高原」「忘れぬ佛」「上村松園論」「自作を語る」「市人の暮らし」「私の先生」「円朝と野州の旅をした話」「内職」「雑誌の絵について」「思ひ出の佃小橋」「五十年前」「わが家の歴史」「作品のゆくへ」「『明石町』をかいたころ」「金澤八景」「清長」「心のふるさと」「古跡」「弔辞」／鎌木照「妻として五十年」／北川桃雄・鎌木清方「清方閑談」／山田肇「あとがき」

as:蘆の芽

鎌木清方『蘆の芽』田模書房、1938年6月
 *所収文章:はしがき一つのぐむ蘆—「蘆の芽」「火を懐しむ」「身辺近事」「時の流れ」「春侘びし」「あるはずの瀧」「明治風俗十二ヶ月」「挿絵家の暮らし」「美人説」「幻の町」「娘のこのみ」「生活思ふまゝ」「溪仙詩情」「芸術院初会」「花鳥のはなし」「新江東図説」「常緑松園」「日本髪」「はやりかぜ」「一画一文」「(今井橋の富士)」「堀切」「行徳の常夜燈」「濱名湖畔」)「松岡君とのつきあひ」(「金鈴社」「帝展」「改組、改組以後)」「地図を彩る」「香を偲ぶ」「婦系図その他」「しばみばなし」「河合武雄」「劇評」(「岡崎と夢の市蔵」「快作『鶴八鶴次郎』』『吉野山』と『鎧櫃』)「芝居見物今昔」

az:東なまり

鎌木清方『東なまり』道中硯(鎌木清方隨筆選集 第2巻)(二冊一組)双雅房、1943年2月
 *所収文章:『東なまり』・「ともしび」「緑の雨」「あさがほ」「ジョリイ」「明治の東京語」「入浴」「河岸」「慶喜公謹慎の間—素材素描 上—」「女役者条—素材素描 下—」「月の絵」「日本髪」「はやりかぜ」「身辺近事」

b1:鎌木清方文集 一 制作餘談

鎌木清方著・山田肇編『鎌木清方文集 一 制作餘談』白風社、1979年8月
 *所収図版:「晴れゆく村雨」(小下絵部分)「築地明石町の文」「崔承喜」「十一月の雨」「たけくらべ」(肉筆回覧誌『研究画林』)「女役者条八」
 *所収文章:「私の経歴」「年賀の端書に就て」「私の生活」「画家のユートピア」「秋窓冗語」「人事素描」「緑蔭絵事を語る」「我が好む画人」「職業の殻」「精神生活の欠乏」「そぞらごと」「紫陽花舎閑話」「挿絵家の暮らし」「挿絵閑話」「花鳥のはなし」「昔の人」「三つのすがた」「そぞらごと」「連翹」「肖像画」「凡人凡語」「日記抄」「画室の反抗 | ああ頃のこと |」「市人の暮らし」「自作を語る」「美登利の思ひ出」「『曲亭馬琴』の思ひ出」「出世作」「『黒髪』」「最も深い興味を以て画いた作品」「予が最近の試み」「作品のゆくへ」「M夫人」「『明石町』対面」「『明石町』をかいたころ」「嘗て見た慶喜を」「素材素描」「『一

- 葉』『藤掛博士の肖像』『写像後記』『小説『にこりえ』を画にして』『画神』『朝顔日記』こつて』『鏡花本の装釘』『『朝夕安居』『個展論』『芝居と絵画』『明治風俗十二月』『墨水十趣』『三つのながめ』『作者のこぼし』『作者のこぼし』『今様絵詞の会』『こぼし』『形と心』『画房雑稿』『材料の話断片』『技法の話』／山田肇「あとがき」
- b2: 鑄木清方文集 二 明治追懐
 鑄木清方著・山田肇編『鑄木清方文集 二 明治追懐』白鳳社、1979年11月
 ＊所収図版:『朝夕安居』『明石町(『築地川』の内)』『作者(『築地川』の内)』『結婚の年、照宛賀状』『結婚前・後の写真生』『大橋』『大川端花火の夜』『寺小屋画帖』
 ＊所収文章:『五十年前』『心のふるさと』『わが家の歴史』『引越ばなし』『草雙紙』『上野の戦争』『山の手と下町』『母』『新富座』『築地界隈』『築地川』『築地明石町』『銀座』『俳草』『初めの志望』『私の先生』『年方先生に学んだ頃』『恩師のこと』『絵灯籠』『狂言』『新花町の家』『内職』『円朝と野州の旅をした話』『夜蕾亭昔話』『ともだちの話』『木挽町裏住居』『注文帳のぬきがき』『濱町河岸回顧』『濱町こゝろ』『牛込夜話』『横寺町の先生』『思ひ出今昔』『挿画家生活』『明治の挿絵』『挿絵の興起』『雑誌の絵について』『挿絵今昔談』『兎と萬年青』『兎後談』『花見』『明治以来東京の名物』『名物無名物』『芝居昔ばなし』『明治の東京語』『明治の生活美術寸言』『廣重と安治』『明治の作品展示を観て』／山田肇「あとがき」
- b3: 鑄木清方文集 三 先人後人
 鑄木清方著・山田肇編『鑄木清方文集 三 先人後人』白鳳社、1979年5月
 ＊所収図版:『西光(水野年方筆)』『浅みどり』『上村松園書簡』『神戸埠頭にて』『舞妓素描(土田麥庵)』『佃島の秋』
 ＊所収文章:『先師遺蹟解説』『渡辺省亭先生の画』『武内桂舟先生』『梶田半古先生』『半古先生のこと』『邦画壇の三元老一観』『栖鳳・玉堂』『今日この時の川合先生』『下村さんと其作品』『下村氏の業績』『上村松園氏』『常緑松園』『松園女史に寄せる』『上村松園論』『青帛の仙女』『松園さんを想ふ』『士大夫の書画』『士大夫の業』『小感』『追憶断片』『平福君を悼む』『自然児百穂』『芝居の背景を描いた話』『回想』『春寒』『友縁有情』『室君』『遺業追懐』『金鈴社と松岡君』『結城素明君を偲ぶ』『麦仙氏の芸術』『精進の一生』『麦仙君回想』『しのぶぐさ』『麦仙君の芸術』『研究室』『研究の一生』『かけがへのない人』『速水御舟のえらさ』『溪仙詩情』『平野の詩人―森田恒友―』『平野雑筆』の著者』『嘆き―西村五雲さんのこと』『秋雨抄』『情緒の写生』『新鮮味』『思ひ出の一端』『契月氏の二つの道』『菊池契月さんのこと』『こころのとも』『石崎光瑠氏』『東京と京都』『半古門下の二秀才―古径・青邨―』『影を捉ふ―山口蓬春君―』『深水の一面』『をしへり深水』『山本丘人さん』『挿絵節用』序『組皿』『草の露』『雪俗集』序『たけくらべ絵巻』『近代挿絵考』序『思ひ出の佃小橋』／山田肇「あとがき」
- b4: 鑄木清方文集 四 春夏秋冬
 鑄木清方著・山田肇編『鑄木清方文集 四 春夏秋冬』白鳳社、1979年3月
 ＊所収図版:『年賀状』『宝船』『宝珠』『金の井の李月夜』『隣家の山桜』『あさがほ』『胡瓜』『茄子、蛸』『栗』『初茸』『山茶花』
 ＊所収文章:『年始歳暮』『正月の思ひ出』『吉例』『宝船』『かきぞめ』『初春の画題』『春詫ひし』『二月の言葉』『如月小品』『如月日記』『大橋の白魚』『讃讃桜』『春への連想』『褪春記』『きいろい花』『若葉』『菖蒲湯』『緑の雨』『梅雨』『つゆあけ』『涼床語』『夏は水こそ』『あさがほ』『あさがほ』『涼味』『ともしび』『団扇と浴衣』『ゆかた』『ゆかた』『土用前後』『庶民の夏』『郷愁の色』『胡瓜』『秋まだ浅き日の記』『月の絵』『二日月』『こぼろぎ』『木犀』『秋』『障子』『東籬小話』『菊』『雁』『冬がまへ』『火を懐しむ』『からかぜ』『冬に向ふ』『雪』／山田肇「あとがき」
- b5: 鑄木清方文集 五 名所古跡
 鑄木清方著・山田肇編『鑄木清方文集 五 名所古跡』白鳳社、1979年2月
 ＊所収図版:『大原寂光院』『駿河河部川橋』『唐招提寺南大門前』『落柿舎』『橋場の渡し』『柳園虫声』『篠崎の蓮根』『江戸川』『葛西橋放水路河口』『葛西二の江』『新川口』『善養寺、星降り松、影向松』
 ＊所収文章:『東海道を下る』『上方見物』『桜ヶ池』『姫街道』『道しるべ』『旅と自動車』『初旅』『東郊の思ひ出』『探梅』『江東の梅を思ふ』『回想の江東』『隅田川東岸』『歴史のある顔』『古跡』『蘆の芽』『新江東図説』『一画一文』『地図を彩る』『隅田川西岸』『小本』『寮住居』『銀杏返し』『堀尾老人』『馬道の師匠』『銀座回想』『失はれた築地川』『川越道』『あるはずの瀧』『塔の澤浴泉記』『大文字』『筆捨松』『金澤八景』『朝富士』『御殿場高原』／山田肇「あとがき」
- b6: 鑄木清方文集 六 時粧風俗
 鑄木清方著・山田肇編『鑄木清方文集 六 時粧風俗』白鳳社、1980年2月
 ＊所収図版:『一葉』部分―銀杏返し』『立姿』『大淀』『堀切小高園』『歌妓三態一』『歌妓三態二』『歌妓三態三』『夜会結び再興』『中年の夫人』『ポーラ・ネグリのカルメン』『出のなり』『目黒の栢庭』(部分)』『鏡山故郷錦』
 ＊所収文章:『時の流れ』『美と贅澤』『前垂』『伝統』『立姿』『えりもと』『娘のこのみ』『露』『夏衣』『花菖蒲と銀杏返し』『歌妓三態』『夜会結び再興』『中年の夫人』『日本髪』『美人説』『美女物語』『銀幕の美女』『映画追憶』『パール・ホワイトの死』『トオキイになつてから』『千恵蔵映画を褒む』『映画、制作、芝居―記者X氏との対話』『絵と映画』『映画と挿絵の関係』『汐風』『しばみばなし』『芝居見物今昔』『日本髪』『芝居は無学の学問なりといふこと』『芝居だんぎ』『芝居一家言』『豊さじき』『歌舞伎の味』『芝居の色彩と豊国』『濡衣』『女形』『女芝居』『装置今昔』『目黒の栢庭』形としての団十郎』『団十郎と影法師』『五世菊五郎を偲ぶ』『菊五郎片影』『香を偲ぶ』『梅薫る』『栄三郎を悼む』『梨園の長者』『河合武雄』『清忠さんのこと』／山田肇「あとがき」
- b7: 鑄木清方文集 七 畫壇時事
 鑄木清方著・山田肇編『鑄木清方文集 七 畫壇時事』白鳳社、1980年6月
 ＊所収図版:『水仙鶴岡』(傳徴宗皇帝)
 ＊所収文章:『郷土会の今日まで』『千種さんを譽む』『山川君が美人画の会を催すに就て』『邦画に志す青年に』『帝展はやりやまひ』『日本画の進路』『美術の社会に対へる一面』『ロシヤ絵の初印象』『今年美術界回顧』『川崎君の『オフイリヤ』『送夏迎秋』『日本画壇の動き』『時事小感』『帝展中心の雑話』『さしあつての望み』『寸言』『近代美術館について美術人でない読者へ』『会場のはなし』『現代人物画の傾向』『歴史画の更正』『帝国美術院は民間団体の強化を計れ』『新帝院よ、展覧会に重点を置くな』『批評家の立場、作家の立場』『帝展問題その他―時局問題一問一答―』『思ひよること』『話題二つ』『卓上語』『前田、島崎』『美術と官権』『戦時に開かれる新文展』『身勝手ならぬ身勝手』『安田靉彦』『芸術院と松園さん』『絵の働き』『寺島紫明君』『(三彩)の創刊』『文展第八回・作家と批評家』『文展第九回・人物画』『文展第十回・人物画』『文展第十一回・人物画』『文展第十二回・人物画』『帝展第一回・力強い表現を望む』『帝展第一回・鑑査の意義とその主張』『帝展第三回・鑑査に就て』『帝展第五回・風俗と品のこと』『帝展第六回・鑑査難』『帝展第七回・人物風俗画』『帝展第八回・日本画』『帝展第九回・新人及び好きな作家』『帝展第十回・偶感』『帝展第十回・『罌粟』『帝展第十一回・邦

画評「帝展第十一回・任務を了へて」帝展第十二回・日本画「帝展第十三回・雑感」帝展第十三回・今のころもち」帝展第十四回・感覚に乏しき日本画」帝展第十四回・人物画を語る」帝展第十四回・若き作家達」帝展第十五回・鑑賞記」帝展第十五回・日本画を観る」新帝展第一回・審査員の一人として」新帝展第一回・鑑賞審査を終りて」新帝展第一回・第一部評」新帝展第一回・技術を観る」新帝展第一回・二三の覚書」新帝展第一回・鑑賞後記」新文展第一回・審査所感一思ひよるまゝ」新文展第一回・私の報告」奉祝展と文展の性格」新文展第四回・評を望まれて」新文展第四回・官展と審査」国展・有意義な存在」院展を観て」院展大観」異常か平明か」今の心持」院展の人物画」院展の絵」居覚泉」その他」(道成寺)画題の逸品」院展評」婦女図」『杉橋検校』の作者」青龍展を観て」春陽会を見る」帝展第十五回・洋画第三室をめぐる」六潮会に就いて思ふ」山田肇「あとがき」

b8: 鑄木清方文集 八 隨時隨感

鑄木清方著・山田肇編『鑄木清方文集 八 隨時隨感』白風社、1980年9月
*所収図版:「三遊亭圓朝像(下絵)筑波山」明石町遺懐」築地橋」(築地川)十面の九」端午」夏の女」野風呂」如意輪観音」薄紅梅」挿絵」鯛」臥龍梅」亀井戸の瓦焼き」春雪
*所収文章:「文展作品と美術院作品と」日本画家にも生活難がある」雑感」此の頃の私の絵」文展の後に」郷土会展覧会の前に」文展雑感」日記帳より」写実と装飾の二方面」自然から受けた印象」審査員の任命を受けて」根本的誤謬一つ」私の印象せる作品」美人画の修業法」流行らせたい団扇の絵」風致保安林」絵画劇といふもの」行潦社のあつまり」絵画劇に就て」朝日影」年頭偶感」名人を憶ふ」京の夢」筑波が見える」故郷のスケッチ」捕物」制作の節約を励行すべし」展覧会の会場」畜犬三日の記」近き思ひ出」むぎ湯」作家言」自誠」画室」二つの話題」涼」甘いもの」話」家」淀の月かぜ」年頭感」遊心庵漫筆」かをり」ジヨリイ」絵かき商売」身辺雑事」雨の箱根」ことしから不義理をする」会場のはなし」端午」用意の周到さ」夏の女」野風呂」女人夏景」一陽來復」入浴」河岸」春庭」並木」町の鑑賞」幻の町」薄紅梅」に絵を作りて」生活思ふまゝ」芸術院初会」身辺近事」花鳥私語」鯛」はやりかぜ」花形から馬の脚へ」築地の河岸」江東美術園」内濠外濠」不二見西行」新春二題」雨声」阿部さんのこと」思ひ出一つ」玉堂の人と芸術」小村さんの追想」世間ばなし」庭樹」藤懸博士寿像の制作」日記」松園さんの研究」左様なら」都」岡田さんのこと」躰」老鶯」汽車に乗る」去年の元日」鎌倉の夏」御会食の記」靴の音」白足袋」張子の虎」ラジオの功德」鎌倉の美術館」散歩」ひとりごと」菓子会」尊氏と正成」人相」行儀」芸術院の授賞式」交番の焼打」三国同盟」逆説忠臣蔵」ある構図」平和追求」子鴉」散歩」遠望した岡倉先生」忘れぬ佛」弔辞」雪」銀砂子」序」築地川」後記」褪春記」序」蘆の芽」序つぐむ蘆」連翹」後記」清方隨筆選集」附記」山田肇「あとがき」

eg: 繪具筐

鑄木清方『繪具筐』(鑄木清方隨筆選集 第3巻)双雅房、1944年4月
*所収文章:「年方先生に学んだ頃 上中下」出世作」絵かき商売」そぞろごと」邦画壇の三元老一大観・栖鳳・玉堂一」常緑有情一上村松園一」友縁有情一松岡映丘一」(金鈴社)帝展」改組、又改組以後」溪仙詩情一富田溪仙一」精進の一生一土田麦仙一」平野の詩人一森田恒友一」自然児百穂一平福百穂一」士大夫の業一吉川靈華一」恩師のこと一水野年方一」花鳥のはなし」『しばらく』の絵」明治の挿絵」挿絵今昔談」

ds: 道中硯

鑄木清方『東なまり』(道中硯)(鑄木清方隨筆選集 第2巻)(二冊一組)双雅房、1943年2月
*所収文章:『道中硯』・「東海道を下る」上方見物」初旅」塔の澤谷泉記」隅田川西岸」(浅茅ヶ原)「化地蔵」妙亀塚」蘆の芽」新江東図説」地図を彩る」筆捨松」

gb: 廣瀬操吉編『畫房隨筆』

廣瀬操吉編『畫房隨筆』錦城出版社、昭和17年

*所収文章:「初旅」

gg: 鑄木清方繪入本 御濠端

鑄木清方『鑄木清方繪入本 御濠端』双雅房、昭和13年7月

*所収文章:「濠端風景」(半藏門)「柳の井」大手町附近」千鳥ヶ淵近傍」紀尾井町」辦慶橋」歌妓三態」

gk: 菊池寛編『現代文章軌範』

菊池寛編『現代文章軌範』非凡閣、昭和14年9月

*所収文章:「燈火」

gs: 銀砂子

鑄木清方『銀砂子』岡倉書房、1934年5月

*所収文章:「序」/「からかぜ」筆捨松」家」東海道を下る」緑の雨」団扇と浴衣」美女物語」初旅」讃讃桜」筑波が見える」浜町河岸回顧」出世作」秋窓冗語」東郊の思ひ出」銀幕の美女」団十郎と影法師」芝居行脚」(五郎から)「佐倉義民伝」国定忠次」美男ぞろひ」古典の金看板」人事素描」新花町の家」遊心庵漫筆」挿絵今昔談」平野の詩人」水野年方先生」平福君を憶ふ」緑蔭絵事を語る」塔の澤谷泉記」牛込夜話」

gz: 群像 日本の作家 5 泉鏡花

鑄木清方『群像 日本の作家 5 泉鏡花』小学館、1992年1月

*所収文章:「思ひ出今昔」

k1: こしかたの記

鑄木清方『こしかたの記』中央公論美術出版、1961年4月

*所収文章:「發端」鈴木学校」やまと新聞と芳年」少年時に見た芝居」大根河岸の三周」柴田是真とその一門」神田の学校」鷺流の狂言」年方先生に入門」圓朝と野州に旅をした話」湯島の住居」傘谷から京橋へ」挿絵画家となりて」『読売』在勤」梶田半吉」横寺町の先生」口絵華やかなりし頃(一)」口絵華やかなりし頃(二)」鳥合会」戦争の前後」文展開設(一)」文展開設(二)」

k2: 續こしかたの記

鑄木清方『續こしかたの記』中央公論美術出版、1967年9月

*所収文章:「大正のあゆみ(一)」大正のあゆみ(二)」金鈴社前記」金鈴社(一)」金鈴社(二)」文展終期」帝展發足」金澤八景」遊心庵」大正の震災」山の手住居」羅馬開催日本美術展覧会」東海畿内の旅(一)」東海畿内の旅(二)」郷土会」夜蕾亭雜記(一)」夜蕾亭雜記(二)」夜蕾亭雜記(三)」夜蕾亭雜記(四)」夜蕾亭雜記(五)」疎開以前のこと」疎開日記抄(一)」疎開日記抄(二)」雪の下にて」慶喜公謹慎の間」画室の反抗一あの頃のこと一」老鶯」

kg: 鏡花全集 月報

鑄木清方、『鏡花全集 月報』(非売品)岩波書店、1986年12月

*所収文章:「思ひ出今昔」

k4g: 鏡花全集 四 月報

k28: 鏡花全集 28 卷

泉鏡太郎『鏡花全集 卷二十八』岩波書店、昭和17年11月

*所収文章: 泉鏡花「健ちゃん大出来！」

kt: 巨匠との対話

河北倫明『巨匠との対話』春秋社、1984年4月

*所収文章鑄木清方・安田靉彦、司会:河北倫明「明治・大正の美術界」

- kz:新装一きもの随筆
『新装一きもの随筆』双雅房、1938年
*所収文章:「木綿」「ゆかた」
- nk:文学に見る日本の川
高見順編『文学に見る日本の川—隅田川—』日本週報社、1960年8月
*所収文章:「隅田川西岸」(浅茅ヶ原・化地蔵・妙亀塚・蘆の芽・新江東図説)
- n32:日本美術院百年史 三巻下(資料編)
日本美術院百年史編集委員会編『日本美術院百年史 三巻 下 [資料編]』、日本美術院、1992年9月
*所収文章:「ある友へ、龍岡町から」、「金鈴社以前」、川合玉堂・鑷木清方・村雲大樸子・藤森順三「玉堂・清方閑談会」、出席者:鑷木清方・坂崎坦・安田鞞彦・結城素明・松林桂月・溝口禎次郎「明治時代の日本画界を語る(座談会)」、鑷木清方・安田鞞彦、司会:河北倫明「明治・大正の美術界」、鑷木清方、北川桃雄・藤本韶三(ききて)「むかしがたり — 鑷木清方氏」、坂井犀水「新時代の作家(8) 鑷木清方氏」、安田鞞彦「感じたまま(鑷木清方氏を語る)」
- rs:連翹
鑷木清方『連翹』大雅堂、1943年7月
*所収文章:「雨声」「昔の人」「連翹」「藤懸博士の肖像」「写像後記」「兎と萬年青」「兎後談」(附記)「武内桂舟先生」「凡人凡語」「一葉」「歴史のある顔」「松園女史に寄せる」「築地の河岸」「寮住居」「草の露」「清忠さんのこと」「三つのすがた」「日記」「江東美術園」「秋雨抄」「美と贅沢」「職業の殻」「世間ばなし」「廣重と安治」「隅田川東岸」「毛谷村」「女形」「雪」(上 薄雪「中 深雪」「下 雪晴)／「後記」
- rt:靈華追悼畫集
関如来編集『靈華追悼畫集』(芸術雑誌『関』創刊記念)、会心居、1929年5月
*所収文章「追憶断片」
- sk:四季しのぶ草
鑷木清方『こしかたの記』『四季しのぶ草』(鑷木清方隨筆選集 第1巻)(二冊一組)双雅房、1941年11月
*所収文章:「四季しのぶ草」・「春侘びし」「大橋の白魚」「きいろい花」「褪春記」「菖蒲湯」「団扇と浴衣」「土用前後」「涼床語」「秋」「秋まだ浅き日の記」「からかぜ」「雪」
- ss:清方隨筆選集
鑷木清方『清方隨筆選集』双雅房、1944年9月
*所収文章:「こしかたの記」・「山の手と下町」「築地界限」「銀座」「絵灯籠」「狂言」「新花町の家」「木挽町裏住居」「濱町にみたころ」「牛込夜話」「芝居昔ばなし」「築地川」／「四季しのぶ草」:「春侘びし」「大橋の白魚」「きいろい花」「褪春記」「菖蒲湯」「団扇と浴衣」「土用前後」「涼床語」「秋」「秋まだ浅き日の記」「からかぜ」「雪」／「東なまり」・「ともしび」「緑の雨」「あさがほ」「ジョリイ」「明治の東京語」「入浴」「河岸」「慶喜公謹慎の間—素材素描 上—」「女役者条八—素材素描 下—」「月の絵」「日本髪」「はやりかぜ」「身近近事」／「道中硯」・「東海道を下る」「上方見物」「初旅」「塔の澤浴泉記」「隅田川西岸」(浅茅ヶ原「化地蔵」「妙亀塚」)「蘆の芽」「新江東図説」「地図を彩る」「筆捨松」／「絵具管」・「年方先生に学んだ頃 上中下」「出世作」「絵かき商売」「そぞろごと」「邦画壇の三元老—大観・栖鳳・玉堂—」「常緑有情—上村松園—」「友縁有情—松岡映一—」(「金鈴社」「帝展」「改組、又改組以後)」「溪仙詩情—富田溪仙—」「精進の一生—土田麦仙—」「平野の詩人—森田恒友—」「自然児百穂—平福百穂—」「士大夫の業—吉川靈華—」「恩師のこと—水野年方—」「花鳥のはなし」「しばらくの絵」(明治の挿絵)「挿絵今昔談」／「附記」
- tb:昭和・物故の美術家たち 追悼文集
中島理寿編『昭和・物故の美術家たち 追悼文集』大日本絵画、1990年9月
*所収文章:「先師遺蹟解説」、「嘆き」、「小村さん追想」、「菊池さんのこと」、「金鈴社以前」、小川正隆「鑷木清方さんを悼む」
- tf:木村莊八『東京の風俗』
木村莊八『東京の風俗』毎日新聞社、1949年2月
*所収文章:木村莊八「鑷木さん、雑感」
- tg:築地川
鑷木清方『築地川』書物展望社、1934年10月
*所収文章:泉鏡花「序」／「築地川」「土用前後」「絵かき商売」「菖蒲湯」「ジョリイ」「濡衣」「きいろい花」「如月日記」「目黒の栢庭」「淀の月かみ」「上方見物」「畜犬三日の記」「燈火」「芝居昔ばなし」「大橋の白魚」「年方先生に学んだ頃」「こしかたの記」(—「築地」「木挽町」、二「銀座」「絵燈籠」「狂言)」「邦画壇の三元老—大観・栖鳳・玉堂を語る—」「吉川君を憶ふ」(「画房雜稿」「しばらくの絵」)／「後記」
- ts:褪春記
鑷木清方『褪春記』双雅房、1937年2月
*所収文章:「序」／「あさがほ」「大文字」「秋」「注文帳のぬきかき」「歌舞伎の味」「五世菊五郎を偲ぶ」「そぞろごと」「濱町にみたころ」「えりもと」「涼床語」「ゆかた」「明治の東京語」「雪」「入浴」「河岸」「上野の戦争」「褪春記」「素材素描」(「慶喜公謹慎の間」「女役者条八)」「草雙紙」「麦仙を悼む」「映画と挿絵の関係」「装置今昔」「月の絵」「秋まだ浅き日の記」「並木」「町の鑑賞」「隅田川西岸」(浅茅ヶ原「化地蔵」「妙亀塚)」「美登利の思ひ出」)「續こしかたの記」「劇評(一)」「(作者五郎に望む)」「吉右衛門の清正」「親」を讀む」「水谷見物」「青年競伎」「斬られの仙太)」「劇評(二)」「(新国劇と芸術座)」「通し狂言忠臣蔵」「熊本城の清正」「河合・喜多村・花柳」「青年歌舞伎)」「劇評(三)」「(井上と八重子)」「三代目歌右衛門記念興行」「新国劇の現代物」「河内屋と澤湯屋」「試験室有楽座)」「意義ある競演)」
- yg:安田鞞彦『画想』
安田鞞彦『画想』中央公論美術出版、1982年9月
*所収文章:安田鞞彦「感じたまま(鑷木清方氏を語る)」
- yk:柳小紋
鑷木清方『柳小紋』誠信書房、1943年9月
*所収文章:「庭樹」「前垂」「川越道」「若葉」「小本」「如月小品」「こほろぎ」「母」「冬がまへ」「躰」「露」「鏡花本の装釘」「岡田さんのこと」「阿部さんのこと」「組皿」「雪岱集序」「障子」「東籬小話」「姫街道」「左様なら「都」「鬻さじき」「芝居一家言」「宝船」「夜蕾亭昔話」「志のぶかご」【(一)銀杏返し(二)堀尾老人(三)馬道の師匠】
- zm:隨筆集・明治の東京
鑷木清方著・山田肇編『隨筆集・明治の東京』(岩波文庫)岩波書店、1989年
*所収文章:「五十年前」「心のふるさと」「わが家の歴史」「引越ばなし」「前垂」「伝統」「白足袋」「草双紙」「上野の戦争」「兎と萬年青」「兎後談」「山の手と下町」「母」「新富座」「築地界限」「築地川」「失われた築地川」「築地明石町」「築地の河岸」「銀座」「銀座回想」「初めの志望」「狂言」「新花町の家」「内職」「圓朝と野州の旅をした話」「初旅」「江東の梅を思う」「不二見西行」「歴史のある顔」「交番の焼打」「濱町にいたころ」「濱町河岸回顧」「明治の生活美術寸言」「廣重と安治」「芝居昔ばなし」「明治の東京語」「明治以来東京の名物」「名物無名物」「甘いもの話」／山田肇「後記」
- zt:鑷木清方隨筆集—東京の四季—
鑷木清方著・山田肇編『鑷木清方隨筆集—東京の四季—』(岩波文庫)岩波書店、1987年8月
*所収文章:「春」・「一陽来復」「年始歳暮」「正月の思い出」「かき

ぞめ」「宝船」「春侘びし」「探梅」「如月小品」「庭樹」「雨声」「大橋の
白魚」「花見」「褪春記」「きいろい花」、「夏」・「落葉」「菖蒲湯」「端午」
「緑の雨」「梅雨」「内濠外濠」「紫陽花舎閑話」「つゆあけ」「涼床語」
『朝夕安居』「むぎ湯」「夏の女」「女人夏景」「涼」「野風呂」「あさが
お(一)」「あさがお(二)」「涼味」「ともしび」「団扇と浴衣」「ゆかた
(一)」「ゆかた(二)」「土用前後」「庶民の夏」「郷愁の色」、「秋」・「秋
まだ浅き日の記」「月の絵(一)」「月の絵(二)」「身近近事」「こおろぎ」
「木犀」「秋」「障子」「町の鑑賞」「並木」「東籬小話」「菊」、「冬」・「雁」
「火を懐しむ」「冬かまえ」「冬に向う」「からかぜ」「筑波が見える」「入
浴」「雪」／山田肇「後記」

za: 随筆集・紫陽花舎随筆

鎌木清方著・山田肇選『紫陽花舎随筆』(講談社文芸文庫)講談社、
2018年7月

*所収図版:「築地明石町」「あぢさゐ」「朝涼」

*所収文章:ag 紫陽花舎随筆と同じ

(今西彩子、鎌木祐子)